本庄市埋蔵文化財調査報告書　第40集

山王山遺跡

―Ａ１・Ａ２地点の調査―

２０１４

本庄市教育委員会

序

本庄市は中山道一の繁栄を誇った宿場町として、また国学者塙保己一生誕の地として広く知られています。そのような文化的風土を持つ本庄市は埋蔵文化財にも恵まれ、地下には旧石器時代から近代に至るまで様々な遺跡が眠っています。

本書は本庄市児玉町吉田林に所在する山王山遺跡の発掘調査成果を記録した報告書です。山王山遺跡は生野山丘陵南西の小支丘「山王山」の頂部から北斜面上にかけて位置し、今回の調査では縄文時代の住居跡２軒、集石土坑１基、古墳時代前期の方形周溝墓１基、古墳時代終末から奈良・平安時代の住居跡 11 軒、掘立柱建物跡１棟などが確認されました。縄文時代は前期と中期を中心とし、特に中期前葉の住居跡や集石土坑は市内でも事例の少ない貴重な調査成果となりました。古墳時代前期の方形周溝墓は生野山の北東部にある前方後方型の鷲山古墳とほぼ同じ時期の墓であることがわかりました。また、同じ丘陵上にあり、古墳時代中期の首長墓と考えられている物見塚古墳、生野山将軍塚古墳といった古墳に先行する墓であり、当地域の墓制や古墳の成立を考える上で重要な発見と考えられます。奈良・平安時代の集落は山王山の裾部に位置する同時代の御林下遺跡の一角をなすと考えられ、11 軒の竪穴住居跡をはじめ、多量の土器や石製品・鉄製品など古代集落の様相を解明するための豊富な資料を得ることができました。

本書は、開発などによって失われゆくこれらの貴重な文化遺産を後世に伝え残していくために、記録保存を目的として作成したものであります。今後は学術研究はもとより、郷土の歴史や文化をより深く理解するための一助として多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、文化財の保護に対する深いご理解を賜りました株式会社ナック 代表取締役 寺岡豊彦様をはじめ、調査に際し、様々なご助言やご協力を賜った方々、また、直接作業の労にあたられた皆様に心より御礼申し上げます。

平成 26 年３月

本庄市教育委員会

教育長 茂 木 孝 彦

例　言

1．　本書は、埼玉県本庄市児玉町吉田林 2256-1 番地、935 番地ほかに所在する山王山遺跡（№ 54-041）の発掘調査報告書である。

2．　発掘調査は、株式会社ナック 代表取締役 寺岡豊彦氏が計画する工場建設工事に伴い、事前の記録保存を目的として本庄市教育委員会が実施したものであり、その経費は株式会社ナック 代表取締役 寺岡豊彦氏から本庄市への委託金である。

3．　調査期間は以下の通りである。

　Ａ１地点：自　平成 25 年４月 25 日

　　至　平成 25 年５月 13 日

　Ａ２地点：自　平成 25 年７月２日

　　至　平成 25 年９月 30 日

4．　発掘調査担当者は、本庄市文化財保護課　太田博之・大熊季広・的野善行があたり、発掘調査には有限会社毛野考古学研究所　淺間陽が調査員として専従した。

5．　整理調査期間は、以下の通りである。

　自　平成 25 年 11 月 12 日

　至　平成 26 年３月 13 日

6．　整理および報告書刊行にかかる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。

7．　本書の執筆は、Ⅰを本庄市教育委員会文化財保護課、Ⅱ～Ⅵを淺間が担当し、編集した。

8．　本書に掲載した出土遺物、遺構・遺物の実測図ならびに写真等の資料は、掲載以外の資料を含め、本庄市教育委員会において保管している。

9．　発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々や諸調査機関により御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。（順不同、敬称略）

　株式会社ナック　前田建設工業株式会社　有限会社スミヤ測量　西山由之　寺岡豊彦　墨谷正勝

　中里正憲　山崎芳春　山口逸弘

10．本報の発掘調査、整理調査および報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

山王山遺跡 発掘調査、整理・報告書刊行組織（平成 25 年度）

主体者　本庄市教育委員会	教育長	茂木　孝彦
事務局	事務局長	関和　成昭
文化財保護課	課長	川上　美恵
	副参事兼課長補佐	
	兼歴史民俗資料館長	鈴木　徳雄
	課長補佐兼埋蔵文化財係長	太田　博之
	主幹	恋河内 昭彦
	主査	松澤　浩一
	主任	松本　完
	主査	大熊　季広
	臨時職員	的野　善行

凡　例

1．　本書所収の全体図のＸ・Ｙ座標は世界測地系第Ⅸ系に基づく。単位はｍである。全体図における方位針は座標北を表す。

2．　本書で使用した遺構の略号は以下の通りである。遺物の注記にも下記の記号を使用した。

【遺構】：SI…竪穴住居跡　SB…掘立柱建物跡　SK…土坑　P…ピット（遺構に付属するものはハイフンなしで表記）　SZ…方形周溝墓　SX…性格不明遺構

【遺構図中の略号】：K…撹乱　P…土器　S…石・礫

【遺物】：Ｓｃ…スクレイパー　ＲＦ…リタッチドフレイク

3．　遺構番号は基本的に調査時の番号を使用しているが、Ａ１地点については下記のように振り替えた。

旧 SI-05 →新 SI-03 へ統合

旧 SI-07 →新 SI-05

旧 SI-08 →新 SI-07

4．　本書の実測図で使用した縮尺は以下を基本としているが、それ以外の縮尺を使用した場合は図中に示した。

【遺構図】　全体図…１/200、1/400　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑…1/60　方形周溝墓…1/120

【遺物図】　土器完形・復元個体…1/4、土器破片・弥生土器…1/3、縄文早期の撚糸文土器破片・土製品…1/2　石器…1/1、1/2、1/3

5．　土層と土器・土製品の色調は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著（財）日本色彩研究所）に基づいて表記した。

6．　本書で使用したテフラ記号は以下の通りである。

Ａｓ－Ａ…浅間Ａ軽石（1783 年降下）　Ａｓ－Ｂ…浅間Ｂ軽石（1108 年降下）　Ａｓ－ＹＰ…浅間－板鼻黄色軽石…（約 13,000-14,000 年前降下）　Ａｓ－ＢＰＧｇｒｏｐ…浅間－板鼻褐色軽石群（約 19,000-24,000 年前降下）

7．　本文および遺構一覧表・遺物観察表における計測値は（　）が推定値、［　］が残存値を表す。

8．　本書中の遺物観察表に示した記号は以下のとおりである。

Ａ－法量、Ｂ－成形技法、Ｃ－整形・調整技法、Ｄ－胎土（材質）、Ｅ－色調、Ｆ－残存度、Ｇ－備考、Ｈ－出土位置（層位）

9．　遺構図中の記号は●が土器、▲が石器・石製品・礫、×が鉄製品を表す。

10．　本書で使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外に使用した場合は図中に凡例を示した。

【遺構図】　焼土　粘土　硬化面

【遺物図】　赤彩

目　次

序
例言
凡例
目次

挿図目次
挿表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡周辺の環境……2
　1　地理的環境……2
　2　歴史的環境……3
Ⅲ　調査の方法と経過……5
Ⅳ　基本層序……6
Ⅴ　検出された遺構と遺物……7
　1　遺跡の概要……7
　2　竪穴住居跡……10
　3　掘立柱建物跡・ピット……22
　4　方形周溝墓……25
　5　土坑……28
　6　性格不明遺構……33
　7　埋没谷……34
　8　遺構外出土遺物……35
Ⅵ まとめ ……54

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録
奥付

挿　図　目　次

第１図　埼玉県の地形図
第２図　周辺の遺跡
第３図　基本層序
第４図　調査区位置図
第５図　Ａ１地点調査区全体図
第６図　Ａ２地点調査区全体図
第７図　１号住居跡
第８図　２～７号住居跡
第９図　２～７号住居跡掘り方
第10図　８号住居跡
第11図　８号住居跡カマド
第12図　９号住居跡
第13図　10号住居跡
第14図　11号住居跡
第15図　12号住居跡
第16図　12号住居跡カマド
第17図　13号住居跡
第18図　13号住居跡カマド
第19図　１号掘立柱建物跡
第20図　１号方形周溝墓(1)
第21図　１号方形周溝墓(2)
第22図　１・２・５～10号土坑
第23図　11～21号土坑
第24図　22～33号土坑(1)
第25図　22～33号土坑(2)
第26図　性格不明遺構
第27図　埋没谷
第28図　１・２号住居跡出土遺物
第29図　３・４・５号住居跡出土遺物
第30図　６・８・９・10号住居跡出土遺物
第31図　10・11・12号住居跡出土遺物
第32図　13号住居跡出土遺物(1)
第33図　13号住居跡出土遺物(2)
第34図　13号住居跡(3)、１号掘立柱建物跡、９号ピット、１号方形周溝墓、５～７号土坑出土遺物
第35図　11・17・18・21～25・30・32号土坑出土遺物
第36図　遺構外出土遺物（１）
第37図　遺構外出土遺物（２）

挿　表　目　次

表１　ピット一覧表(1)
表２　ピット一覧表(2)
表３　土坑一覧表(1)
表４　土坑一覧表(2)
表５　１～４号住居跡出土遺物観察表
表６　４～10号住居跡出土遺物観察表
表７　11～13号住居跡出土遺物観察表
表８　13号住居跡、１号方形周溝墓、５号土坑出土遺物観察表
表９　７・11・17・18・21～25・30・32号土坑出土遺物観察表
表10　32号土坑、１号掘立柱建物跡、９号ピット、遺構外(1)出土遺物観察表
表11　遺構外(2)出土遺物観察表
表12　遺構外(3)出土遺物観察表
表13　山王山遺跡出土石器類・石製品集計表

写真図版目次

写真図版１　山王山遺跡周辺の景観、遺跡遠景
写真図版２　Ａ１地点 調査区全景、Ａ２地点 調査区全景
写真図版３　Ａ１地点 SI-01(全景・遺物出土状態)、SI-02～07全景
写真図版４　Ａ１地点 SI-02～07(全景・遺物出土状態)
写真図版５　Ａ１地点 SI-02～07(掘り方全景・遺物出土状態)
写真図版６　Ａ２地点 SI-08～10(全景・カマド全景・遺物出土状態)
写真図版７　Ａ２地点 SI-11・12(全景・カマド全景・遺物出土状態)
写真図版８　Ａ２地点 SI-13(全景・カマド全景・遺物出土状態・煙道埋設甕検出状態)
写真図版９　Ａ２地点 SI-13(掘り方全景)、SB-01(全景)、ピット群・SZ-01(全景)
写真図版10　Ａ２地点 SZ-01(全景・セクション)、SK-05(全景・セクション・礫検出状態)
写真図版11　Ａ２地点 SK-05～07・11・12・14(全景・敷設礫検出状態)
写真図版12　Ａ２地点 SK-17・22・23・28・30・32・35・38(全景)
写真図版13　Ａ２地点 SK-41、土坑群、SX-01（全景)、Ａ２地点 埋没谷（セクション)、Ａ１・Ａ２地点 基本土層（セクション)、Ａ２地点 旧石器トレンチ(セクション)、調査風景
写真図版14　１～３号住居跡出土遺物
写真図版15　４～６・８号住居跡出土遺物
写真図版16　９～11号住居跡出土遺物
写真図版17　12号住居跡出土遺物、13号住居跡出土遺物(1)
写真図版18　13号住居跡出土遺物(2)
写真図版19　13号住居跡出土遺物(3)、１号掘立柱建物跡出土遺物、９号ピット出土遺物、１号方形周溝墓出土遺物、５～７号土坑出土遺物
写真図版20　11・17・18・21～25・30・32号土坑出土遺物
写真図版21　遺構外出土遺物(1)
写真図版22　遺構外出土遺物(2)

Ⅰ　調査に至る経緯

平成24年12月11日、株式会社ナック　代表取締役寺岡豊彦氏より本庄市児玉町吉田林935番地他の土地、4,842.01㎡に工場用地のための進入路建設工事の計画があり、これにかかる『埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。これを受け、市教育委員会は埼玉県教育委員会発行の『本庄市遺跡分布地図』をもとに、同地が埋蔵文化財包蔵地に該当しているかどうか、確認を行った。これにより、照会時点では周知の埋蔵文化財包蔵地　御林下遺跡（県遺跡番号54-041）が所在することが判明した。

御林下遺跡では、過去に3次にわたる発掘調査が行われ、そのうち、埼玉県埋蔵文化財調査事業団の調査では奈良・平安時代を中心とする竪穴住居跡7軒等が、埼玉県教育委員会の調査でも奈良・平安時代を中心とする竪穴住居跡5軒等が検出されている。これらのことから、当該開発予定地においても埋蔵文化財が所在する可能性は高く、本庄市教育委員会では遺跡保護のための基礎資料を得るために試掘調査を行うこととし、平成25年2月4日～2月20日に現地調査を実施した。その結果、開発予定地のうち、北側の大部分で竪穴住居跡等の埋蔵文化財を検出した。

また、平成25年2月15日、株式会社ナックより本庄市児玉町児玉字山王2256番地1他の土地、25,565.66㎡に工場建設工事の計画が決定し、これにかかる『埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。この部分についても、前述の御林下遺跡（県遺跡番号54-041）が所在することが判明した。

この工場予定地部分では、平成2年度に別の事業者による開発計画があり、その際に児玉町教育委員会（当時）が試掘調査を実施しており、埋蔵文化財が所在する可能性がある範囲が絞られている。その範囲のうち、工場建設の工事の影響が及ぶ範囲について、本庄市教育委員会による試掘調査を実施した。現地調査は平成25年3月12日～3月19日に実施され、古代の竪穴住居跡等が検出された。

本庄市教育委員会は、以上の試掘調査の成果に基づき『埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて』を回答するとともに、1．協議のあった土地については、周知の埋蔵文化財包蔵地である御林下遺跡が所在することから現状保存が望ましいこと、2．やむを得ず現状変更を実施する場合には、文化財保護法第93条第1項の規定により、『埋蔵文化財発掘の届出』を埼玉県教育委員会に提出すること、3．『埋蔵文化財発掘の届出』を提出の後は、埼玉県教育委員会の指示に従い当該埋蔵文化財の保護に万全を期すこと、4．本回答後は、関係機関との協議を徹底することとの旨を通知した。

その後、事業主体者と本庄市教育委員会は、先の試掘調査結果等をふまえ協議を行ったが、事業計画上、他に適地が無く、試掘調査で埋蔵文化財が検出された部分に関してはやむを得ず発掘調査を実施し記録保存することとなった。

平成24年12月11日付および平成25年2月15日付で、事業主体者より『埋蔵文化財発掘の届出』が提出され、本庄市教育委員会では、同届出を平成25年4月10日付本教文発第22号および平成25年4月9日付本教文発第9号で埼玉県教育委員会あてに進達し、また平成25年4月19日付け本教文発第31号で本庄市教育委員会教育長から『埋蔵文化財発掘調査の通知』が埼玉県教育委員会教育長に提出された。平成25年5月7日付教生文第4-1643号および同日付第4-1644号で埼玉県教育委員会より『周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について』の通知があった。なお、御林下遺跡を山王山遺跡として変更した経緯は第Ⅴ章第1節を参照されたい。

（本庄市教育委員会事務局）

Ⅱ　遺跡周辺の環境

1　地理的環境

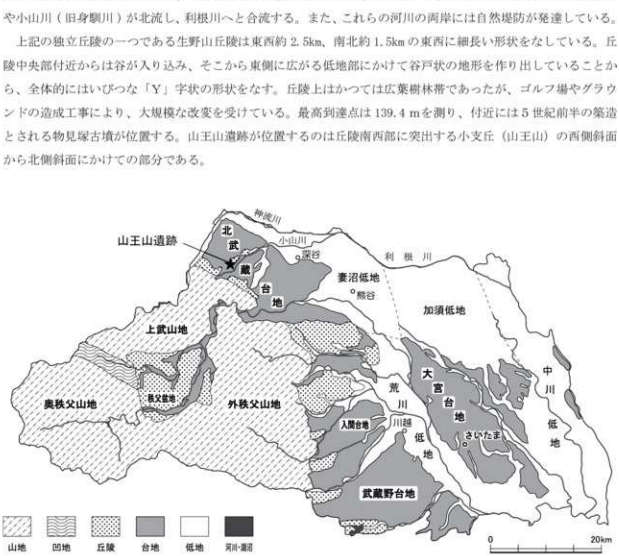
埼玉県の北西部に位置する本庄市域の地形は北から烏川低地、本庄台地、児玉丘陵、上武山地に大きく区分することができる。

烏川低地は烏川や利根川の氾濫原であり、利根川に沿って展開し、熊谷市域の妻沼低地へと連なる。この低地帯を国道17号線が北西－南東方向に走っている。昭和50年ごろの圃場整備により平坦な地形へと改変される以前の烏川低地には、烏川・利根川の流路跡がいくつも残っており、起伏のある微地形であったことが当時の地形図から読み取れる。

本庄台地は洪積世末期に形成された神流川扇状地面に相当する。台地の末端部は東流する元小山川などの浸食が低地との比高差4ｍ～12ｍの崖線を作り出しており、これが低地と台地の境界線となっている。

上武山地から連なる児玉丘陵は神流川の堆積作用により低位のものは埋没し、標高の高い浅見山丘陵（大久保山）や生野山丘陵が取り残され、これらは独立丘陵となっている。この独立丘陵の東西には女堀川（旧赤根川）や小山川（旧身馴川）が北流し、利根川へと合流する。また、これらの河川の両岸には自然堤防が発達している。

上記の独立丘陵の一つである生野山丘陵は東西約2.5km、南北約1.5kmの東西に細長い形状をなしている。丘陵中央部付近からは谷が入り込み、そこから東側に広がる低地部にかけて谷戸状の地形を作り出していることから、全体的にはいびつな「Ｙ」字状の形状をなす。丘陵上はかつては広葉樹林帯であったが、ゴルフ場やグラウンドの造成工事により、大規模な改変を受けている。最高到達点は139.4ｍを測り、付近には5世紀前半の築造とされる物見塚古墳が位置する。山王山遺跡が位置するのは丘陵南西部に突出する小支丘（山王山）の西側斜面から北側斜面にかけての部分である。



第１図　埼玉県の地形図（上が北）

2　歴史的環境

本遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺構が主として検出されたことから、これらの時代を中心に本遺跡周辺の遺跡について概観する。旧石器時代の調査は浅見山丘陵における調査例が最も成果を上げている。同丘陵上に占地する浅見山Ⅰ遺跡では立川ローム最上部層に同定されるⅣ層中からナイフ形石器を主体とする石器群が検出され、北方系細石刃石器群に特徴的である荒谷型彫刻刀形石器も含まれていることが明らかにされている（松本ほか2009）。

縄文時代草創期から早期の遺跡は丘陵地帯や山間部に小規模な遺物が集中する状況であり、由宿勝寺北裏遺跡（中東 1993）では爪型文系、撚糸文系の土器、浅見山Ⅰ遺跡では撚糸文系・押型文系・貝殻沈線文系・貝殻条痕文系土器の各時期の遺物が検出されている。また、山間部でも零細な資料が検出されており、この時期の占地が高所に偏ることが窺える。

縄文前期では竪穴住居跡を伴う集落の増加が認められる。上武山地に接する児玉丘陵上に占地する宮内上ノ原遺跡（松沢 2005、宮田 2008）では前期初頭から終末期までの各時期の遺構・遺物が検出されており、塩谷下大塚遺跡（恋河内 1990）では有尾式期、大久保山遺跡ⅢＣ区（昆 2001）では諸磯式後半期の集落が確認されている。このように児玉丘陵やその残丘上には比較的濃密に前期集落が展開している。

一方で、縄文前期末葉から中期前葉には再び零細な資料を検出するに過ぎない状況へと変化している。五領ヶ台式～阿玉台Ⅰａ式期の遺構は確認できず、阿玉台Ⅰｂ式以降、竪穴住居を伴う小規模な集落が増加する。塔ノ入遺跡（鈴木ほか2007a）や美里町広木上ノ宿遺跡（上田 1997）は上武山地の山間や児玉丘陵上にあり、前期以来の伝統的な占地形態を呈している。このような中で阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式の住居跡５軒が検出された児玉大天白遺跡（浅間 2010）は生野山丘陵南側の低地に占地し、やや異質な傾向を示すが、勝坂式終末以降、本庄台地面に将藍塚遺跡（石塚ほか1986）、古井戸遺跡（宮井ほか1989）、新宮遺跡（恋河内 1995a、宮田・高橋 2011）等の大規模な環状集落が発達する一方で小規模な集落は特定の地形区分に偏らない分布を示していることから、中期後半以降に顕著になる低地帯への進出をいち早く示す遺跡として注意される。

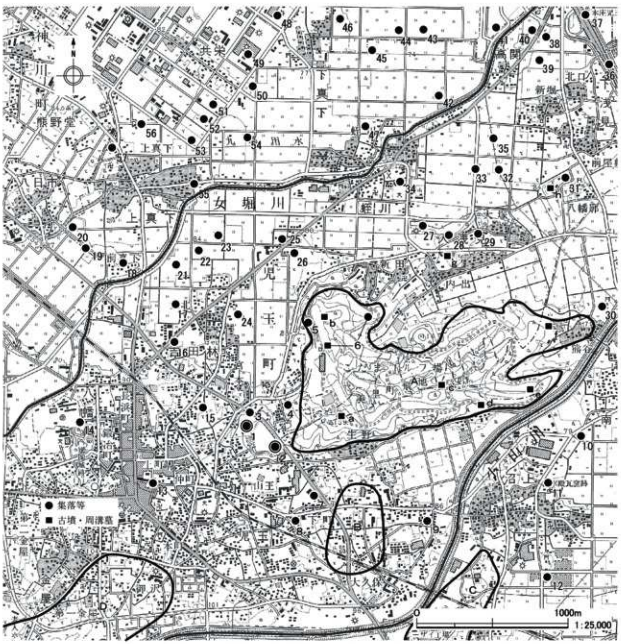
加曽利ＥⅢ式以降、本庄台地上の環状集落は解体および小規模分散化し、低地への進出傾向を強めるが、縄文後・晩期においてもその傾向が継続する。後期では女堀川右岸の低地帯で称名寺式期の土坑が検出された南街道遺跡（恋河内 1996）、堀之内式期の敷石住居が検出された女池遺跡（恋河内 2001・2004）等が確認できる。また、児玉清水遺跡Ｂ地点（鈴木ほか2007b･c）では縄文晩期前葉の天神原式期を中心とする遺物が検出されている。この遺跡は生野山丘陵南側の湧水点である「清水池」や「思池」に隣接している。女池遺跡なども同様に湧水点を近くに控えた占地であり、このような占地形態は主にトチの実などの堅果類をアク抜きする水さらし場としての利用方法と密接に関連しており、縄文後晩期にきわめて特徴的な占地形態であることが指摘されている（鈴木ほか2007b･c）。晩期後半以降の遺跡分布は神流川上流域の河岸段丘上に位置する平（下河久原平）遺跡（矢内ほか2007）や上武山地の塔ノ入遺跡など山間部に偏り、弥生前期末葉以降に再び、低地帯へ進出する傾向が強まる。

弥生時代中期までの遺跡は非常に少なく、本庄市域においては遺物が少量検出される遺跡が大半である。本庄台地北側縁辺部の低地に占地する小島本伝遺跡（太田 2009）や同じく南側に松久丘陵を控えた低地帯に占地する秋山大町遺跡Ｂ地点（宮本 2010）などが縄文後晩期的な占地傾向を示す一方で、浅見山Ⅰ遺跡等の丘陵上にも弥生中期中葉を主体とする小規模な遺物の集中が見られ、縄文後晩期に比して特定の地形へ分布が偏在することはないようである。明確な遺構を伴う弥生後期以降の集落は谷戸状の低地を控えた占地が特徴的であり、大久保山遺跡などの例から小規模な集落であったと推定される。

古墳時代の集落は一転して爆発的な増加傾向を示す。現在の関越道本庄児玉インターチェンジ付近の低地帯に占地する後張遺跡群では古墳前期から灌漑水田を伴うとみられる大規模な集落形成が認められる。東側のＪＲ本庄早稲田駅周辺にある久下前遺跡、久下東遺跡、北堀久下塚遺跡等も同様の集落と考えられ、これらの遺跡群の

南東側に控える浅見山丘陵上では浅見山Ⅰ遺跡等で古墳前期の方形周溝墓群が検出されており、おそらく上記集落の墓域と考えられる（松本ほか2009）。これらは古墳時代後期まで継続的かつ大規模な集落経営が認められる。

このような集落の増加傾向は各地でみられ、これに呼応するように丘陵上や河川の自然堤防上には多数の古墳群が形成される。本遺跡をのせる生野山丘陵上やその周辺でも前方後方墳である鷲山古墳が４世紀中ごろに築造されるのをはじめ、５世紀前半の円墳で造り出しを有する物見塚古墳、５世紀中葉の生野山将軍塚古墳等、首長墓とみられる古墳が継続的に作られることは特筆される。また、西側の低地帯には高縄田遺跡（恵河内 1995）、南街道遺跡（恵河内 1996）、女池遺跡などで中期から後期の集落が調査されており、低地の開発が本遺跡周辺で



１．山王山Ａ１　２．山王山Ａ２　３．御林下　４．阿知越　５．吉田林割山　６．生野山　７．児玉清水　８．児玉大天白　９．児玉大久保　10．樋之口　11．水殿瓦窯跡　12．宮下　13．児玉仲町　14．八幡山埴輪窯跡　15．女池　16．児玉条里堂ノ下地点　17．高縄田　18．金佐奈　19．反り町　20．八荒神　21．樋越　22．鶴蒔　23．石橋　24．宮田　25．辻堂　26．南街道　27．日延　28．城の内　29．新屋敷　30．宮ヶ谷戸　31．鷲山　32．浅見墳　33．東田　34．共和小学校校庭　35．浅見墳北　36．飯玉東　37．後張　38．梅沢　39．東枚分　40．川越田　41．今井川越田　42．柿島　43．前田甲　44．藤塚　45．堀向　46．将軍塚東　47．左口　48．将軍塚　49．古井戸　50．平塚　51．古井戸南　52．塚高　53．新宮　54．中下田　55．上真下東　56．辻ノ内　57．真下堺　Ａ．生野山古墳群　Ｂ．下大町大久保古墳群　Ｃ．広木大町古墳群　Ｄ．長沖古墳群　ａ．物見塚古墳　ｂ．生野山銚子塚古墳　ｃ．生野山将軍塚古墳　ｄ．生野山９号墳　ｅ．生野山16号墳　ｆ．熊谷後１号墳　ｇ．金鑽神社古墳　ｈ．鷲山古墳

第２図　周辺の遺跡

も盛んに行なわれていたことが窺える。なお、古墳前期の集落については生野山丘陵上の生野山遺跡や吉田林割山遺跡（鈴木・尾内 2007）で小規模な集落が検出されている以外は、明確な集落が発見されていない。

奈良・平安時代の集落は大規模な集落経営が行われた古墳後期以降に解体し、分散化することが指摘されている。生野山丘陵においては西側の裾部に展開する御林下遺跡（駒宮ほか 1977、利根川 1998）、阿知越遺跡（鈴木 1983・1984、山本 2012）等で 7 世紀後半から 10 世紀にかけての集落が低地帯を取り囲むように展開し、本遺跡もそれらの遺跡群の一角をなすと考えられる。

Ⅲ　調査の方法と経過

(1) 発掘調査の方法

発掘調査にあたっては鋤簾による遺構精査を行った後、各遺構について土層観察用のベルトを残しながら移植ゴテを用いて掘削を行った。調査の進捗状況ごとに随時写真撮影を行ない、平面図・断面図の作成もあわせて行なった。遺構平面図の作成にはトータルステーションを使用し、断面図は手実測によって作成した。出土遺物はトータルステーションによって平面位置や標高を記録して取り上げ、微細な遺物に関しては可能な限り、簡易な出土位置を記録して取り上げた。遺構の写真撮影には 1,000 万画素相当のデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS Kiss X4）を使用し、調査区全景写真の撮影は高所作業車上から実施した。

(2) 整理調査の方法

遺構図面は修正を加えたのち、各遺構ごとに Adobe illustrator CS2 を用いてデジタルトレースを行なった。出土遺物は洗浄・注記作業を行ったのち、遺構単位で土器を中心に接合作業および実測個体の抽出作業を実施した。なお、遺物の注記には整理時の混乱をさけるため旧遺構番号を使用し、実測番号については変更後のものを使用することとした。接合にはセメダインＣを使用し、アボキシ系樹脂により補強を行なった。遺物の写真撮影には 1,000 万画素相当のデジタル一眼レフカメラ（Nikon D7000）を使用した。写真撮影の完了後、遺物の実測・ロットリングペンによるトレース作業を実施した。また、トレース図はスキャニングを行ないデジタルデータに変換した。これらの図面・写真・原稿を Adobe InDesign CS2 によって編集した。

(3) 発掘調査の経過

平成 25 年 4 月 25 日：Ａ１地点の調査を開始する。遺構確認作業と住居跡の掘削。安全対策。26 日：住居跡の掘削。基準杭打設。５月１日：住居跡の掘削。土層断面の記録作業。遺物出土状況の写真撮影及び遺物の取り上げ。基準杭の設置及び遺構の平面測量。２日～ 13 日：重複する住居跡 SI-02 ～ 07 の調査。掘り方調査。調査区南壁及び東壁の土層記録作業。土坑・ピットの掘削。遺構平面図・コンター図作成。遺物の取り上げ。器材撤収を行い、Ａ１地点の調査が完了。７月２日：Ａ２地点の調査開始。重機による表土除去（～ 17 日）。15 日：ネットフェンスの設置等安全対策を行なう。17 日：作業員を本格的に動員し、上部平坦面の根切り作業・遺構精査を開始する（～ 19 日）。22 日：方形周溝墓 SZ-01 の調査を開始（～８月７日）。８月６日：上部平坦面の住居跡 SI-08・09 の調査（～ 27 日）。８月 13 ～ 16 日：お盆休み。27 日：上部平坦面の調査が終了し、斜面部の遺構掘削に着手する。その間、随時根切り作業・遺構精査を行なう。９月２日：下部平坦面 SI-11 ～ 13 の調査と遺構精査を並行して行なう。19 日：下部平坦面の調査が終了し、高所作業車から調査区全景写真の撮影を実施。以降、30 日までSI-08･10 ～ 13 の掘り方調査と旧石器時代の遺物検出を目的としてトレンチ調査を行なう。30 日：器材の撤収が完了し、Ａ２地点の調査が終了する。

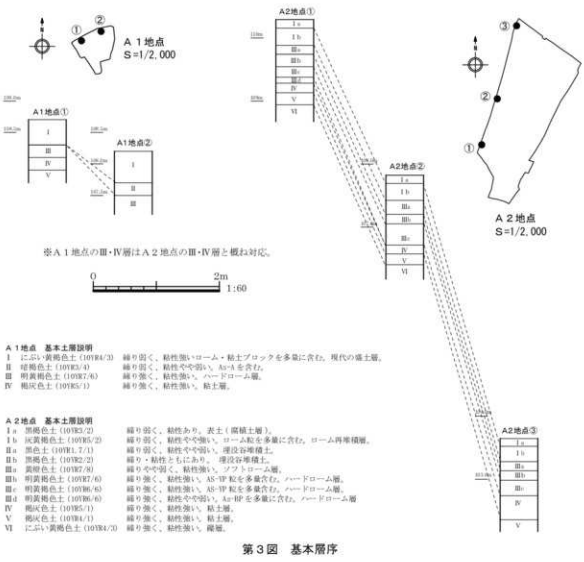
(4) 整理調査の経過

平成 25 年 12 月 2 日：遺構図の修正、出土遺物の水洗い・注記作業（～ 28 日）。平成 26 年 1 月 6 日接合作業開始(～24 日)。1 月 27 日遺物写真撮影の開始（～ 31 日）。遺物実測作業開始（～ 2 月 7 日）。並行してトレース・版組および編集作業を行なう（ 2 月 14 日）。2 月 14 日：原稿を入稿し、以降、校正作業を行なう。3 月 13：印刷製本作業が完了し、納本を行なった。

Ⅳ　基本層序

Ａ１地点の基本土層はⅠ層（現代の盛土層）、Ⅱ層（浅間Ａ軽石混入土層）、Ⅲ層（ハードローム層）、Ⅳ層（粘土層）であり、大部分は削平を受けている。遺構確認面はⅢ層上面とした。

Ａ２地点の基本土層はⅠ層（表土層）、Ⅱ層（黒色土）、Ⅲ層（ローム層）、Ⅳ・Ⅴ層（粘土層）、Ⅵ層（礫層）の６層に大別される。このうちⅡ層は下部平坦面中央部のみで確認され、浅い谷状の地形に堆積している。また、Ⅲ層下部（ハードローム）中に浅間－板鼻黄色軽石 (As-YP)、Ⅳ層上面には浅間－板鼻褐色軽石群 (As-BP group) が確認されたが、As-BP group は斜面部・下部平坦面のトレンチでは検出されなかった。遺構確認面はⅡ層上面で確認された SI-11 を除いて、Ⅲ層上面を基本としている。

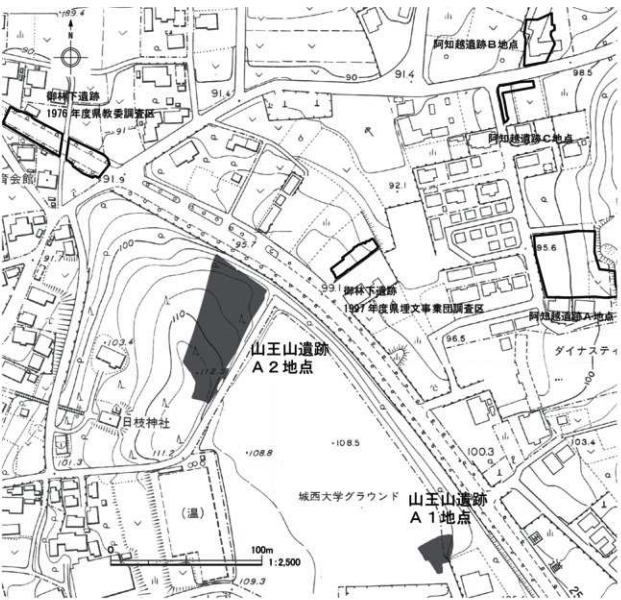


第３図　基本層序

Ⅴ　検出された遺構と遺物

1　遺跡の概要

山王山遺跡は生野山丘陵南西部に突出する「山王山」上に位置し、山王山と生野山の間には北西－南東方向に谷が入り込んでおり、谷上には現在国道 254 号線が走っている。第Ⅰ章で述べたように、平成 24 年度に事業主である株式会社ナックから埋蔵文化財についての照会があり、同年度中に試掘調査、翌 25 年度に発掘調査が行われた。当該地は縄文時代～平安時代の集落跡である御林下遺跡（県遺跡番号 54-041）として遺跡地図に記載されていたが、この遺跡の北西側に隣接する遺跡についても同名の御林下遺跡（県遺跡番号 54-269）として記載されていた。名称や遺跡の性格を再検討した結果、この両遺跡について文化財保護法第 95 条の規定に基づき変更増補を行うこととし、県遺跡番号 54-041 について遺跡名を新たに山王山遺跡と登録し、その範囲は概ね標高 100m より高い丘陵上部に限定することとした。また、今回の発掘調査の成果を踏まえ、山王山遺跡は「旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代」の「集落と方形周溝墓」とする変更を行った。変更年月日は平成 25 年 10



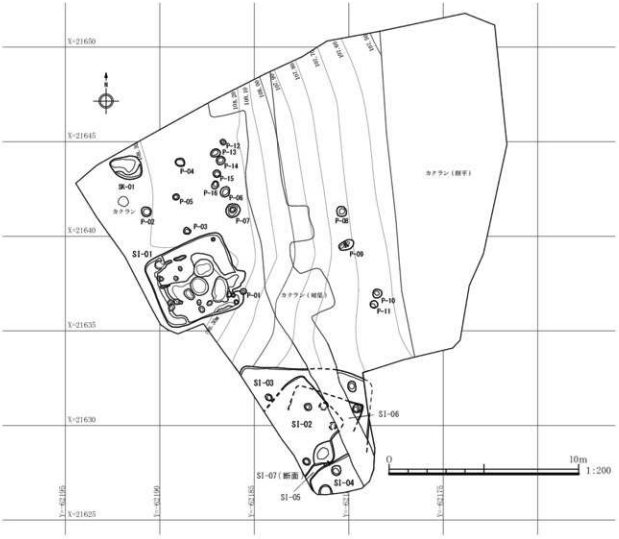
第４図　調査区位置図

月２日とし、同日付本教文発第 201 号にて埼玉県教育委員会教育長宛で提出した。なお、発掘調査時は「御林下遺跡」のまま調査を実施し、Ａ１地点をＤ１地点、Ａ２地点をＤ２地点と呼称していたが、本報告で「山王山遺跡Ａ１・Ａ２地点」として改めて報告を行なう。なお、遺物の注記にも新規の遺跡名・地点名を適用した。

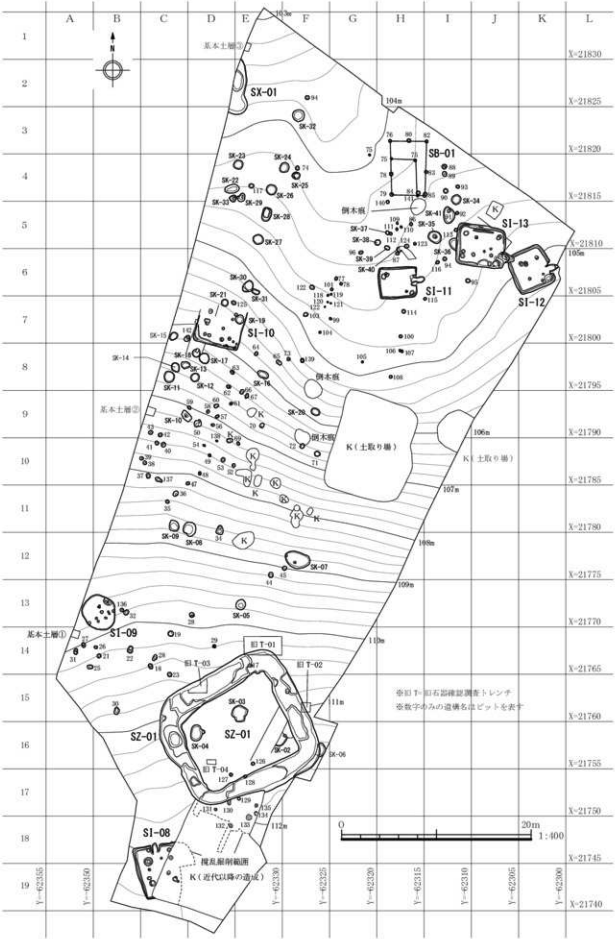
本遺跡の調査区は北東側斜面に位置するＡ１地点と西側の尾根上に位置するＡ２地点に分かれる。Ａ１地点は現況がグラウンド跡地であり、大規模な削平によって平坦な地形へと改変されているが、斜面側には削平が及んでいない。また、Ａ２地点は現況が山林であり、一部近・現代の土取りや造成による撹乱を受けているものの、ほぼ旧地形をとどめている。Ａ２地点の微地形は最も標高の高い南側の平坦面（上部平坦面）、中央の斜面部、北側の下部平坦面に区分が可能であり、南側から北側に向かって急激に傾斜している。比高差は最大で 10 mほどである。

検出された遺構数は両地点合計で竪穴住居跡 13 軒、掘立柱建物跡１棟、方形周溝墓１基、土坑 41 基、ピット 135 基である。竪穴住居跡の内訳は縄文時代前期後半（諸磯ａ式期）１軒、中期前葉～中葉（五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰａ式期）１軒、古墳時代終末～奈良・平安時代（７世紀後半～９世紀後半）が 11 軒である。

縄文時代の遺構はＡ２地点の西側斜面際に偏り、南西－北東方向に列状に展開する。一方で古墳時代終末から平安時代の遺構はＡ１地点とＡ２地点北東部の下部平坦面に集中する。また、古墳時代の方形周溝墓は調査区内で最も標高の高いＡ２地点の上部平坦面に立地するなど、時代によって異なる占地傾向が認められる。

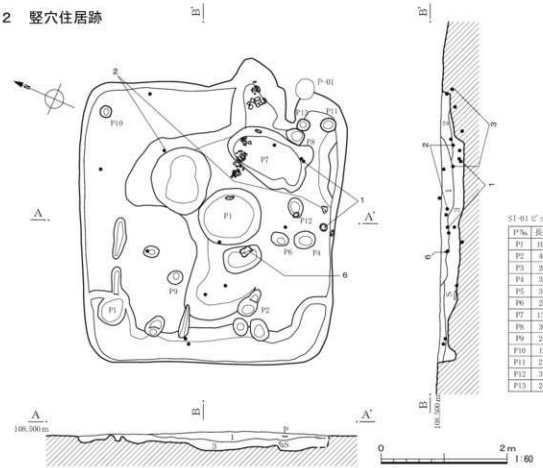


第５図　Ａ１地点調査区全体図



第６図　Ａ２地点調査区全体図

2　竪穴住居跡

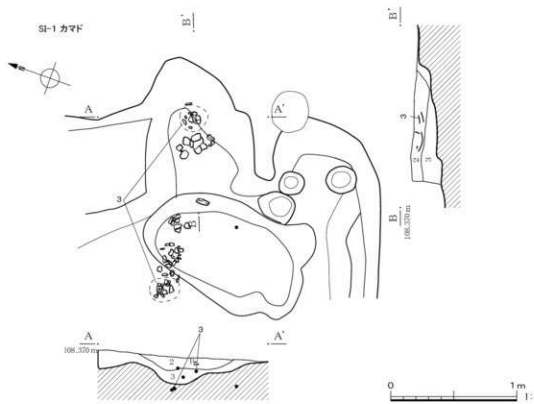


SI-01 ピット計測表 (cm)

P No.	長軸	短軸	深さ
P1	100	89	15
P2	48	28	33
P3	26	18	22
P4	33	28	26
P5	34	23	27
P6	28	21	22
P7	132	78	237
P8	30	23	18
P9	25	20	20
P10	19	19	8
P11	23	22	18
P12	32	23	20
P13	20	20	39

1号住居跡土層説明

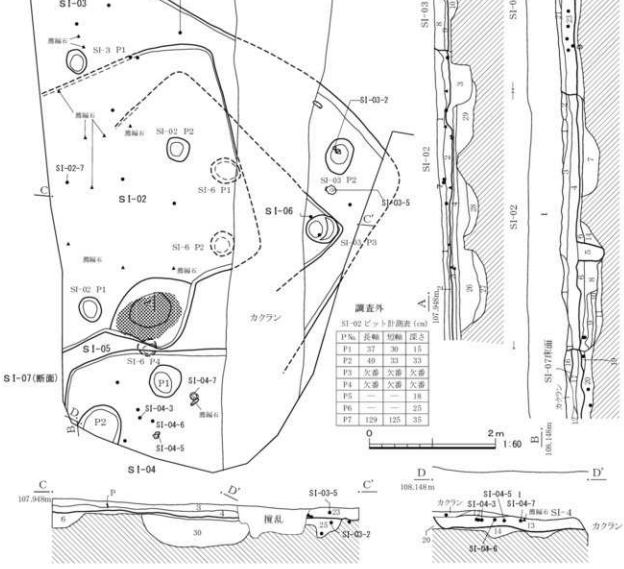
1．にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり強く、粘性やや強い。0.5～1.5cm大炭化物中量、焼土粒少量含む。
2．褐色土（10YR4/4）締まり強く、粘性やや強い。ローム粒中量含む。
3．褐色土（10YR4/6）締まり強く、粘性強い。0.5～1cm大ロームブロック中量、0.5～1cm大炭化物、焼土粒微量含む。



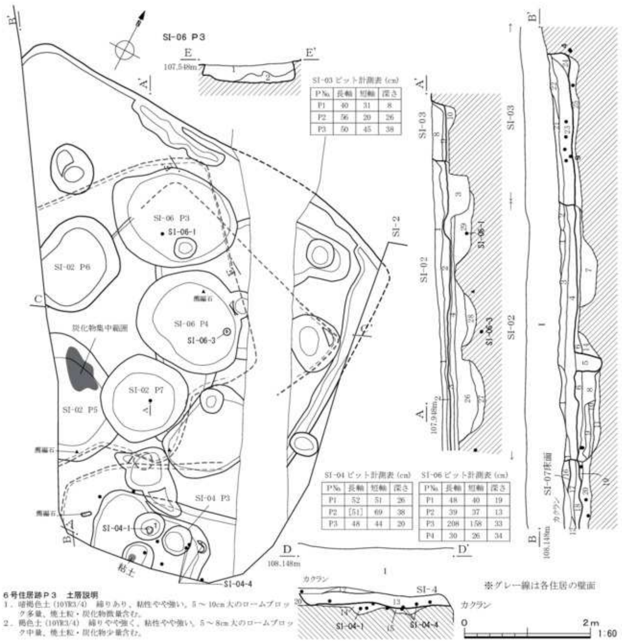
第７図　１号住居跡

１号住居跡（SI-01）（第７･28 図、表５/写真図版３・14）

位置：Ａ１地点北側に位置する。**重複**：なし。**形態・規模**：平面形態は方形基調である。主軸方位Ｎ－83°－Ｅを指す。規模は、長軸 4.41 m、短軸 4.23 m を測る。残存深度は 12～35 ㎝である。壁面はやや急に傾斜して立ち上がる。床面はローム粒子を多く含む褐色土を主体とし、粒径の小さいロームブロックを少量含む。**覆土**：後世の転圧等の影響により、非常に硬く締まっている。１・２層以下は掘り方の覆土であるため、人為堆積と考えられる。**柱穴**：ピットは掘り方で、計 17 基検出された。このうちP1・8 は床下土坑と考えられる。主柱穴の配置は明らかにできなかった。**カマド**:東壁に敷設する。袖は基部のみ残存しており、天井部は残存していなかった。**遺物**：カマドとその周辺から３の土師器甕などが比較的まとまって遺物が出土しているが、いずれも細片である。南壁際では床面直上と考えられる高さで１の土師器坏が正位の状態で出土した。**所見**：調査時には床面が削平されているものと判断して調査を進めたが、遺物の出土状況などから１・２層以下が貼床の構築土と考えら



第８図　２～７号住居跡



SI-03 ピット計測表 (cm)

P No.	長軸	短軸	深さ
P1	40	31	8
P2	56	20	26
P3	50	45	38

SI-04 ピット計測表 (cm)

P No.	長軸	短軸	深さ
P1	52	51	26
P2	[51]	69	38
P3	48	44	29

SI-06 ピット計測表 (cm)

P No.	長軸	短軸	深さ
P1	48	40	19
P2	39	37	13
P3	208	158	33
P4	30	26	34

6号住居跡P3　土層説明

1．暗褐色土 (10YR3/4)　締りあり，粘性やや強い。5～10cm大のロームブロック多量、焼土粒・炭化物微量含む。
2．褐色土 (10YR3/4)　締りやや強く，粘性やや強い。5～8cm大のロームブロック中量、焼土粒・炭化物少量含む。

2～7号住居跡　土層説明

1．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりあり。粘性あり。ローム粒微量、1～4cm大ロームブロック中量含む。SI-02覆土。
2．暗褐色土 (10YR3/3)　締まり強く。粘性あり。ローム粒微量、炭化物微量、焼土粒微量含む。SI-02覆土。
3．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりあり，粘性あり。ローム粒少量，1cm大ロームブロック少量、炭化物微量、焼土粒微量含む。SI-02覆土。
4．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりやや弱く，粘性あり。ローム粒少量，1～2cm大ロームブロック少量、炭化物微量、焼土粒微量含む。SI-02覆土。
5．暗褐色土 (7.5YR3/3)　締まりやや弱く，粘性強い。ローム粒中量，1～2cm大ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒少量含む。SI-02ピット覆土。
6．暗褐色土 (7.5YR3/4)　締まりやや強く，粘性やや強い。ローム粒中量，1～2cm大ロームブロック多量、炭化粒少量、焼土粒少量含む。SI-02掘り方覆土。
7．暗褐色土 (7.5YR3/4)　締まりやや弱く，粘性強い。ローム粒多量，1～2cm大ロームブロック多量、炭化粒微量、焼土粒少量含む。SI-02掘り方覆土。
8．暗褐色土 (7.5YR3/3) 締まりあり，粘性強い。ローム粒多量、1～3cm大ロームブロック大量、炭化物微量、焼土粒少量、粘土多量含む。SI-02掘り方覆土。
9．褐灰色土 (10YR6/1)　締まりやや弱く，粘性強い。ローム粒微量，1cm大少量，焼土粒大量、粘土多量含む。SI-02掘り方覆土。
10．暗褐色土 (7.5YR3/3)　締まりやや弱く，粘性強い。ローム粒中量，2cm大ロームブロック大量、焼土粒少量、粘土少量含む。SI-02掘り方覆土。
11．褐灰色土 (10YR6/1)　締まりやや弱く，粘性強い。ローム粒微量，1cm大ロームブロック微量、焼土粒大量、粘土多量含む。SI-02掘り方覆土。
12．黒褐色土 (10YR2/3)　締まり強く，粘性あり。ローム粒微量，1cm大ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量含む。SI-04覆土。
13．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりやや強く，粘性あり。ローム粒少量，1～3cm大ロームブロック・1～3cm大焼土ブロック中量，炭化物少量含む。SI-04覆土。
14．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりあり，粘性やや強い。ローム粒中量，1～2cm大ロームブロック多量、1cm大焼土ブロック少量含む。SI-04掘り方覆土。
15．暗褐色土 (10YR3/4)　締まり・粘性やや強い。ローム粒中量，1～2cm大ロームブロック多量。SI-04掘り方覆土。
16．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりやや弱く，粘性あり。ローム粒微量含む。SI-07覆土。
17．黄褐色土 (10YR5/6)　締まり強く，粘性強い。ローム粒少量，4cm大ロームブロック大量含む。SI-07掘り方覆土。
18．にぶい黄褐色土 (10YR5/4)　締まりあり，粘性あり。ローム粒少量，1cm大ロームブロック多量含む。SI-05覆土。
19．褐灰色土 (10YR5/1)　締まりやや弱く，粘性やや強い。ローム粒中量，2cm大ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒多量、粘土少量含む。SI-05覆土。
20．灰黄褐色土 (10YR5/2)　締まりあり，粘性やや弱い。ローム粒微量，3cm大ロームブロック多量、焼土粒少量含む。SI-05掘り方覆土。
21．灰黄褐色土 (10YR5/2)　締まりあり，粘性やや弱い。ローム粒微量含む。SI-03覆土。
22．暗褐色土 (10YR3/3)　締まりあり，粘性あり。ローム粒微量含む。SI-03覆土。
23．暗褐色土 (10YR3/4)　締まりあり，粘性あり。ローム粒微量，1cm大ロームブロック少量含む。SI-03覆土。
24．にぶい黄褐色土 (10YR5/3)　締まりあり，粘性やや強い。ローム粒中量，1cm大ロームブロック微量含む。SI-03覆土。
25．にぶい黄褐色土　(10YR6/3)　締まりあり，粘性やや強い。ローム粒多量，1～3cm大ロームブロック中量含む。SI-03掘り方覆土。
26．灰黄褐色土 (10YR5/2)　締まりあり，粘性強い。1cm大ローム・粘土ブロック多量，1cm大焼土ブロック少量含む。人為堆積。SI-02掘り方覆土。
27．褐灰色土 (10YR4/1)　締りあり，粘性強い。1cm大ロームブロック少量，1～3cm大粘土ブロック多量含む。人為堆積。SI-02掘り方覆土。
28．灰黄褐色土 (10YR5/2)　締まりあり，粘性強い。1～5cm大ローム・粘土ブロック大量，1～3cm大焼土ブロック少量含む。SI-02掘り方覆土。
29．SI-06　P6-1層と同じ。人為堆積。SI-06掘り方覆土。
30．黄褐色土 (2.5Y5/4)　締りやや弱く，粘性強い。ローム粒子大量，1～10cm大ロームブロック多量含む。人為堆積。SI-02ないし03掘り方覆土。

第９図　２～７号住居跡掘り方

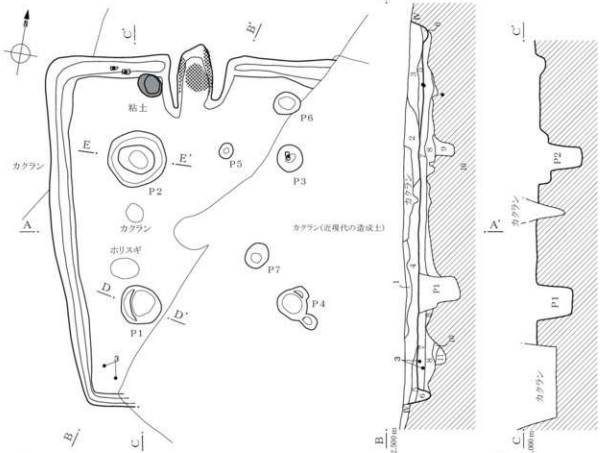
れる。本遺構の廃絶時期は出土遺物から８世紀前半に求められる。

２～７号住居跡（SI-02～07）（第８・９・28～30図、表５・６／写真図版３～５・14・15）

位置：Ａ１地点南側に位置する。**重複**：５軒の住居跡が、密集して重複している。土層断面で観察された遺構の重複関係や出土遺物などからSI-06→SI-03･05→SI-04→SI-07→SI-02の順に構築されたと判断した。**形態・規模**：形態はすべて長方形ないし隅丸方形を基調とする。全形を窺える遺構のうち、SI-02は長軸3.72ｍ、短軸3.6ｍ以上、SI-03は一辺（7.02）ｍを測る。主軸方位が明らかなSI-02はＮ－132°－Ｅを指す。残存深度はSI-02が12～24cm、SI-03が12～35cm、SI-04が18～29cm、SI-05が掘り方底面まで21cm（床面の判断が困難なため）、SI-07が６～12cmを測る。壁面はいずれもやや急に傾斜して立ち上がる。床面はロームブロックを多量に含む。また、床下土坑が多数みられる。**覆土**：いずれの住居跡も黒褐色土～褐色土を主体とし、貼床や床下土坑には粒径の大きなロームブロック・焼土ブロックが多量に含まれ、人為堆積の様相を呈する。**柱穴**：ピットは土坑状の掘り込みを含めて多数検出され、SI-3-Ｐ１～３はSI-03の主柱穴と考えられる。他の住居跡については柱穴配置を明らかにできなかった。**カマド**：SI-02の南東側に敷設される。袖や天井部は確認できなかったが、焼土が面的に確認された。他の住居跡は調査区外に敷設されているか、あるいは住居の度重なる掘り直し・撹乱によって破壊されているものと考えられる。**遺物**：それぞれの住居跡に伴う遺物としてSI-02では覆土上層から出土した須恵器坏・椀（３・４）がある。また、結晶片岩を主体とする薦編石が13点出土している。SI-03北東の隅部では覆土上層から須恵器蓋（５）が逆位の状態で出土しており、P2覆土上面では２の土師器坏１個体が割れた状態で密着して出土している。これらの遺物は住居跡が埋没する過程で廃棄されたものであろう。また、SI-04の床面直上から土師器甕（５）、須恵器坏（７）が出土している。さらにSI-04床下からは土師器坏（１）、土師器甕（４）などが出土しており、これらの遺物はSI-04の構築年代に最も近いと判断される。SI-07は土層断面でのみ確認できた住居であり、これに確実に伴う遺物は抽出できなかった。SI-06は床下土坑から出土した擬宝珠摘みを有する須恵器蓋（３）が構築年代に近いものであろう。**所見**：SI-02～07の帰属時期は各遺構の重複関係や出土遺物からSI-02が９世紀前半（廃絶時期）、SI-03・04が８世紀前半（廃絶時期）、SI-05が８世紀後半（廃絶時期）、SI-06が７世紀後半（構築時期）、SI-07が８世紀前半～９世紀前半に求められる。

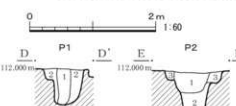
８号住居跡（SI-08）（第10･11・30図、表６／写真図版６・15）

位置：Ａ２地点南端部に位置する。**重複**：東側約半分が近代以降の造成によって失われている。**形態・規模**：形態は方形を基調とする。南北軸5.54ｍ、東西軸4.6ｍ以上を測り、残存深度は20～28cmである。主軸方位はＮ－８°－Ｗを指す。壁面はいずれもやや急に傾斜して立ち上がる。**覆土**：１層は自然堆積と考えられ、２層は大小のロームブロックをやや多く含むことから人為堆積と考えられる。カマド燃焼部の上層にはカマドの構築材である粘土ブロックや焼土・炭などが混じり、人為堆積と考えられる。また、下層には焼土粒子が多量に含まれる。**柱穴**：主柱穴はP1～４の４本である。P5～７に関しては住居の更新に関わるピットと考えられる。**カマド**：北側のほぼ中央に敷設される。天井部は確認できなかったが、白色粘土によって構築された両袖の残存状況は比較的良好である。また、左袖の左側には粘土塊が確認され、カマド左袖と隣接している。カマドと一連のものであろうか。燃焼部の床面や壁面には顕著な焼土化が観察された。**遺物**：出土量は少なく、カマド燃焼部や左袖脇から４点の土師器甕が小片でまとまって出土した。そのほか棒状の鉄製品（鉄鏃か）１点が覆土中から出土したが、小片のため図示し得ない。**所見**：本遺構の廃絶時期は出土遺物から８世紀前半に求められる。また、柱穴配置から１回の建て替えが認められる。



SI-08 ピット計測表 (cm)

P№	長軸	短軸	深さ
P1	62	60	57
P2	58	45	65
P3	44	40	72
P4	54	52	67
P5	35	21	28
P6	40	34	61
P7	42	35	60



8号住居跡P1土層説明

1. 黒褐色土(10YR3/1) 締まりあり、粘性やや強い。ローム粒中量、0.5～3cm大ロームブロック少量含む。(柱痕)
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 締まりやや弱く、粘性やや強い。0.5～5cm大ロームブロック中量含む。(根固め)

8号住居跡P2土層説明

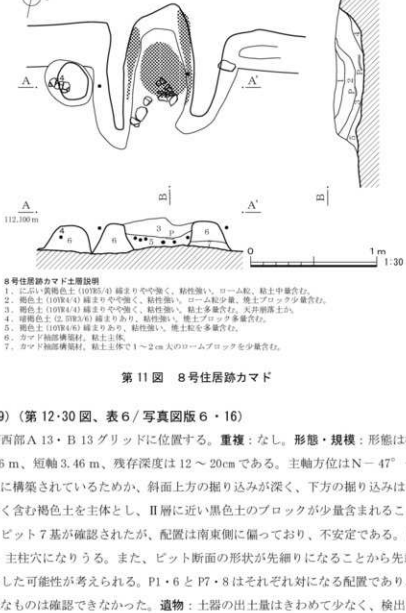
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締まり強く、粘性やや強い。0.5～1.5cm大炭化物中量、焼土粒少量含む。
2. 褐色土(10YR4/4) 締まり強く、粘性やや強い。ローム粒中量含む。
3. 褐色土(10YR4/6) 締まり強く、粘性強い。0.5～1cm大ロームブロック中量、0.5～1cm大炭化物、焼土粒微量含む。

SI-8 掘り方

8号住居跡土層説明

1. 褐色土(10YR4/4) 締まりやや弱く、粘性あり。ローム粒少量、1cm大のロームブロック微量含む。
2. 褐色土(10YR4/6) 締まりあり、粘性あり。ローム粒多量、1cm大のロームブロック・焼土・炭化物微量含む。
3. 褐色土(10YR4/6) 締まりあり、粘性あり。ローム粒多量、1cm大のロームブロック・焼土・炭化物少量含む。
4. 褐色土(10YR4/4) 締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒少量、1cm大のロームブロック中量含む。
5. 褐色土(10YR4/4) 締まりやや強く、粘性あり。ローム粒少量、1cm大のロームブロック中量含む。
6. 暗褐色土(10YR3/4) 締まりあり、粘性あり。ローム粒少量、1～3cm大のロームブロック多量含む。人為堆積。
7. 黄褐色土(10YR5/6) 締まりやや強く、粘性強い。ローム粒多量、1cm大のロームブロック多量含む。貼床。人為堆積。
8. 黄褐色土(10YR5/6) 締まりやや強く、粘性強い。ローム粒多量、1～3cm大のロームブロック大量含む。貼床。人為堆積。
9. 暗褐色土(10YR3/4) 締まりやや強く、粘性強い。ローム粒中量、1～3cm大のロームブロック多量含む。貼床。人為堆積。
10. 黄褐色土(10YR5/6) 締まりやや強く、粘性強い。ローム粒多量、1～3cm大のロームブロック大量含む。人為堆積。
11. 黄褐色土(10YR5/6) 締まりやや強く、粘性強い。ローム粒多量、1～3cm大のロームブロック大量含む。貼床。人為堆積。

第10図　8号住居跡



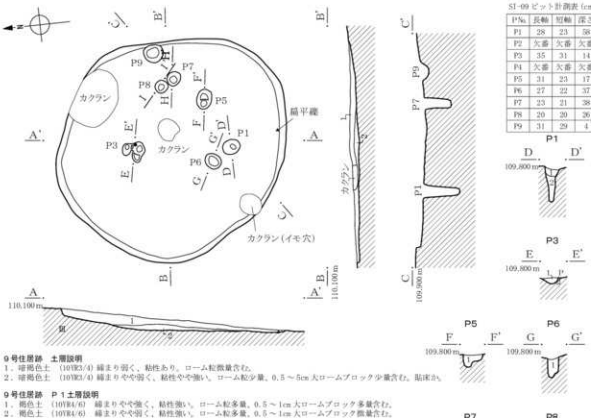
第 11 図　8号住居跡カマド

9号住居跡（SI-09）（第 12･30 図、表 6 / 写真図版 6 ・ 16）

位置：A 2 地点の南西部A 13・B 13 グリッドに位置する。**重複**：なし。**形態・規模**：形態は楕円形に近い形状を呈する。長軸 3.76 m、短軸 3.46 m、残存深度は 12 ～ 20cm である。主軸方位はN － 47°　－Wを指す。壁面はゆるやかな斜面上に構築されているためか、斜面上方の掘り込みが深く、下方の掘り込みは浅い。**覆土**：全体的にローム粒子を多く含む褐色土を主体とし、Ⅱ層に近い黒色土のブロックが少量含まれることから人為堆積と考えられる。**柱穴**：ピット 7 基が確認されたが、配置は南東側に偏っており、不安定である。ピットのうちP1・P7 は突出して深く、主柱穴になりうる。また、ピット断面の形状が先細りになることから先端を鋭利に加工した杭状の柱材を使用した可能性が考えられる。P1・6 と P7・8 はそれぞれ対になる配置であり、建て替え等を予想させる。**炉**：明確なものは確認できなかった。**遺物**：土器の出土量はきわめて少なく、検出面や覆土中から 1 の深鉢や 2 の浅鉢のような小片が出土したのみである。このほか、回石片 (3) や結晶片岩の台石と想定される扁平礫などが出土している。**所見**：本遺構の廃絶時期は出土遺物から縄文時代中期前葉の五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰa 式期に求められる。また、柱穴配置から 1 回の建て替えが推定される。

10号住居跡（SI-10）（第 13･30・31 図、表 6 / 写真図版 6 ・ 16）

位置：A 2 地点の斜面北西部のD 7 グリッドを中心に位置する。**重複**：SK-19 と重複し、本遺構が古い。北側の壁面立ち上がりは確認できなかった。**形態・規模**：形態は方形を呈すると推定され、南北軸 4. 23 m以上、東西軸 4. 86 mを測り、検出面からの深さは最大 30cm である。主軸方位はN － 14°　－Eを指す。壁面は SI-09 と同様に床面を水平にするため斜面上方の掘り込みが深く、下方の掘り込みは浅い。床面は基本的に地床であるが、斜面下方部は床を水平にするためかロームブロックを主体とする貼床状の浅い堆積が観察された。また、南側を中心に明瞭な硬化面が確認できた。南壁から西壁にかけては周溝が設けられている。**覆土**：全体的にローム粒子を多く含

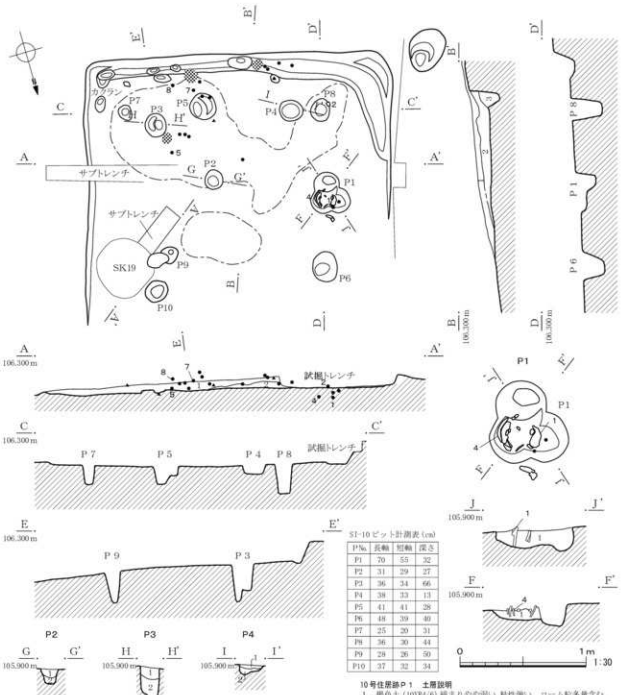


第 12 図　9号住居跡

む褐色土を主体とし、Ⅱ層に近い黒色土のブロックが少量含まれることから人為堆積と考えられる。**柱穴**：主柱穴はP3・6・8・9の４本と考えられ、P7・10は拡張時の柱穴と考えられる。また、住居ほぼ中央にP2、P3-P8間にP5、P6-P8間にP1が検出され、主柱穴を補助する柱の可能性がある。**炉**：明確なものは確認できなかったが、南側周溝覆土上面とP3脇に焼土化範囲が確認され、ここが地床炉であった可能性がある。周溝上面の焼土は周溝埋没後に形成されたものである。**遺物**：土器は覆土上層を中心に比較的多く出土しているが、文様をもつものは少ない。P1からは１など深鉢底部が２個体正位の状態で埋設され、１個体は入れ子状に埋設されていた。石器は検出面からホルンフェルス製の打製石斧 (10) が出土したほか頁岩を主体とするリタッチド・フレイクや剥片が多くみられる。**所見**：本遺構の廃絶時期は出土遺物から縄文時代前期後葉の諸磯ａ式期に求められる。また、柱穴配置から１回の建て替えが推定される。

11 号住居跡（SI-11）（第 14･31 図、表７/写真図版７・16）

位置：Ａ２地点北側の平坦面 H6 グリッドに位置する。Ⅱ層の上面で検出された。**重複**：なし。**形態・規模**：形態は長方形を呈する。南北軸 3.25 m、東西軸 4.02 m を測り、残存深度は６～ 12cm である。主軸方位はＮ－ 84°－Ｅを指す。壁面はいずれもやや急に傾斜して立ち上がる。カマド付近を除いて幅 15 ～ 20cm、床面からの深さ５cm 程度の壁周溝がめぐる。床面は平坦で中央部を中心に硬化面が認められる。**覆土**：住居内・ピット内ともにロームの再堆積層を多量に含むにぶい黄褐色土を主体として埋没している。概ね自然堆積と考えられるが南



SI-10 ピット計測表（cm）

PNo.	長軸	短軸	深さ
P1	70	55	32
P2	31	29	27
P3	36	34	66
P4	38	33	13
P5	41	41	28
P6	48	39	40
P7	25	20	31
P8	36	30	44
P9	28	26	50
P10	37	32	34

10号住居跡　土層説明
1．褐色土（10YR4/4）締まりやや弱く、粘性あり。ローム粒少量含む。
2．黄褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性あり。ローム粒少量、0.5～1cm大ロームブロック微量含む。
3．黄褐色土（10YR3/2）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒中量、0.3～2cm大ロームブロック少量含む。壁周溝。

10号住居跡P 1　土層説明
1．褐色土（10YR4/6）締まりやや弱い、粘性強い。ローム粒多量含む。

10号住居跡P 2　土層説明
1．褐色土（10YR4/4）締まりあり、粘性あり。ローム粒中量含む。
2．褐色土（10YR4/4）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒多量含む。

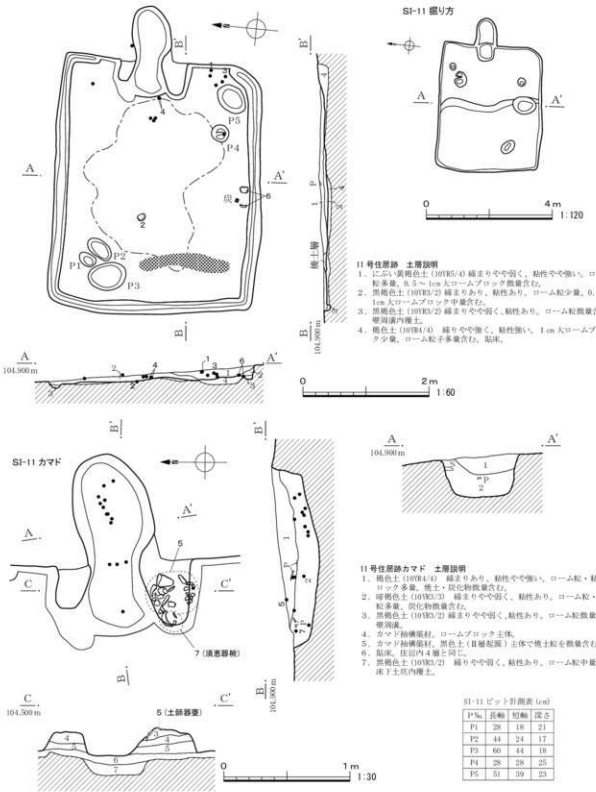
10号住居跡P 3　土層説明
1．褐色土（10YR4/4）締まり強く、粘性あり。ローム粒少量、0.5～3cm大ロームブロック、炭化物少量含む。
2．褐色土（10YR4/6）締まりあり、粘性強い。ローム粒大量含む。

10号住居跡P 4　土層説明
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性あり。ローム粒少量、0.5～3cm大ロームブロック少量含む。
2．褐色土（10YR4/6）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒多量含む。

第 13 図　10 号住居跡

東部壁際では少量の炭化物が、南壁付近では帯状の焼土が長さ約 1 m、幅約 0.2 m の範囲で検出された。これらはいずれも床面からは浮いた位置で検出されたことから埋没の過程で形成されたと考えられる。カマド燃焼部カマド 1 層は概ね自然堆積であるが、カマド 2 層には焼土粒子や炭化物が土器破片とともにやや多く含まれることから、人為堆積と判断される。**柱穴**：ピットは 5 基検出されたが、配置が偏っており、柱穴になりうるものは確認できなかった。P5 は貯蔵穴と考えられる。**貯蔵穴**：南東隅部で検出された。長径 51cm、短径 39cm、深さ 15cm

を測る。**カマド**：東側に敷設される。天井部は確認できなかったが、両袖が検出できた。袖は炭化物や焼粒をやや多く含む黒褐色土を基部とし、その上に白色粘土を積み上げて構築されている。**遺物**：出土量はやや多い。覆土中から１～３・６など一部が欠損した比較的残状況の良好な土師器坏や須恵器坏が出土してる。１は逆位、２は正位の状態で出土した。これらは埋没の過程で廃棄されたものと考えられるが、６の須恵器坏はほぼ同位置で半分が覆土上位、もう半分が下位から出土しており、埋没の過程で複数回にわたって廃棄が行われた状況が窺わ



SI-11 ピット計測表（cm）

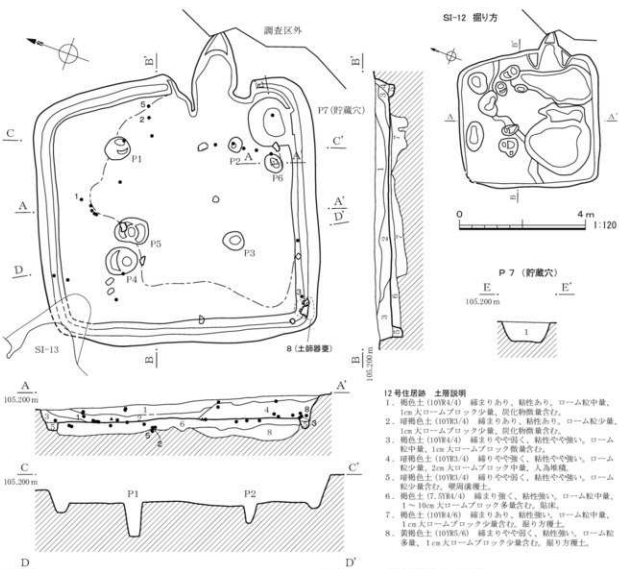
P No.	長軸	短軸	深さ
P1	28	18	21
P2	44	24	17
P3	60	44	18
P4	28	28	25
P5	51	39	23

第 14 図　11 号住居跡

れる。また、カマド右側の袖には基部の上に芯材として土師器甕の底部（５）と底部を欠く須恵器椀（７）が逆位の状態で埋設され、その周辺を白色粘土で被覆する状況が観察された。**所見**：本遺構の廃絶時期は出土遺物から９世紀後半に求められる。焼土の堆積や複数回の遺物廃棄など埋没の過程において廃棄に付随する何らかの行為が推定される。

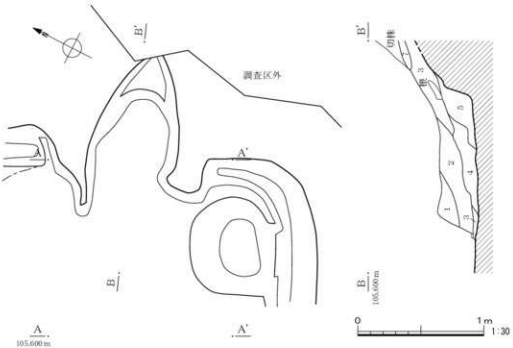
12 号住居跡（SI-12）（第 15・16・31 図、表７／写真図版７・17）

位置：Ａ２地点北東隅の平坦面 J6・K6 グリッドに位置する。カマド先端部は調査区外へ伸びる。**重複**：SI-13 と重複し、本遺構が古い。**形態・規模**：形態は隅丸方形を呈する。南北軸 4.42 m、東西軸 4.20 m を測り、残存深度は 20 ～ 36㎝である。主軸方位はＮ－ 65°－Ｅを指す。壁面はいずれもやや急に傾斜して立ち上がる。カマド付近を除いて幅 30 ～ 40㎝、床面からの深さ 10 ～ 18㎝程度の壁周溝がめぐる。床面は平坦で中央部から南側を中心に硬化面が認められる。掘り方にはカマド前と南西部に大型の床下土坑が確認された。**覆土**：住居内・



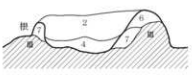
第 15 図　12 号住居跡

ピット内ともローム粒子をやや多く含む褐色土を主体として埋没している。各層とも均一なローム粒子の混入状態を示し、レンズ状の堆積が認められることから自然堆積と考えられる。なお、カマド下層には焼土粒子や炭化物が土器破片とともにやや多く含まれることから、人為堆積と判断される。**柱穴**：P1 ～ 4 が主柱穴と考えられ、P5 は建て替えに伴う柱穴、P6 は補助的な柱穴の可能性がある。P7 は貯蔵穴と考えられる。**貯蔵穴**：南東隅部で検出された（P7）。長径 76cm、短径 68cm、深さ 28cm を測る。**カマド**：東側に敷設される。天井部は調査区外の煙道部が一部残存し、袖も両袖が検出できた。袖は地山のローム層（Ⅲ層）を削り出して基部とし、その上に白色粘土を積み上げて構築している状況が確認できた。燃焼部は明瞭な焼土面は形成されていない。**遺物**：出土量はやや多い。壁際の覆土中から土師器坏（３）、土師器甕（８）などが中～大破片の状態で出土している。**所見**：本遺構の廃絶時期は出土遺物から古墳時代終末の７世紀後半に求められる。



SI-12 ピット計測表（cm）

P No.	長軸	短軸	深さ
P1	36	35	54
P2	23	20	30
P3	30	30	44
P4	50	43	58
P5	53	42	47
P6	32	27	29
P7	78	62	24



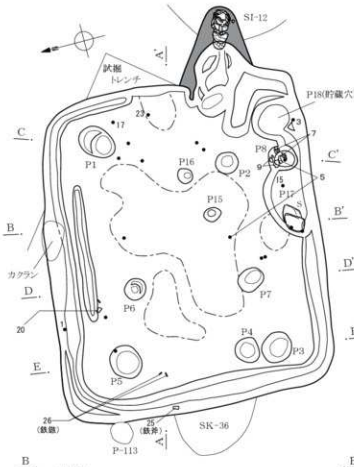
12 号住居跡カマド　土層説明

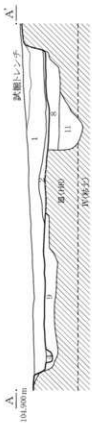
1、褐色土（10YR4/4）締まりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。住居内１層と同等。
2、褐色土（10YR4/4）締まりあり、粘性強い。粘土多量、焼土粒微量含む。
3、黒褐色土（10YR2/3）締まりあり、粘性あり。ローム粒・焼土粒少量含む。
4、にぶい赤褐色土（5YR4/4）締りやや弱く、粘性あり。焼土粒・1 ～ 4cm 大の焼土ブロック多量含む。火床面か。
5、暗褐色土（7.5YR3/4）締りやや弱く、粘性あり。焼土・炭化粒少量含む。
6、暗褐色土（10YR3/4）締りやや強く、粘性やや強い。ローム粒中量含む。カマド袖構築材。
7、粘土主体で暗褐色土が混入するカマド天井・袖構築材。締り・粘性強い。

第 16 図　12 号住居跡カマド

13 号住居跡（SI-13）（第 17･18・32 ～ 34 図、表７・８／写真図版８・９・17 ～ 19）

位置：Ａ２地点北東隅の平坦面 I5・6、J5・6 グリッドに位置する。**重複**：SI-12・SK-36 と重複し、土層断面の観察から構築順序は SK36 → SK-12 → SK-13 の順である。**形態・規模**：形態は隅丸長方形を呈する。南北軸 4.38 m、東西軸 5.22 m を測り、残存深度は 20 ～ 33cm である。主軸方位は N － 93.5°－ E を指す。壁面はやや急に傾斜して立ち上がる。カマド付近を除いて幅 20 ～ 50cm、床面からの深さ８～ 18cm 程度の壁周溝がめぐる（周溝 1）。また、周溝 1 の内側にも北壁際の一部で幅 20cm、深さ 8cm 程度の周溝（周溝 2）が認められ、拡張前の古い壁周溝と考えられる。床面は平坦で中央部を中心に硬化面が認められる。掘り方ではカマド前、住居中央、住居北東隅付近に大型の床下土坑が検出された。**覆土**：住居内・ピット内とも暗褐色～褐色土を主体として埋没している。各層とも均一なローム粒子の混入状態を示し、自然堆積と考えられる。カマド燃焼部も上層は自然堆積であ

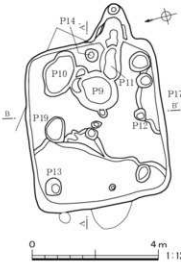




SI-13 ピット計測表 (cm)

P No.	長軸	短軸	深さ
P1	60	44	27
P2	37	35	12
P3	51	45	26
P4	41	38	19
P5	54	49	22
P6	36	33	18
P7	41	34	18
P8	44	40	30
P9	157	123	61
P10	153	104	23
P11	113	67	33
P12	51	37	20
P13	55	50	30
P14	42	40	5
P15	29	22	10
P16	25	23	25
P17	120	80	26
P18	80	60	13
P19	82	62	34

SI-13 掘り方

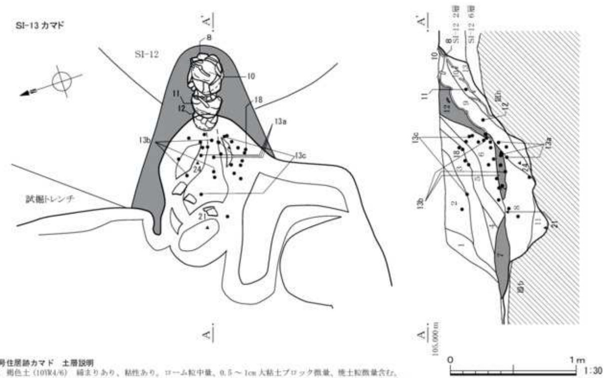


13号住居跡土層説明

1．褐色土（10YR4/6）　締まりやや弱く、粘性やや強い、ローム粒多量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　締まりあり、粘性あり、粘土・ローム粒少量含む。
3．褐色土（10YR4/4）　締まりあり、粘性あり、ローム粒中量含む。
4．褐色土（10YR4/6）　締まりやや弱く、粘性やや強い、ローム粒多量含む。壁周溝外側埋土。
5．褐色土（10YR4/4）　締まりやや弱く、粘性あり、ローム粒中量含む。壁周溝内側埋土。
6．褐色土（10YR4/6）　締まりやや弱く、粘性やや強い、ローム粒多量含む。
7．褐色土（10YR4/4）　締まりやや弱く、粘性やや強い、ローム粒多量、炭化物微量含む。
8．褐色土（10YR4/6）　締まりやや強く、粘性やや強い、ローム粒中量、1cm大ロームブロック多量含む。貼床。
9．黄褐色土（10YR5/6）　締まりやや弱く、粘性強い、ローム粒・1cm大ロームブロック多量含む。掘り方埋土。
10．黄褐色土（10YR4/6）　締まりやや弱く、粘性強い、ローム粒多量、1cm大ロームブロック少量含む。掘り方埋土。
11．褐色土（10YR4/6）　締まりあり、粘性強い、ローム粒・1cm大ロームブロック多量、焼土・炭化物微量含む。掘り方埋土。

第17図　13号住居跡

るが、中層は褐色土に焼土・炭化物・白色粘土が混在する人為堆積の様相をなす。また、下層では天井崩落土と考えられる厚さ 12 ～ 15cm の白色粘土層が確認された。**柱穴**：P1 ～ 7 が主柱穴と考えられ、P3 ～ 5 は拡張時に掘削されたと考えられる。**貯蔵穴**：南東隅部で検出された P8・17・18 が相当すると考えられる。**カマド**：東側に敷設される。天井部は煙道部が残存し、袖も検出できた。袖は地山のローム層（Ⅲ層）を削り出して基部とし、その上に白色粘土や焼土・炭化物・粘土が含まれる黒色土を積み上げて構築している状況が確認できた。燃焼部は床面と壁面に焼土化が見られた。煙道は底部を欠く土師器甕 4 個体（8・10 ～ 12）を連結し、そのまわりを白色粘土で被覆して構築されている。**遺物**：覆土中の遺物は小片が多く、出土量は少ないが、カマドや貯蔵穴から多量の遺物が出土した。西壁際では鉄斧（25）、鉄鏃片（26）が床面からやや浮いた位置で出土している。また、カマド燃焼部から 13、貯蔵穴 P8 から 7・9 などの土師器甕が小片に割れた状態で出土しておりこれらは廃棄行為による出土状態とみなせる。24 は緑泥片岩の薦編石で側面に抉り込みがみられる。また、煙道に敷設された 8・10 ～ 12 の土師器甕は住居の使用年代に近いと考えられる。そのほか結晶片岩を主体とした大型の礫が多数出土している。これらの中には摩面や擦痕をもつものがあり、鉄製品との関係からおそらく砥石や台石として使用されたものであろう。**所見**：本遺構の廃絶時期は出土遺物から 9 世紀後半に求められる。また、柱穴配置や二重の壁周溝から西・北側への拡張が認められる。



13号住居跡カマド　土層説明
1．褐色土（10YR4/6）　締まりあり、粘性あり。ローム粒中量、0.5 ～ 1cm 大粘土ブロック微量、焼土粒微量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　締まりあり、粘性やや強い。ローム粒少量、0.5 ～ 1cm 大粘土ブロック微量、焼土粒微量含む。
3．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒少量、0.5 ～ 3cm 大粘土ブロック中量、焼土粒微量含む。
4．褐色土（10YR4/6）　締まりあり、粘性やや強い。ローム粒少量、0.5 ～ 3cm 大粘土ブロック中量、焼土粒微量含む。
5．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒少量、0.5 ～ 5cm 大粘土ブロック多量、焼土粒微量含む。
6．褐色土（10YR4/6）　締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒少量、0.5 ～ 1cm 大粘土ブロック少量、焼土粒微量含む。
7．灰黄色土（10YR7/2）　締まりやや強く、粘性やや強い。粘土多量含む。カマド天井崩落土。
8．暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒中量、焼土粒・炭化物微量含む。
9．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒中量、焼土粒・炭化物微量含む。
10．暗褐色土（7.5YR3/4）　締まりやや弱く、粘性あり。ローム粒・粘土粒少量、1cm 大焼土ブロック少量含む。
11．暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒中量、炭化物少量含む。
12．灰黄色土（10YR7/2）　締まりやや強く、粘性やや強い。粘土多量含む。カマド天井部構築材。
13．暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒・粘土中量含む。

第 18 図　13 号住居跡カマド

3　掘立柱建物跡・ピット

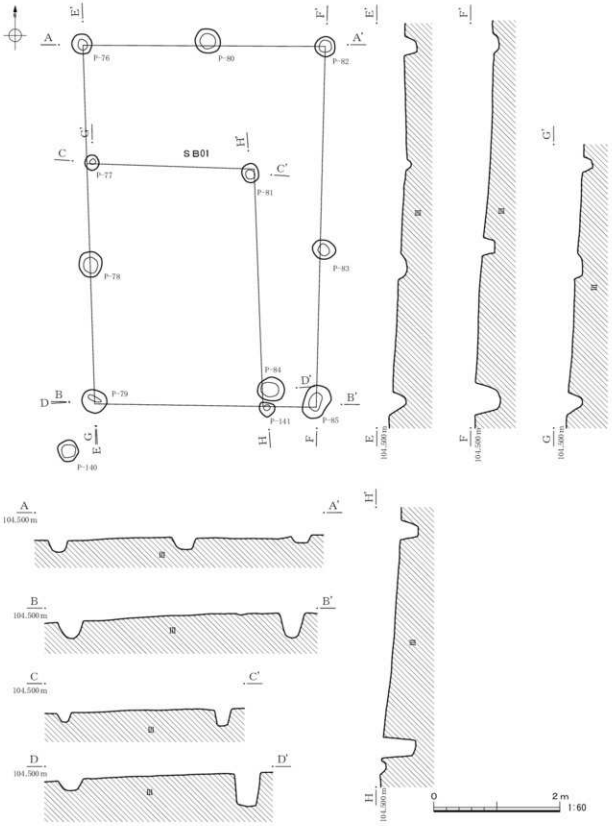
(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物は 1 棟が検出された。このほか P-89 ～ 91 も柱間が比較的そろっており、掘立柱建物を構成する可

能性があるが、様相を明らかにすることができなかった。１号掘立柱建物跡については以下に詳述する。

１号掘立柱建物跡（SB-01）（第 19・34 図、表 10/ 写真図版９・19）

遺構：Ａ２地点北側の下部平坦面Ｈ３・４グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する側柱建物である。１回



第 19 図　１号掘立柱建物跡

の拡張が認められ、桁行１間×梁行１間の SB-01a から桁行２間×梁行１間の SB-01b へと拡張したと考えられる。

SB-01a は P-77・79・81・84 で構成され、P-141 も建て替えの際に使用した柱穴の可能性がある。長軸 3.78 m、短軸 2.64 m を測り、柱間寸法は桁行が 3.46 ～ 3.80 m、梁行が 2.50 ～ 2.82 m である。遺構確認面からの深さは 15 ～ 54cm を測り、東側の柱穴が深くなる傾向がある。長軸方位はＮ－ 1.5°－Ｗを指す。

SB-01b は P-76 ～ 79・82・83・85 で構成され、P-80 もその可能性がある。南側の梁行間にピットが検出できなかったが、P-80 を含めると桁行２間×梁行２間、P77 を含めると桁行３間×梁行２間の建物となる。長軸 5.70 m、短軸 3.69 m を測り、柱間寸法は桁行が 2.20 ～ 3.50 m、梁行が 3.52 ～ 3.88 m である。遺構確認面からの深さは 10 ～ 40cm を測り、東側・南側の柱穴が深くなる傾向がある。長軸方位はＮ－ 0°を指す。

遺物：P-78 から土師器甕の胴部片１点、P-81 から土師器坏１点、P-83 から土師器坏１点、須恵器坏１点が出土した。いずれも小片であるが、９世紀代の特徴を備えている。

所見：本遺構の廃絶時期は SI-11・13 と主軸方位が近似することや出土遺物から９世紀代に求められる。また、１回の拡張が認められる。

(2) ピット

掘立柱建物は１棟が検出され、ピットはこれを構成する柱穴を含めて 135 基が検出された。中で最も多いのは近現代のヤマイモ掘削痕である。覆土は締りのない人為堆積で底面にＵ字状の工具痕が特徴的にみられる。また、下部平坦面の谷付近では黒色土のピットが多数検出された。これらはおそらく埋没谷に堆積するⅡ層に由来すると考えられる。遺構検出時には周辺から縄文早期前葉の撚糸文土器が出土しており（第 36 図に掲載）、これらの遺構の形成が当該期まで遡る可能性もある。P-01 ～ 16 はＡ１地点、P-17 以降はＡ２地点で検出された。

古代に帰属するものの中でＡ２地点 P-89 ～ 91 も柱間が比較的そろっており、掘立柱建物を構成する可能性があるが、様相を明らかにすることができなかった。また、P-83 ～ P-90 から９世紀代の土師器甕・坏が出土している。

ピット出土の遺物はＡ１地点Ｐ -09 の覆土上層から出土した須恵器蓋１点（第 34 図）を図示した。環状に近い擬宝珠摘みが付され、口縁内面にカエリを有する。７世紀末～８世紀初頭の所産と考えられることから、本遺跡における掘立柱建物の出現が８世紀代に遡る可能性もある。

表１　ピット一覧表 (1)

単位：ｃｍ

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	備考
P-01	A 1 北西	33	29	18	暗褐色土の自然堆積、古代か。
P-02	A 1 北西	54	51	39	
P-03	A 1 北西	37	33	12	
P-04	A 1 北西	51	43	18	
P-05	A 1 北西	34	31	39	黒褐色土の自然堆積、土師器片。
P-06	A 1 北西	55	48	28	黒褐色土の自然堆積。
P-07	A 1 北西	75	70	36	黒褐色土の自然堆積、土師器片。
P-08	A 1 南東	53	50	49	黒褐色土の人為堆積、古代か。
P-09	A 1 南東	82	48	58	人為堆積、底面にアタリ、須恵器蓋。
P-10	A 1 南東	46	45	56	暗褐色土の自然堆積、古代か。
P-11	A 1 南東	40	36	70	暗褐色土の自然堆積、古代か。
P-12	A 1 北西	30	26	19	暗褐色土の自然・人為堆積、古代か。
P-13	A 1 北西	52	41	20	
P-14	A 1 北西	45	45	27	
P-15	A 1 北西	38	37	19	
P-16	A 1 北西	34	32	43	
P-17	C15	51	36	58	空-01 内のピット。同時期か。
P-18	C14	59	43	34	緩や弱い人為堆積、近現代イモ穴。
P-19	C14	59	57	25	緩や弱い人為堆積、As-k 微量。
P-20	D13	48	47	60	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-21	B14	44	42	16	緩や弱い人為堆積、As-k 微量。
P-22	B14	75	57	63	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-23	C15	49	45	42	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-24	-	-	-	-	欠番。
P-25	A14	63	41	38	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-26	B14	35	29	27	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-27	A14	51	39	37	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-28	C14	67	41	57	緩や弱い人為堆積、As-k 微量。
P-29	D14	35	34	58	白色粘土を多の人為堆積、近現代か。
P-30	B15	77	51	36	緩や弱い人為堆積、As-k 少量。
P-31	A14	63	42	19	緩や弱い人為堆積。
P-32	B13	57	47	37	緩や弱い人為堆積、現代遺物（瓶）。
P-33	-	-	-	-	欠番。
P-34	D11	93	71	67	緩や弱い人為堆積、下層は自然。
P-35	C11	38	35	31	緩や弱い人為堆積。
P-36	C11	62	49	70	緩や弱い人為堆積。
P-37	C10	51	43	34	緩や弱い人為堆積、近現代イモ穴。
P-38	C10	39	37	23	緩や弱い人為堆積。
P-39	C10	39	36	41	緩や弱い人為堆積。
P-40	C10	49	46	40	緩や弱い人為堆積。
P-41	B10	41	37	41	緩や弱い人為堆積。
P-42	C9	43	37	37	緩や弱い人為堆積。
P-43	C9	43	35	56	緩や弱い人為堆積。
P-44	E12	57	49	28	緩や弱い人為堆積、近現代イモ穴。
P-45	F12	49	43	46	緩や弱い人為堆積、近現代イモ穴。
P-46	-	-	-	-	欠番。

表2　ピット一覧表（2）

単位：cm

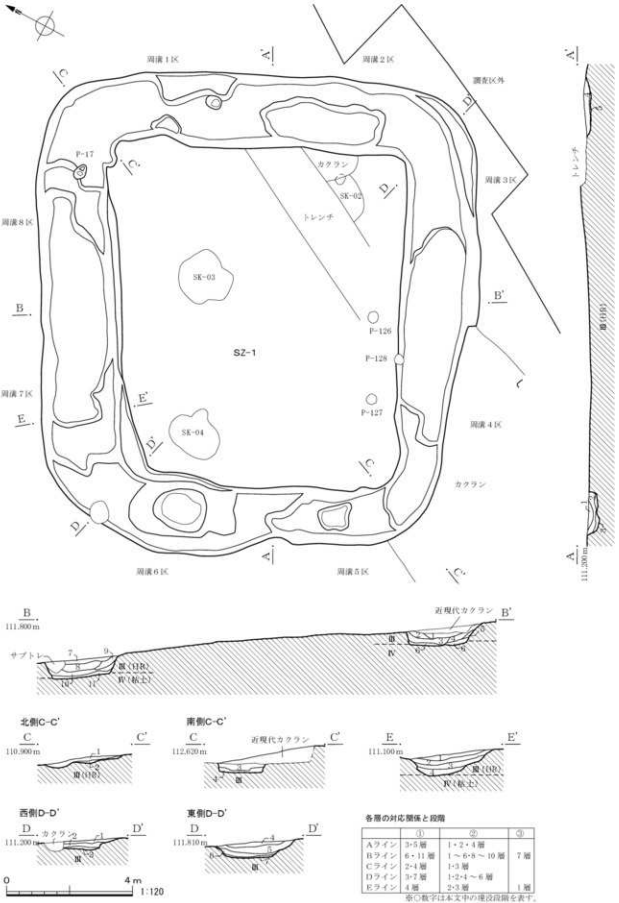
遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	備考
P-47	C10・D10	40	31	33	縄り張い入為堆積。
P-48	D10	37	27	20	縄り張い入為堆積。近現代イモ穴。
P-49	D10	30	25	22	
P-50	D9	73	70	57	縄り張い入為堆積。近現代か。
P-51	－	－	－	－	欠番。
P-52	D10	39	35	31	撹乱か。
P-53	D10	48	41	14	撹乱か。
P-54	D10	27	19	33	褐色～黄褐色土の自然堆積。
P-55	－	－	－	－	欠番。
P-56	D9	37	26	22	褐色～黄褐色土の自然堆積。
P-57	D9	43	29	18	撹乱か。
P-58	D9	34	30	15	撹乱か。
P-59	D9	43	32	22	褐色～黄褐色土の自然堆積。
P-60	D9	52	37	12	撹乱か。
P-61	D9	37	27	50	撹乱か。
P-62	D8	46	35	30	縄り張い入為堆積。ホトケ小屋。
P-63	D8	48	35	40	縄り張い入為堆積。近現代イモ穴。
P-64	E8	41	36	46	縄り張い入為堆積。近現代イモ穴。
P-65	E8	64	38	69	縄り張い入為堆積。近現代イモ穴。
P-66	E9	51	38	45	縄り張い入為堆積。近現代イモ穴。
P-67	E9	54	36	20	縄り張い入為堆積。近現代か。
P-68	－	－	－	－	欠番。
P-69	E10	37	27	43	縄り張い入為堆積。近現代か。
P-70	E9	49	43	49	縄り張い入為堆積。近現代イモ穴。
P-71	F10	62	53	37	縄りある黒褐色土の自然堆積。
P-72	F10	52	44	35	縄り張い褐色土の入為堆積。
P-73	F8	34	33	12	縄り張い黒褐色土の入為堆積。
P-74	F4	47	39	22	褐色土の自然堆積。
P-75	G4	22	20	15	
P-76	H3	33	30	19	縄り張い褐色土の入為堆積。SB-01
P-77	H4	23	23	16	縄り張い褐色土の入為堆積。SB-01
P-78	H4	40	36	12	SB-01。自然堆積。土師器像（SD）。
P-79	H4	40	36	26	SB-01。暗褐色土の自然堆積。
P-80	H3	41	39	15	SB-01。暗褐色土の自然堆積。
P-81	H4	30	27	26	SB-01。人為堆積。焼土痕。
P-82	I3	31	31	23	SB-01。須恵器。土師器甕片。
P-83	I4	37	30	20	SB-01。人為堆積。須恵・土師器片。
P-84	H4	41	37	56	SB-01。暗褐色土の人為堆積。
P-85	I4	53	40	42	SB-01。暗褐色土の人為堆積。
P-86	H5	34	31	33	暗褐色土の自然堆積。古代か。
P-87	H6	38	33	26	暗褐色土の自然堆積。古代か。
P-88	I4	50	49	27	暗褐色土の自然堆積。古代か。
P-89	I4	51	47	38	自然堆積。柱痕・アタリ。古代か。
P-90	I4	49	47	34	褐色土の自然堆積。
P-91	I5	38	35	48	褐色土の自然堆積。
P-92	I5	35	32	24	褐色土の自然堆積。
P-93	I4	38	37	32	褐色土の自然堆積。
P-94	F2	43	41	31	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-95	I6	45	43	30	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-96	G6	46	33	33	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-97	G6	38	31	25	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-98	G6	30	29	26	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-99	G7	26	20	14	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-100	H7	33	32	13	暗褐色土の自然堆積。
P-101	G6	29	27	10	褐色土の自然堆積。
P-102	F6	51	43	35	縄り張い入為堆積。近現代鉄出土。
P-103	F7	50	40	21	褐色土の自然堆積。
P-104	F7	27	24	14	暗褐色土の自然堆積。
P-105	G8	22	21	7	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-106	H8	27	20	21	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-107	H8	29	19	6	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-108	H8	32	31	64	黒褐色土の人為堆積。縄文か。
P-109	H5	25	19	23	黒褐色土の人為堆積。縄文か。
P-110	H5	27	21	28	黒褐色土の人為堆積。縄文か。
P-111	H5	29	23	19	黒褐色土の人為堆積。縄文か。
P-112	H5	33	27	15	黒褐色土の人為堆積。縄文か。
P-113	I5	37	34	49	暗褐色土の人為堆積。
P-114	H7	41	38	20	褐色～暗褐色土の人為堆積。
P-115	I7	33	27	43	褐色～暗褐色土の人為堆積。
P-116	I6	41	31	37	褐色～暗褐色土の人為堆積。
P-117	E4	53	46	19	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-118	F6	21	19	6	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-119	G6	23	16	8	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-120	F7	18	15	14	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-121	G7	16	15	24	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-122	F7	16	16	26	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-123	H5	29	27	16	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-124	H5	47	39	44	黒褐色土の自然堆積。縄文か。
P-125	D7	51	39	39	
P-126	E16	38	33	20	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-127	D17	35	33	29	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-128	E17	33	30	－	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-129	E17	35	34	30	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-130	D17	(67)	34	26	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-131	D17	33	29	30	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-132	D18	44	36	13	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-133	E18	60	56	13	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-134	E17	45	33	13	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-135	E17	35	30	－	粘土・砂多の人為堆積。近現代。
P-136	B13	40	35	67	
P-137	C10	80	43	34	
P-138	D10	24	18	37	
P-139	F8	44	37	18	
P-140	H5	35	33	10	
P-141	H4	25	22	16	SB-01。

4　方形周溝墓

1号方形周溝墓（SZ-01）（第20・21・34図、表8／写真図版9・10・19）

遺構：A2地点南側の上部平坦面から緩斜面にかけて位置する。SK-06と重複し、土層断面の観察から本遺構が古い。また、近代以降の造成により南側を中心に上面が削平されている。削平の影響が少ない方台部の北西－南東軸を計測すると、長辺は9.5m、短辺は7.9mを測り、台形状を呈すると推定される。また、長軸15.12m、短軸13.92mを測り、北東－南西方向に長い形状をなす。主軸方位はN－64°－Eを指す。墳丘および主体部は確認できなかった。

周溝の幅は緩斜面上に位置することや削平を受けていることなどから一定でないが、比較的残存状況の良好な北側・東側を参照すると、2.20～2.50mが平均的な幅と考えられ、最大では南西隅Dライン付近で3.0mを測る。同様に残存深度も斜面下方部では浅く、10～68cmと振れ幅が大きい。周溝の底面は平坦に掘削されており、

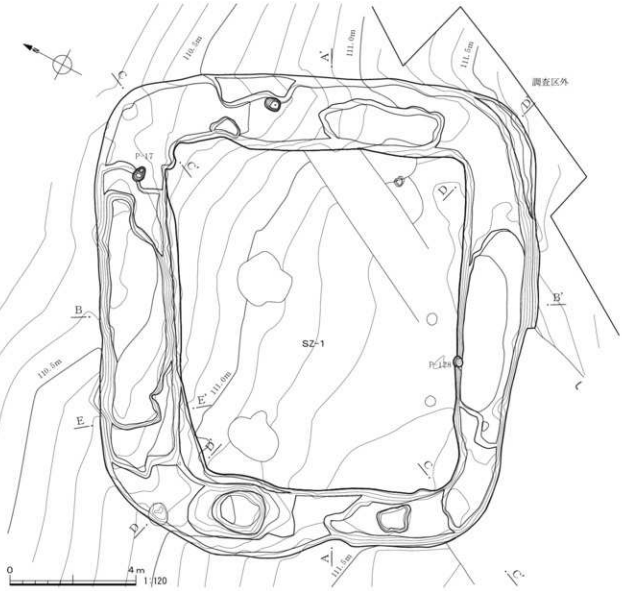


各層の対応関係と段階

	①	②	③
Aライン	3・5層	1・2・4層	
Bライン	6・11層	1～6・8～10層	7層
Cライン	2・4層	1・3層	
Dライン	3・7層	1・2・4～6層	
Eライン	4層	2・3層	1層

※○数字は本文中の埋没段階を表す。

第20図　1号方形周溝墓(1)



1号周溝墓跡土層説明

A-A'

1．褐色土（10YR4/4）締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
Ⅱ層由来の流入土。（ローム再堆積）
2．褐色土（10YR4/6）締まり弱く、粘性やや強い。
ローム粒多量、1cm大ロームブロック少量含む。SZ-1埋丘墳落土。
3．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりあり、粘性やや強い。
ローム粒中量、5cm大ロームブロック多量含む。SZ-1層り方埋土（人為堆積）
4．灰黄褐色土（10YR6/2）締まりあり、粘性強い。
ローム粒微量、1cm大ロームブロック大量含む。段切整地層。
5．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性あり。ローム粒少量含む。

B-B'

1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性あり。ローム粒少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まり強く、粘性あり。
ローム粒少量、1cm大ロームブロック微量含む。旧表土由来の埋没土。
3．褐色土（10YR4/6）締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
SZ-1埋丘墳落土。
4．褐色土（10YR4/6）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒中量、1cm大ロームブロック微量含む。Ⅱ層由来の流入土。
5．黄褐色土（10YR5/6）締まりあり、粘性強い。ローム粒大量含む。墳面崩落土。
6．にぶい黄褐色土（10YR6/3）締まりやや強く、粘性強い。
ローム粒少量、2cm大ロームブロック多量含む。SZ-1層り方埋土（人為堆積）、灰色粘土ブロック少量含む。
7．褐色土（10YR4/4）締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
Ⅱ層由来の流入土。（ローム再堆積）
8．暗褐色土（10YR3/4）締まりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。
9．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性やや強い。
ローム粒中量、1cm大ロームブロック少量含む。旧表土由来の埋没土。
10．褐色土（10YR4/6）締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒多量、1cm大ロームブロック少量含む。SZ-1埋丘墳落土。
11．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒中量、3cm大ロームブロック多量含む。SZ-1層り方埋土（人為堆積）

C-C'

1．褐色土（10YR4/6）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒少量、2cm大ロームブロック少量含む。SZ-1埋丘墳落土。
2．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒中量、1cm大ロームブロック中量含む。SZ-1層り方埋土（人為堆積）
3．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性あり。ローム粒微量含む。
4．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒多量、1cm大ロームブロック大量含む。

D-D'

1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性あり。ローム粒微量含む。
2．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりあり、粘性あり。ローム粒少量、1cm大ロームブロック少量含む。
3．褐色土（10YR4/4）締まりあり、粘性やや強い。
ローム粒中量、5cm大ロームブロック多量含む。
4．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性あり。ローム粒微量含む。
5．暗褐色土（10YR3/3）締まりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。
6．暗褐色土（10YR3/4）締まりあり、粘性あり。ローム粒少量、1cm大ロームブロック少量含む。
7．褐色土（10YR4/6）締まりあり、粘性あり。ローム粒多量、2cm大ロームブロック多量含む。

E-E'

1．褐色土（10YR4/4）締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
Ⅱ層由来の流入土。（ローム再堆積）
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒中量、1cm大ロームブロック少量含む。旧表土由来の埋没土。
3．褐色土（10YR4/6）締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒多量、3cm大ロームブロック少量含む。SZ-1埋丘墳落土。
4．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりあり、粘性やや強い。ローム粒多量、1cm大ロームブロック大量含む。

第21図　1号方形周溝墓（2）

隅部が浅く、各辺の中央部が土坑状、あるいは階段状に深く掘り込まれている。深く掘り込まれた部分はいずれも粘土層（Ⅳ層）が露出したところで掘削を停止した状況が観察され、墳丘に盛るローム土を採取する目的で掘削を行ったことが窺われる。

覆土は①粒径の大きいロームブロックを多量に含む層、②黒褐色土の粒子を多く含み、ローム粒子を少量含む層、③ローム粒子を多量に含み、粒径の小さいロームブロックを少量含む層の３層に大別できる。これらの大別３層の番号は概ね堆積の順序と一致している。①はその様相から人為堆積と考えられ、ロームブロックの粒が角張っており、底面との間に間層を挟まないことから、周溝掘削後、比較的短期間のうちに埋め戻された土と判断される。この埋め戻しの土は周溝２区から７区までの範囲に顕著にみられる。その中でも１段深く掘り込まれている部分に厚く堆積する傾向があり、Ｅラインの土層断面に表れているように上段との段差をなくし、周溝底面のレベルを平均化する目的で埋め戻しを行なったことが推察される。その際に使用された土はロームブロックが多量に含まれていることから、墳丘に盛った土のうち余剰分の土を使用したと考えられる。②はおそらく植物の腐食による黒色土化に関連すると思われる。ただし、ローム粒子や粒径の小さなロームブロックも混入することから、堆積土の腐植土化と周辺からの土の流入や墳丘および周溝壁面の崩落が同時進行であったことを窺わせる。③の堆積土は埋没の最終段階に堆積した土層であり、②と比較してローム粒子の含有量が増え、方台部からの流入量が多いことから墳丘の崩落がさらに進行したと結果と考えられる。また、より色調が褐色に近くなることは上部平坦面で黒色土の発達が弱いことも関連していよう。

遺物：周溝７区の検出面から１の土師器壺が、２区の上層から２の土製品が出土した。１は上記③の段階に周溝内に流れ込んだ遺物であり、墳丘部に供献された土器が墳丘の崩落に伴って周溝内に流れ込んだものと考えられる。なお、この土師器壺は下部平坦面のＪ５グリッドに位置する試掘トレンチ調査時に出土した破片と接合しており、下部平坦面へ相当量の土層流出があったことが窺われる。本遺構に伴うと思われる遺物はこの２点のみである。このほか多数の遺物が出土しているが、いずれも周辺からの流れ込みと考えられる縄文土器・弥生土器・石器等他の時代の遺物である。

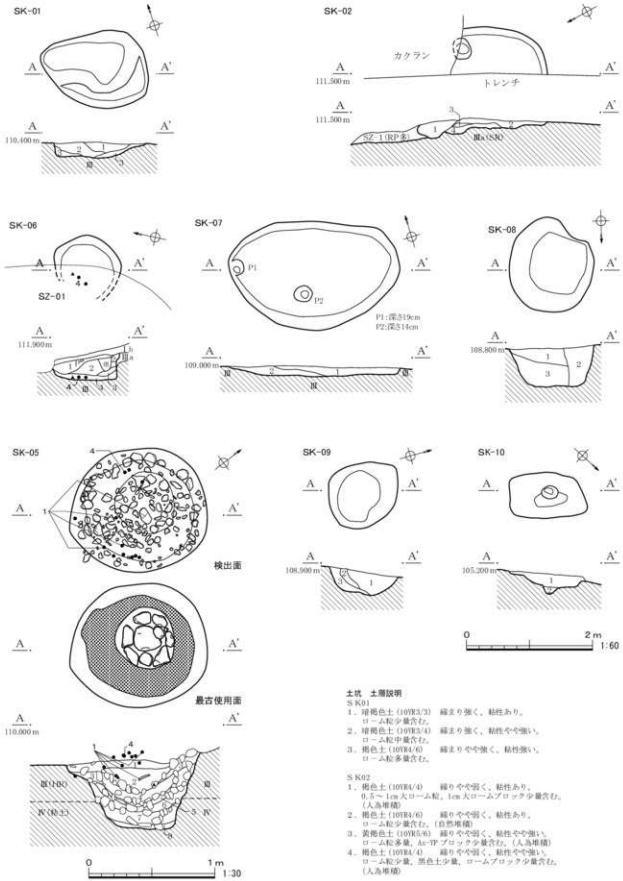
所見：本遺構の廃絶時期は出土遺物から古墳時代前期中葉に求められる。現況での墳丘の有無は確認できなかったが、周溝土層断面の観察から墳丘が存在した可能性は高い。また、墳丘盛土にはローム土を主として使用したと考えられ、余剰分の土は周溝底面をならす目的で埋め戻されたことが窺われた。周溝は隅部が浅く、各辺の中央が深いことから隅部を構築時および完成後の通路（陸橋）としていた可能性がある。

５　土坑

土坑は合計で 41 基が検出された（第 22 ～ 25・34・35 図、第８～ 10 表 / 写真図版 10 ～ 13・19・20）。SK-01 を除きすべてＡ２地点で検出されている。出土遺物や覆土の様相などから SK-01 ～ 04（時期不明）以外は縄文時代に帰属すると考えられる。縄文時代の土坑は前期後半（諸磯ａ式期）と中期前葉～中葉（五領ヶ台Ⅱ式～加曽利ＥⅠ式期）の２時期に集中する。

前期後半の土坑は SK-06・17・18・21・25・30・32 などが細別時期を推定できる主要なものであり、同時期の住居跡 SI-10 の周辺に集中して分布する。形態は円形を基調とするものが多い。覆土は基本的に比較的締まりのある黒褐色土を主体とし、少量のローム粒子を含む。遺物はいずれも小破片の状態で集積せずに散在して出土している。ただし、SK-21 では石匙１点、スクレイパー１点の完形品が覆土上層から出土しているため、これについては副葬品の可能性があり、土坑墓の可能性が高い。

中期前葉～中葉の土坑は SK05・07・11・12・16・23・24・34 などが細別時期を推定できる主要なものである。五領ヶ台Ⅱ式期（SK-11）、加曽利ＥⅠ式・曽利Ⅰ式期（SK-23）のものが認められた。形態は前期の土坑と同様に円形を基調とするものが多い。これらの中で特筆されるのは SK-05・11・12・23 である。



土坑　土層説明

S K01

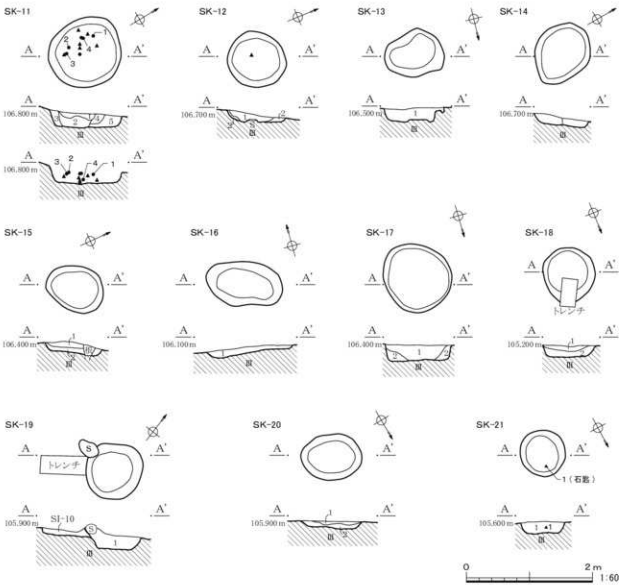
1．暗褐色土（10YR3/3）　締まり強く、粘性あり。
　ローム粒少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）　締まり強く、粘性やや強い。
　ローム粒中量含む。
3．褐色土（10YR4/6）　締まりやや強く、粘性強い。
　ローム粒多量含む。

S K02

1．褐色土（10YR4/4）　締りやや弱く、粘性あり。
　0.5～1cm大ローム粒、1cm大ロームブロック少量含む。
　（人為堆積）
2．褐色土（10YR4/6）　締りやや弱く、粘性あり。
　ローム粒少量含む。（自然堆積）
3．黄褐色土（10YR5/6）　締りやや弱く、粘性やや強い。
　ローム粒多量、As-YPブロック少量含む。（人為堆積）
4．褐色土（10YR4/4）　締りやや弱く、粘性やや強い。
　ローム粒少量、黒色土少量、ロームブロック少量含む。
　（人為堆積）

第22図　1・2・5～10号土坑

SK-05 ではまばらに敷設された多量の被熱礫（角礫）を主体とする層と炭化物主体の層が互層となって検出された。これは土坑を炉として使用し、使用済みの燃料の上から新たに礫を敷設し、その上にまた燃料を設置して再度使用したと考えられる。土層断面の観察からこのような行為が少なくとも４回は確認できたが、確認できる単位が使用回数と同じであるかは不明である。また、底面の中央には大型の扁平礫が敷設されており、その周りには小～中型の扁平礫が敷設されていた。石材はいずれも結晶片岩である。なお、掘り方の壁面は焼土化が顕著であったことから、最初期の使用時には角礫を敷設せずに火を炊いたことが窺われる。このように繰り返し礫を敷設しながら使用を続けることで徐々に土坑の使用面は高くなってゆき、１層には炭化物がほとんど含まれていないことから、本層堆積直前には使用が停止され、そのまま自然堆積によって埋没したものと考えられる。出土した礫の総量は 189kg でチャートが石材の９割以上を占める。これらのチャートは基本土層Ⅵ層の礫層から採取できるため、最も採取の容易な石材を選択した結果と考えられる。本遺構の帰属時期は出土した土器に無文土器



土坑　土層説明

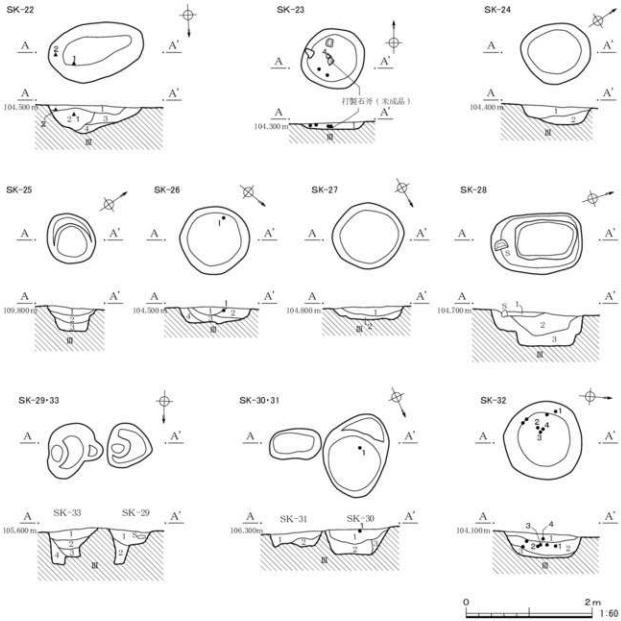
ＳＫ05

1．褐色土（10YR4/4）　縁りやや弱く、粘性やや強い。ローム粒少含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）　縁りあり、粘性やや強い。
　ローム粒少量、1～2cm 大ロームブロック少量、炭化物含む。
3．黄褐色土（10YR4/6）　縁りやや弱く、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
4．黒色土（10YR2/1）　縁り弱い、炭多量含む。
5．黒色土（10YR2/1）　縁り弱い、炭多量含む。
6．黒色土（10YR2/1）　縁り弱い、炭多量含む。
7．黒色土（10YR2/1）　縁り弱い、炭多量含む。
8．黒褐色土（10YR3/2）　縁まりあり、1～3cm 大ロームブロック中量含む。

ＳＫ06

1．暗褐色土（10YR3/4）縁りやや弱く、粘性あり。
　ローム粒微量、0.5cm 大ロームブロック微量含む。
2．褐色土（10YR4/4）縁りやや強く、粘性やや強い。ローム粒中量、黒色土粒中量、
　1cm 大ロームブロック微量、炭化物少量含む。

第 23 図　11 ～ 21 号土坑



土坑　土層説明

3．褐色土（10YR4/6）　締りやや弱く、粘性やや強い、ローム粒中量含む。
4．黄褐色土（10YR5/6）　締り強く、粘性強い、ローム粒多量含む。

SK07
1．褐色土（10YR4/6）　締りやや強く、粘性やや強い。
ローム粒多量、0.5～1cm大ロームブロック微量含む。（自然堆積）
2．褐色土（10YR4/4）　締りあり、粘性あり。
ローム粒中量、0.5～1cm大ロームブロック少量、黒色土ブロック多量含む。
（自然堆積）

SK08
1．暗褐色土（10YR3/4）　締り強く、粘性あり。
ローム粒少量、ロームブロック少量含む。
2．黄褐色土（10YR5/6）　締り強く、粘性強い、ローム粒多量、As-YP少量含む。
3．黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強く、粘性強い、ローム粒大量含む。

SK09
1．暗褐色土（10YR3/4）　締り強く、粘性あり、ローム粒少量、As-YP少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）　締り強く、粘性やや強い、ローム粒中量、As-YP微量含む。
3．褐色土（10YR4/6）　締りやや強く、粘性強い、ローム粒多量、As-YP微量含む。

SK10
1．褐色土（10YR4/4）　締りやや強く、粘性やや強い、ローム粒多量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　締りやや弱く、粘性やや強い、ローム粒大量含む。

SK11
1．褐色土（10YR4/6）　締り強く、粘性やや強い、ローム粒多量、1cm大ローム
ブロック少量、炭化物少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）　締り強く、粘性あり、
ローム粒中量、1cm大ロームブロック少量、炭化物中量含む。
3．黄褐色土（10YR5/6）　締りあり、粘性強い、ローム粒大量、ロームブロック微量、
炭化物少量含む。
4．褐色土（10YR4/4）　締りやや弱く、粘性やや強い、ローム粒中量、炭化物微
量含む。
5．褐色土（10YR4/4）　締りやや強く、粘性やや強い、ローム粒中量、炭化物微
量含む。

SK12
1．褐色土（10YR4/6）　締りやや強く、粘性やや強い、ローム粒中量含む。
2．黄褐色土（10YR5/6）　締りあり、粘性強い、ローム粒多量、炭化物微量含む。

SK13
1．褐色土（10YR4/6）　締りやや弱く、粘性やや強い、ローム粒多量、0.5～
3cm大ロームブロック中量、黒色土ブロック少量含む。

SK14
1．褐色土（10YR4/6）　締りやや弱く、粘性やや弱い、ローム粒多量含む。

SK15
1．褐色土（10YR4/6）　締りやや弱く、粘性やや弱い、ローム粒多量含む。
2．黄褐色土（10YR5/6）　締りあり、粘性強い、0.5～3cm、10cm大ロームブロ
ック多量含む。

SK16
1．褐色土（10YR4/4）　締りやや弱く、粘性強い、ローム粒中量含む。1cm大黒
色土ブロック少量含む。

第24図　22～33号土坑（1）

土坑　土層説明

S K 17
1．褐色土（10YR4/6）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　縁りやや強く、粘性やや強い。ローム粒少量、1cm 大ロームブロック中量含む。

S K 18
1．褐色土（10YR4/6）　縁り強く、粘性やや強い。ローム粒中量、1.0cm 大ロームブロック少量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　縁り強く、粘性強い。ローム粒多量、2.0cm 大ロームブロック少量含む。

S K 19
1．褐色土（10YR4/6）　縁り強く、粘性やや強い。As-YP 少量、黒色土ブロック多量含む。
2．黄褐色土（10YR5/6）　縁りやや弱く、粘性強い。ローム粒多量含む。

S K 20
1．褐色土（10YR4/6）　縁りやや強く、粘性やや強い。ローム粒中量、As-YP 少量含む。
2．黄褐色土（10YR5/6）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒多量、As-YP 少量含む。

S K 21
1．褐色土（10YR4/6）　縁りやや弱く、粘性やや弱い。ローム粒多量含む。

S K 22
1．黄褐色土（10YR5/6）　縁りあり、粘性強い。ローム粒大量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　縁りやや弱く、粘性強い。ローム粒大量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）　縁り強く、粘性やや強い。ローム粒多量、Ⅱ層ブロック少量、As-YP 微量含む。
4．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒多量、Ⅱ層ブロック微量含む。

S K 24
1．褐色土（10YR4/6）　縁りやや強く、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
2．黄褐色土（10YR5/8）　縁りあり、粘性強い。ローム粒大量含む。

S K 25
1．黒褐色土（10YR3/2）　縁りやや弱く、粘性あり。ローム粒少量、0.5～3cm 大炭化物少量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　縁りあり、粘性強い。ローム粒大量、0.5～1cm 大炭化物微量含む。
3．黄褐色土（10YR5/6）　縁りやや弱く、粘性強い。ローム粒大量、0.5～1cm 大炭化物微量含む。

S K 26
1．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒少量、0.5～1cm 大ロームブロック少量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　縁りやや弱く、粘性あり。ローム粒中量、0.5～3cm 大ロームブロック中量含む。
3．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒中量、0.5～3cm 大ロームブロック中量含む。（人為堆積）
4．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　縁りやや弱く、粘性強い。ローム粒多量、0.5～1cm 大ロームブロック少量含む。（人為堆積）

S K 27
1．褐色土（10YR4/4）　縁りやや弱く、粘性やや強い。
ローム粒多量、0.5～1cm 大ロームブロック微量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒中量、0.5～3cm 大ロームブロック多量含む。（人為堆積）

S K 28
1．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性強い。ローム粒多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）　縁り強い、粘性ややあり。ローム粒中量、ロームブロック、0.5～1cm 大炭化物少量含む。
3．黄褐色土（10YR5/6）　縁りやや弱い、粘性強い。ローム粒大量含む。

S K 29
1．褐色土（10YR4/6）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒多量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　縁りやや強い、粘性あり。ローム粒中量含む。
3．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性あり。ローム粒少量含む。
4．黄褐色土（10YR5/6）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒多量含む。

S K 30
1．褐色土（10YR4/4）　縁りやや強く、粘性やや強い。
ローム粒中量、0.5～2cm 大ロームブロック少量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　縁りやや強く、粘性やや強い。
ローム粒多量、0.5～2cm 大ロームブロック少量含む。

S K 31
1．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性やや強い。
ローム粒中量、0.5～3cm 大ロームブロック中量含む。
2．褐色土（10YR4/6）　縁りやや強く、粘性強い。
ローム粒多量、0.5～1cm 大ロームブロック少量含む。

S K 32
1．褐色土（10YR4/6）　縁りやや弱く、粘性あり。ローム粒中量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性やや強い。
ローム粒多量、0.5～1cm 大ロームブロック多量含む。
3．黄褐色土（10YR5/6）　縁りやや強く、粘性強い。
ローム粒大量、0.5～3cm 大ロームブロック多量含む。

S K 33
1．褐色土（10YR4/6）　縁りあり、粘性強い。ローム粒多量含む。
2．褐色土（10YR4/4）　縁りあり、粘性やや強い。ローム粒中量含む。

第 25 図　22 ～ 33 号土坑 (2)

が多く、詳細な時期を明らかにし得ないが、概ね五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰａ式の所産と考えられる。　SK-11 では石鏃の完形品が 1 点、SK-12 では扁平礫が土坑中央から、SK-23 では欠損した打製石斧の未成品がおなじく土坑中央から出土した。いずれも底面から浮いた状態で出土しているものの、意図的な配置が窺われる。SK-11 は土坑墓、他の土坑も埋葬に関わる土坑の可能性がある。中期の土坑は　そのほかの時期では SK-22・28 から早期前葉の撚糸文土器が出土している。

表 3　土坑一覧表 (1)

単位：ｃｍ

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	備考
SK-01	A 1 北西	174	125	29	時期不明。縄文か古代。
SK-02	E16	[132]	[74]	11	縄文土器（阿玉台か）、土師器坏 (9C)、礫（チャート）。
SK-03	E15	173	164	3	
SK-04	D16	169	145	16	
SK-05	E13	120	98	55	縄文中期前葉（五領ヶ台Ⅱ）。被熱礫を多量に伴う土坑。多量の炭化物層。片岩あり。
SK-06	F16	109	－	49	縄文前期後葉（諸磯 a）。SZ-01 に切られる。棒状礫（片岩）1、礫（チャート）1。
SK-07	F12	272	174	16	縄文中期前葉（五領ヶ台Ⅱ～阿玉台Ⅰａ）。剥片（頁岩 2・砂岩 1）、RF（頁岩 1）、礫（片岩 6、チャート 1）。
SK-08	D11	150	132	62	
SK-09	C11	128	108	34	
SK-10	C 9	123	73	32	
SK-11	C 8	122	112	24	縄文中期前葉（五領ヶ台Ⅱ～阿玉台Ⅰａ）。石鏃 1、剥片（片岩 2・砂岩 1）土坑墓か。
SK-12	D 8	94	92	15	礫（頁岩 1）。
SK-13	C 8	95	78	22	
SK-14	C 8	104	86	16	RF（頁岩 1）。
SK-15	C 7	93	73	17	
SK-16	E 8	124	72	12	縄文中期か。無文土器の小片多い。

表４　土坑一覧表 (2)

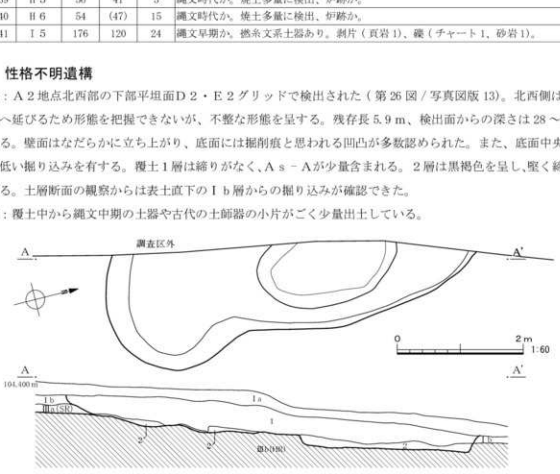
単位：ｃｍ

SK-17	Ｄ８	114	105	26	縄文前期後葉（諸磯ａ）。小片ばかり。
SK-18	Ｄ８	89	84	18	縄文前期後葉（諸磯ａ）。
SK-19	Ｅ７	94	90	20	縄文前期後葉以降。SI-10 を切る。
SK-20	Ｆ９	98	76	12	縄文時代か。
SK-21	Ｄ７	74	72	20	縄文前期後葉（諸磯ａ）。Sc1、石恵１。RF（頁岩１）。土坑墓か。
SK-22	Ｄ４	153	91	44	縄文早期前葉（撚糸文）。剥片（頁岩３・砂岩１・片岩３）、礫（片岩・チャート・頁岩・蛍山岩各１）。
SK-23	Ｅ４	104	99	15	縄文中期（加曽利ＥⅠか）。磨利式系土器。打製石斧未成品（蛍山岩１）、礫（片岩５、チャート１、砂岩１）。
SK-24	Ｆ４	112	101	29	縄文中期前葉と前期後葉が混ざる。
SK-25	Ｆ４	87	76	37	縄文前期後葉（諸磯ａ）。剥片（頁岩・片岩・チャート各１）。
SK-26	Ｅ４	110	109	27	縄文中期か。無文土器ばかり。剥片（黒曜石１・片岩２）、礫（チャート・砂岩各１）。
SK-27	Ｅ５	115	105	21	縄文時代か。
SK-28	Ｅ５	144	97	53	縄文早期前葉（撚糸文）か。剥片（片岩５）、扁平礫（片岩１）。
SK-29	Ｅ４	72	72	55	縄文時代か。
SK-30	Ｅ６	134	101	40	縄文前期後葉（諸磯ａ）。
SK-31	Ｅ６	82	49	23	縄文時代か。
SK-32	Ｆ３	125	123	35	縄文前期後葉（諸磯ａ）。早期撚糸文混入。剥片（砂岩１）、礫（片岩２・チャート４・緑色岩類１）、RF（砂岩１）。
SK-33	Ｄ４	93	85	54	縄文時代か。棒状礫（緑色岩類１）。
SK-34	Ｉ４	103	100	19	中期前葉（五領ヶ台Ⅱ）か。無文土器多い。礫（片岩３・チャート１）。
SK-35	Ｉ５	145	120	18	縄文時代か。
SK-36	Ｉ５	130	－	38	縄文時代か。
SK-37	Ｈ５	45	36	3	縄文時代か。焼土多量に検出、炉跡か。
SK-38	Ｈ５	63	57	27	縄文早期か。撚糸文系土器あり。礫（チャート１）。焼土多量に検出、炉跡か。
SK-39	Ｈ５	56	41	3	縄文時代か。焼土多量に検出、炉跡か。
SK-40	Ｈ６	54	(47)	15	縄文時代か。焼土多量に検出、炉跡か。
SK-41	Ｉ５	176	120	24	縄文早期か。撚糸文系土器あり。剥片（頁岩１）、礫（チャート１、砂岩１）。

６　性格不明遺構

遺構：Ａ２地点北西部の下部平坦面Ｄ２・Ｅ２グリッドで検出された（第 26 図 / 写真図版 13）。北西側は調査区外へ延びるため形態を把握できないが、不整な形態を呈する。残存長 5.9 m、検出面からの深さは 28 ～ 50cm を測る。壁面はなだらかに立ち上がり、底面には掘削痕と思われる凹凸が多数認められた。また、底面中央部に一段低い掘り込みを有する。覆土１層は締りがなく、Ａｓ－Ａが少量含まれる。２層は黒褐色を呈し、堅く締まっている。土層断面の観察からは表土直下のＩｂ層からの掘り込みが確認できた。

遺物：覆土中から縄文中期の土器や古代の土師器の小片がごく少量出土している。



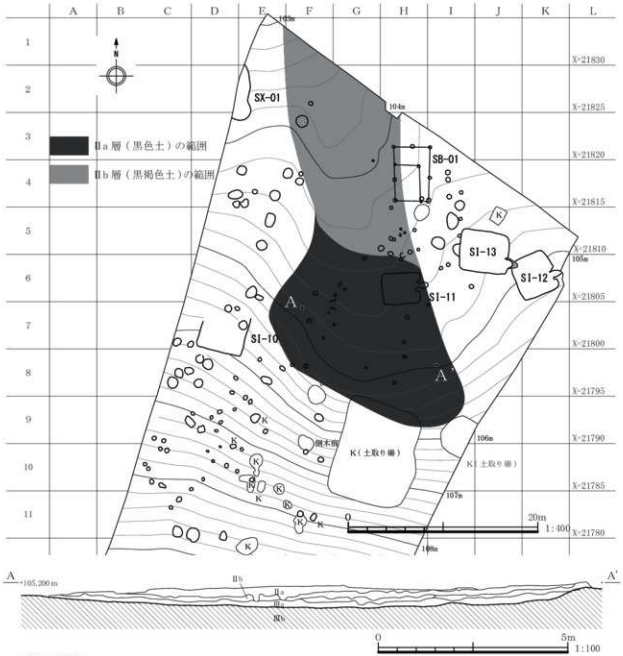
SK-01　土層説明
1．褐灰土 (10YR4/1)　　締まりやや弱い、粘性やや弱い、As-A 微量含む。
2．黒褐色土 (10YR3/2)　締まりやや強い、粘性やや弱い、As-A 中量、0.5 ～ 1cm 大ロームブロック少量含む。

第 26 図　１号性格不明遺構

所見：当初は住居跡と想定していたが、柱穴や付帯施設・および硬化面が認められず、底面も平坦でないことから、性格不明の竪穴状遺構とした。本遺構の廃絶時期は覆土に含まれるＡｓ－Ａから 1783 年以降に求められる。出土した縄文土器や土師器は周辺からの流れ込みであろう。

7　埋没谷

Ａ２地点下部平坦面中央部付近に位置する浅い谷である（第 27 図／写真図版 13）。この谷はローム粒子を全く含まない特徴的な黒色土（Ⅱ層）によって埋没しており、東西約 33.5 m、南北約 22.5 mの範囲で確認された。深さはⅢａ層までの最深部で 40cm を測る。Ⅱ層は色調によって細別され、より黒味の強いⅡａ層、ローム層と



埋没谷　土層説明
Ⅱa．黒色土（10YR1.7/1）　縁まりやや弱い、粘性やや弱い。
Ⅱb．黒褐色土（10YR2/2）　縁まりあり、粘性あり。ローム粒少量含む。
Ⅲa．黒褐色土（10YR2/3）　縁まりやや強い、粘性やや強い。ローム粒中量含む。
Ⅳb．褐色土（10YR4/4）　縁まりやや強い、粘性やや強い。ローム粒多量、1cm 大ロームブロック少量、As-YP 多量含む。

第 27 図　埋没谷

の漸移層的なⅡb層に区分できる。Ⅱa層は有機物（主に植物）の腐食により形成されたと考えられ、形成時にはおそらく、人為的な開発がほとんど及んでいない原野であったと考えられる。なお、Ⅱb層下部のローム層（Ⅲa層）中にはAs-YPと推定される黄色のテフラが確認できた。また、9世紀代に帰属すると考えられる11号住居跡がⅡ層上面で検出されており、この住居はローム土の再堆積層と考えられる褐色土によって埋没している。

また、遺物はほとんど含まれないが、早期の撚糸文土器や円礫がⅡb層の掘削中に出土している（第36図参照）。これらの点から総合するとⅡ層の形成開始期は縄文時代早期前葉まで遡る可能性があり、11号住居が廃絶された9世紀後半ころにはすでにローム土の再堆積が著しく進行していたものと考えられる。これらの現象は人為的な開発によって起こったことが予想される。

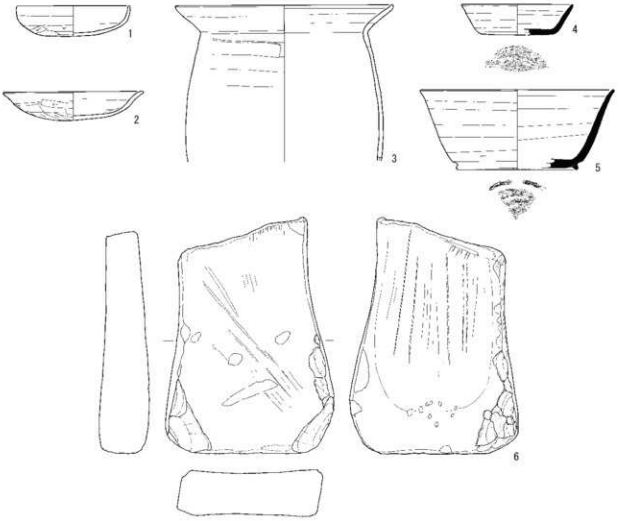
8　遺構外出土遺物

表土掘削時に遺構外から出土した遺物や表採遺物、および遺構本来の帰属時期と異なる遺物の中で特徴的なものを抽出し、掲載した（第36・37図、第10～12表／写真図版21・22）。縄文土器や石器が多く、大半がA2地点の上部平坦面に位置する1号方形周溝墓から出土したものである。これらは縄文早期前葉～後期初頭、弥生中期中葉と帰属時期にかなりのばらつきがあり、24のように大破片も混入することから周囲に遺構が存在していた可能性は高いが、縄文前期諸磯a式期のSK-06以外に周辺で縄文・弥生時代の遺構を検出することはできなかった。人為的な検出ミスもあろうが、ローム土の再堆積層を主体とする表土の様相から当該時期の遺構が土壌の流出によって失われ、方形周溝墓の埋没過程で周溝内に流れ込んだ遺物が残ったものと考えられる。

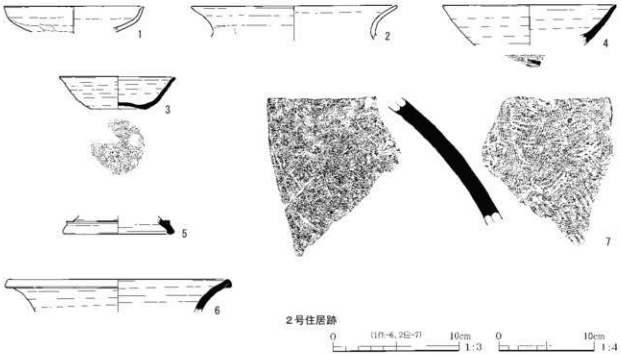
1～8は縄文時代早期前葉の撚糸文系土器である。口縁部が肥厚し、口端部や胴部に撚糸文が回転施文される。1～7は井草2ないし大丸式に、8は無文で東山式に比定されようか。9～11は早期中葉の沈線文系土器、12は後葉の条痕文系土器で内外面に条痕文を施文し、胎土にはわずかに繊維を含む。13～17は前期の土器である。13～15は前期中葉の有尾・黒浜式、16・17は後葉の諸磯a式に比定される。18～41は中期の深鉢形土器である。五領ヶ台Ⅱ式、阿玉台Ⅰa～Ⅰb式、勝坂式（35～37）、加曽利EⅠ式、加曽利EⅡ式が確認できた。24は表面のナデ痕が顕著でないことから阿玉台Ⅰb式に近いと思われるが、隆帯を断面三角形状に仕上げる点など古い要素を残す。

42～45は中期の浅鉢形土器を一括した。42は内面に有節沈線によって文様が施文され、五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰa式期、43～46は内面に稜を有する阿玉台式系の浅鉢である。45・46は波状口縁と思われる。丁寧なミガキが施される。47・48は後期初頭称名寺式、49は後期中葉の加曽利B2式に比定される。50～52は弥生時代中期中葉でも前半段階に帰属する平沢式系の壺形土器である。50は地文が欠落し、文様施文方法も縁取りの太沈線がない点など平沢式の範疇からはかなり逸脱している。51・52は地文があり、櫛歯状工具による雑な連弧文が施文される。53は須恵器蓋で環状の摘みが付される。54は須恵器坏で回転糸切りによる底部切り離しののち、糸切り痕を残して高台が貼付されている。胎土は粗く、片岩を多量に含む。55・56はチャート製の石鏃である。

以上、遺構外遺物について概観したが、縄文土器は幅広い時期にわたるものの、縄文後期称名寺式期までに、前期では前葉および末葉の時期、中期では阿玉台Ⅱ式期、加曽利EⅢ式～EⅣ式期の遺物が欠落し、この時期に断絶が見られる。このほか、小片のため図示し得ないが、A2地点の上部平坦面の調査区外で布目痕のある丸瓦が1点表採された。

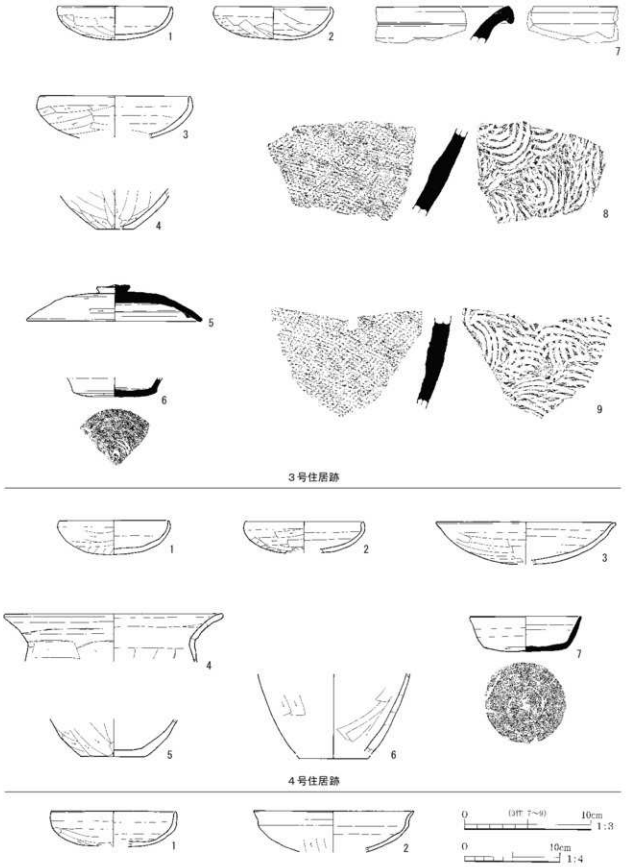


1号住居跡

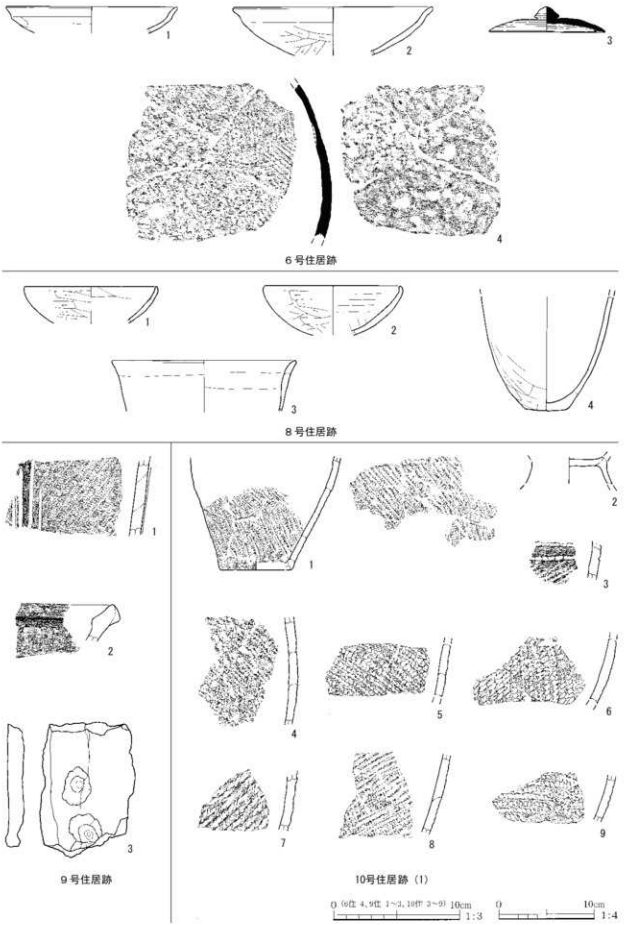


2号住居跡

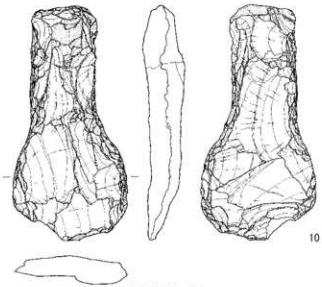
第28図　1・2号住居跡出土遺物



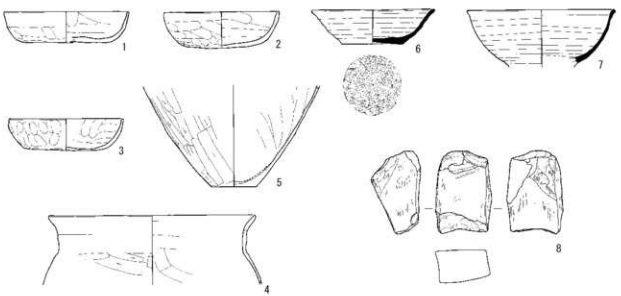
第29図　3・4・5号住居跡出土遺物



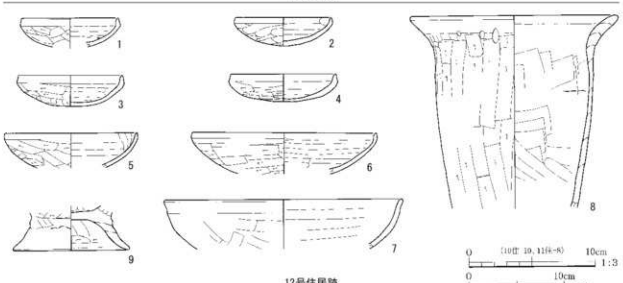
第30図　6・8・9・10号住居跡出土遺物



10号住居跡（2）

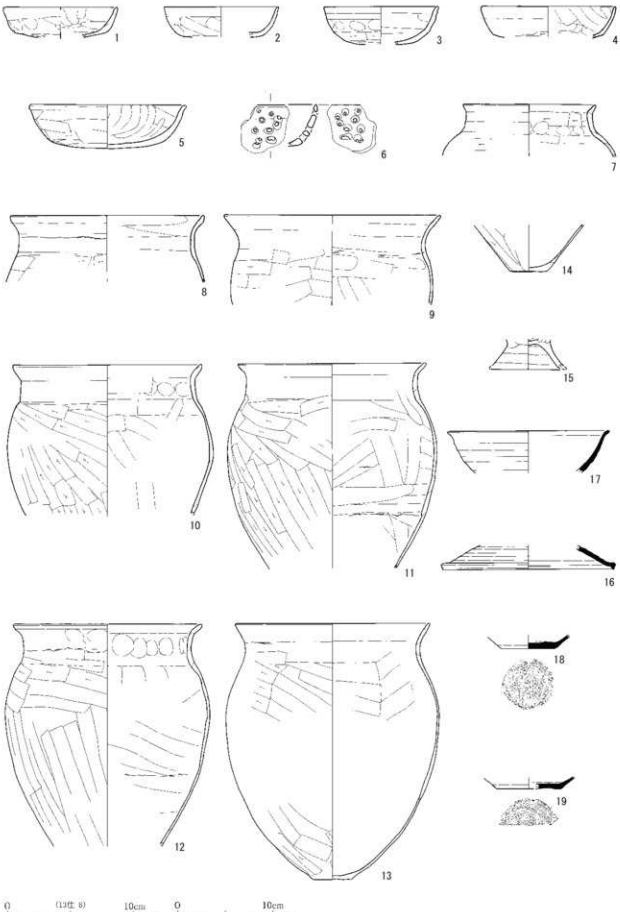


11号住居跡

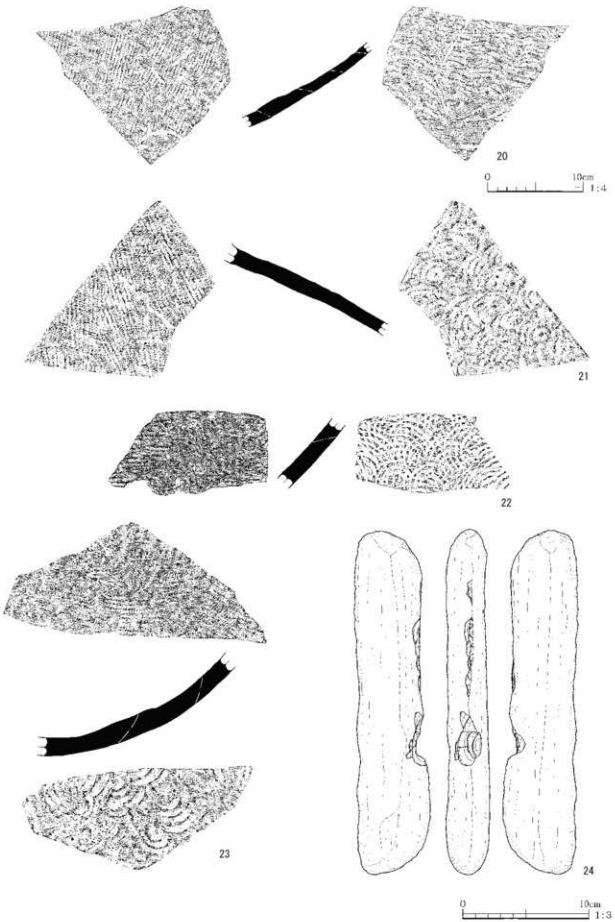


12号住居跡

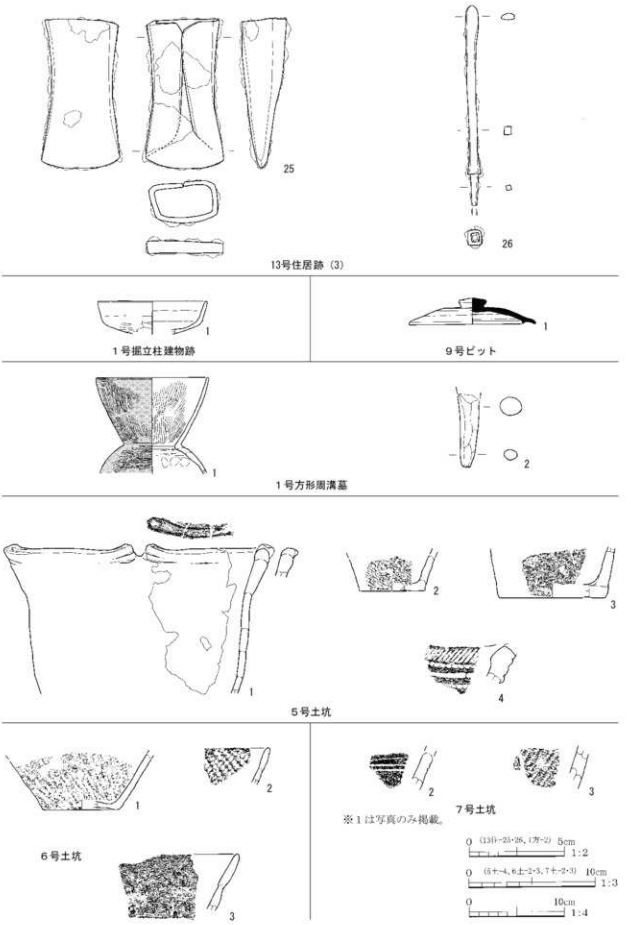
第31図　10・11・12号住居跡出土遺物



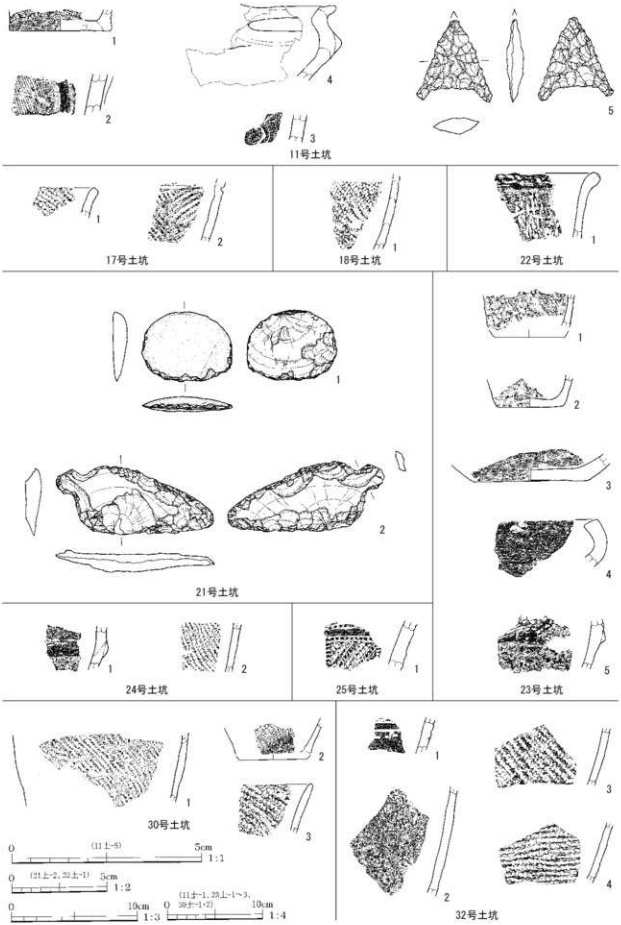
第 32 図　13 号住居跡出土遺物（1）



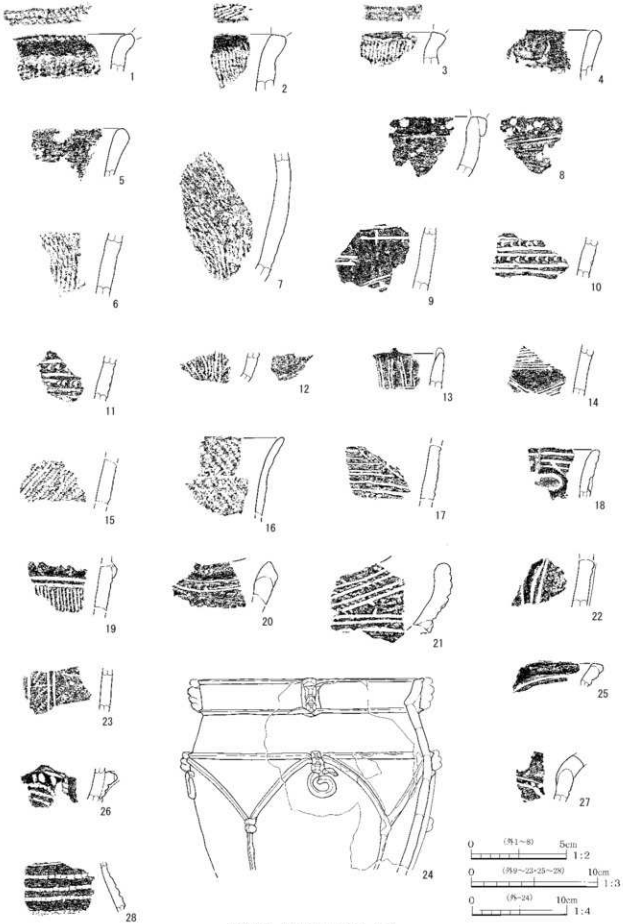
第33図　13号住居跡出土遺物（2）



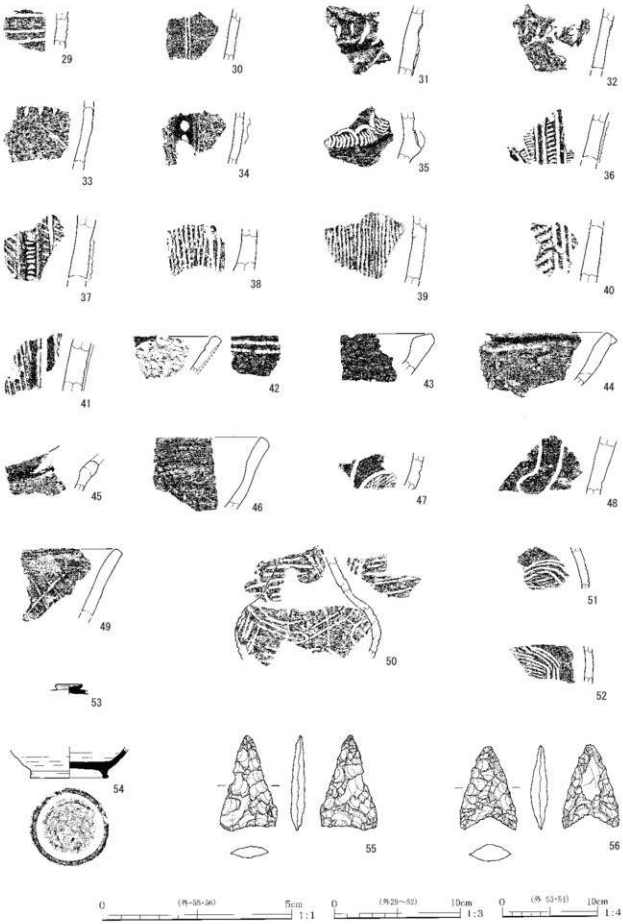
第34図　13号住居跡（3）、1号掘立柱建物跡、1号墓、5～7号土坑、9号ピット出土遺物



第35図　11・17・18・21～25・30・32号土坑出土遺物



第36図　遺構外出土遺物（1）



第 37 図　遺構外出土遺物（2）

表５　１～４号住居跡出土遺物観察表

SI-01	1	土師器 坏	A．口径 12.0．器高 3.2．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外一橙色。F．略完形。H．覆土中。
	2	土師器 坏	A．口径 14.8．器高 3.1．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外一橙色。F．略完形。H．覆土中・掘り方。
	3	土師器 甕	A．口径 (23.0)．残存高 16.5．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内外一橙色。F．口縁部～胴部。H．覆土中。
	4	須恵器 坏	A．口径 (11.8)．底径 (7.8)．器高 3.3．B．ロクロ成形。C．外面、口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り後ヘラケズリ。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石多・骨針・黒色粒。E．内外一黄灰色。F．口縁～底部 1/4．H．覆土中。
	5	須恵器 瓦	A．口径 (20.4)．底径 (12.8)．器高 8.4．B．ロクロ成形。C．外面、口縁部～体部回転ナデ、体部下端～底部回転ヘラケズリ。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英多・金雲母・片岩。E．内一にぶい黄橙色。外一にぶい黄色。F．口縁～底部 1/3．H．覆土中。
	6	石製品 砥石	A．長さ 18.7。幅 13.3．厚さ 4.2．重量 1275.5．D．安山岩。F．上端部欠損．G．全面に研ぎ痕・摩り痕。H．覆土上層。
SI-02	1	土師器 坏	A．口径 (14.7)．残存高 2.7．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英多・赤色粒。E．内外一橙色。F．口縁部．H．P5。
	2	土師器 甕	A．口径 (28.0)．残存高 3.6．B．粘土紐積み上げ．C．内外面、口縁部ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩・チャート・白色粒多。E．内外一明黄橙色。F．口縁部．G．表面磨滅．H．P5。
	3	須恵器 坏	A．口径 12.3．底径 5.9．器高 4.5．B．ロクロ成形。C．外面、口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石多・黒色粒。E．内外一灰色。F．略完形。H．覆土中。
	4	須恵器 椀	A．口径 (18.4)．残存高 4.3．B．ロクロ成形。C．内外面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石・黒色粒・白色粒多。E．内外一灰色。F．口縁～底部 1/6．G．重ね焼き痕、底部カキヤブリ痕。H．覆土中。
	5	須恵器 長頸壺	A．底径 (11.9)．器高 1.9．B．ロクロ成形。C．外面、底部回転ナデ。内面、底部回転ナデ。D．石英・長石・黒色粒・白色粒多。E．内一灰黄褐色。外一にぶい黄褐色。F．台部。H．覆土中。
	6	須恵器 甕	A．口径 (24.0)．残存高 3.5．B．ロクロ成形。C．内外面、口縁部回転ナデ。D．石英・長石・黒色粒。E．内外一灰色。F．口縁部．H．覆土中。
	7	須恵器 甕	B．粘土紐積み上げ後タタキ。C．外面、胴部平行タタキ後ナデ。内面、当て具痕、ハケメ。D．石英・長石・白色粒多。E．内一黄灰色。外一黒褐色。F．胴部。H．覆土中。
SI-03	1	土師器 坏	A．口径 (12.2)．器高 3.5．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英・角閃石・赤色粒。E．内外一明橙色。F．口縁～底部 1/2．H．覆土中。
	2	土師器 坏	A．口径 12.2．器高 3.4．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英・角閃石・チャート。E．内外一橙色。F．略完形。H．覆土中。
	3	土師器 坏	A．口径 (16.0)．残存高 4.4．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英多・角閃石・チャート。E．内外一橙色。F．口縁～底部 1/3．H．覆土中。
	4	土師器 甕	A．底径 (2.0)．残存高 4.3．B．粘土紐積み上げ．C．外面、底部ケズリ。内面、底部ヘラナデ。D．石英多・角閃石・白色粒。E．内一にぶい赤褐色。外一にぶい赤褐色。F．底部．H．覆土中。
	5	須恵器 蓋	A．口径 (18.5)。つまみ径 3.4．器高 3.3．B．ロクロ成形。C．外面、口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石多。E．内一にぶい黄色。外一灰黄色。F．略完形。H．覆土上層。
	6	須恵器 坏	A．底径 (8.8)．残存高 2.0．B．ロクロ成形。C．外面、口縁部回転ナデ、体部～底部回転ヘラケズリ。内面、口縁部～底部回転ナデ。D．石英多・長石・黒色粒。E．内外一灰色。F．底部 1/3．H．覆土中。
	7	須恵器 甕	A．残存高 3.3．B．ロクロ成形。C．内外面、口縁部回転ナデ。D．石英・長石多。E．内外一灰色。F．口縁部．H．南東隅覆土中。
	8	須恵器 甕	A．残存高 7.0．B．粘土紐積み上げ後タタキ。C．外面、胴部擬格子目タタキ。内面、胴部同心円当て具痕。D．石英・長石・片岩。E．内一にぶい赤褐色。外一黒褐色。F．胴部。H．北西隅上層。
	9	須恵器 甕	A．残存高 7.4．B．粘土紐積み上げ後タタキ。C．外面、胴部擬格子目タタキ。内面、胴部同心円当て具痕。D．石英・長石・片岩。E．内一明赤褐色。外一にぶい褐色。F．胴部。H．覆土中。
SI-04	1	土師器 坏	A．口径 11.6．器高 3.6．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外一橙色。F．口縁～底部 3/4．H．覆土中。
	2	土師器 坏	A．口径 (12.6)．残存高 3.3．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外一橙色。F．口縁～底部 1/6．H．貼床。
	3	土師器 坏	A．口径 (19.0)．残存高 4.5．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英多・チャート。E．内外一橙色。F．口縁～底部 1/4．H．覆土中。
	4	土師器 甕	A．口径 22.9．残存高 5.0．B．粘土紐積み上げ．C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D．石英多・角閃石・片岩・赤色粒。E．内外一にぶい黄橙色。F．口縁部．H．覆土・貼床。

表6　4～10号住居跡出土遺物観察表

SI-04	5	土師器 甕	A．底径（7.0）。現存高 4.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面，胴部～底部ケズリ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内－オリーブ黒色．外－にぶい褐色。F．底部．G．2次被熱．H．覆土下層。
	6	土師器 甕	A．残存高 8.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面,胴部～底部ケズリ。内面,口縁部～底部ヘラナデ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内－にぶい黄橙色．外－橙色。F．底部．G．2次被熱．H．床面直上。
	7	須恵器 坏	A．口径 11.8，底径 8.7。器高 3.7。B．ロクロ成形。C．外面，口縁部～体部回転ナデ，底部回転ヘラケズリ。内面，口縁部～底部回転ナデ。D．石英・長石多。E．内外－灰色。F．略完形。H．覆土下層。
SI-05	1	土師器 坏	A．口径 13.3，残存高 3.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面,口縁部ヨコナデ,体部～底部ケズリ。内面,口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石・雲母。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/4。H．覆土中。
	2	土師器 坏	A．口径（16.9）。残存高 4.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面，口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面，口縁部～体部ヨコナデ。D．石英多・角閃石・赤色粒。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/6。H．覆土中。
SI-06	1	土師器 坏	A．口径（18.1）。残存高 2.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面，口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面，口縁部～体部ヨコナデ。D．石英多・角閃石・赤色粒。E．内外－橙色。F．口縁部。H．SI-06　P3(床下土坑）下層。
	2	土師器 坏	A．口径（21.1）。残存高 5.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面，口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。D．石英・角閃石・片岩・赤色粒。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/8。H．覆土中。
	3	須恵器 蓋	A．口径 12.2，つまみ径 2.6，器高 2.6。B．ロクロ成形。C．外面，口縁部回転ナデ，体部回転ヘラケズリ。内面，口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石多。E．内外－灰色。F．完形。H．SI-06　P4(床下土坑）下層，13ぼ正位の状態。
	4	須恵器 甕	A．残存高 12.0。B．粘土紐積み上げ後タタキ。C．外面，胴部擬格子タタキ。D．石英・長石・片岩・チャート・赤色粒。E．内外－橙色。F．胴部。H．SI-02　P7 覆土中。
SI-08	1	土師器 坏	A．口径（14.0）。残存高 3.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面，口縁部ヨコナデ，体部ケズリ。内面，口縁部～体部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁部。H．覆土1層。
	2	土師器 坏	A．口径（14.2）。残存高 5.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面,口縁部ヨコナデ,体部ケズリ。内面,口縁部ヨコナデ,体部ナデ。D．石英・角閃石・黒色粒。E．内－にぶい橙色．外－にぶい褐色。F．口縁部。H．覆土1層。
	3	土師器 鉢	A．口径（19.5）。残存高 5.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面，口縁部ヨコナデ，胴部ケズリ。内面，口縁部～胴部ヨコナデ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内外－にぶい黄橙色。F．口縁部。H．覆土中。
	4	土師器 甕	A．底径 4.5，残存高 12.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面，胴部～底部ケズリ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内外－にぶい橙色。F．胴～底部。G．2次被熱。H．カマド左脇覆土中。
SI-09	1	縄文土器 深鉢	A．残存高 6.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面,単節R L縄文タテ施文→タテ隆帯貼付→隆帯脇に丸棒状工具による沈線。内面,ヨコ・タテナデ。D．石英多・金雲母多。E．内外－にぶい褐色。F．胴部。H．検出面。
	2	縄文土器 浅鉢	A．残存高 2.9。B．粘土紐積み上げ。C．内外面,ヨコミガキ。D．石英多・角閃石・片岩。E．内－黄灰色．外－にぶい褐色。F．胴部。H．覆土上層。検出面。
	3	石器 回石	A．長さ 10.7，幅 7.5，厚さ［1.9］。重量 181.6。D．絹雲母片岩。F．上端・下端・左側面・裏面欠損。H．検出面。
SI-10	1	縄文土器 深鉢	A．底径（7.5）。残存高 12.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面，胴部附加条１種縄文（R L＋２L）ヨコ・ナナメ施文。内面,胴部タテケズリ後タテ・ナナメナデ。D．石英・片岩多・チャート・白色粒。E．内外－褐色。F．胴～底部。G．諸磯ａ式。H．P1 埋設。
	2	縄文土器 台付鉢	A．残存高 2.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面,台部ヨコナデ。内面,胴部黒色処理→ミガキ,台部ヨコナデ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内－灰色。外－にぶい褐色。F．台部。G．諸磯ａ式。H．床面直上。
	3	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節R L縄文ヨコ施文→竹管状工具によるヨコ押引文。内面，ヨコケズリ後ナナメナデ。D．石英・金雲母多。E．内外－にぶい黄橙色。F．胴部。G．諸磯ａ式。スス付着。H．覆土１層。
	4	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節R L縄文ヨコ施文。内面，ナナメナデ。D．石英・角閃石。E．内－にぶい褐色。外－にぶい黄橙色。F．胴部。G．諸磯ａ式。H．覆土上層。
	5	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節R L縄文ヨコ施文。内面，タテ・ナナメナデ。D．石英・雲母・片岩・赤色粒。E．内－にぶい橙色．外－にぶい褐色。F．胴部。G．諸磯ａ式。H．覆土下層。
	6	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節R L縄文ナナメ施文。内面，ナナメケズリ後タテミガキ。D．石英・角閃石。E．内－にぶい黄橙色。外－灰色。F．胴部。G．諸磯ａ式。H．覆土１層。
	7	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面,無節L縄文ヨコ施文。内面,タテナデ。D．石英多。E．内外－にぶい黄橙色。F．胴部。H．覆土上層。
	8	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節L R縄文ヨコ施文。内面，タテナデ。D．石英・金雲母・片岩。E．内－にぶい黄橙色。外－にぶい褐色。F．胴部。G．被熱。H．覆土上層。
	9	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，異節斜縄文・単節R L縄文ナナメ施文。内面，タテ・ナナメミガキ。D．石英・長石・片岩。E．内－にぶい黄橙色。外－暗灰黄色。F．胴部。H．覆土上層。
	10	石器 打製石斧	A．長さ 18.5，幅 9.1，厚さ 3.4。重量 443.9。D．ホルンフェルス。G．杓文字形，刃部に摩耗痕あり。F．上端部欠損、刃部ガジリあり。H．検出面。

表７　11～13 号住居跡出土遺物観察表

SI-11	1	土師器 坏	A．口径 (13.2)。底径 (11.0)。器高 3.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ後ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英多。E．内－橙色。外－にぶい黄橙色。F．口縁～底部 1/4。H．覆土上層。
	2	土師器 坏	A．口径 12.2。器高 3.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ後ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英多・角閃石・片岩・赤色粒。E．内外－橙色。F．口縁～底部 3/4。H．覆土下層。
	3	土師器 坏	A．口径 12.1。底径 8.8。器高 3.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部～体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英多・黒色粒・赤色粒。E．内外－橙色。F．略完形。H．覆上土層。
	4	土師器 甕	A．口径 (22.0)。残存高 7.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部～胴部ヘラナデ。D．石英・角閃石・赤色粒。E．内外－橙色。F．口縁部。H．カマド前＋カマド燃焼部。
	5	土師器 甕	A．底径 5.2。残存高 10.6。B．粘土紐積み上げ。C．外面、胴部～底部ケズリ。内面、胴部～底部ヘラナデ。D．石英・赤色粒。E．内－橙色。外－にぶい橙色。F．胴～底部。G．2 次被熱。H．カマド右袖。
	6	須恵器 坏	A．口径 13.1。底径 6.5。器高 3.8。B．ロクロ成形。C．外面、口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り後無調整。内面、口縁部～底部回転ナデ。D．石英・長石・黒色粒・白色粒多。E．内外－黄灰色。F．略完形。H．覆土上層＋下層。
	7	須恵器 瑞	A．口径 15.7。残存高 6.1。B．ロクロ成形。C．外面、口縁部～体部回転ナデ。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石・黒色粒・白色粒多。E．内外－灰色。F．口縁～底部 4/5。H．カマド右袖。
	8	石製品 砥石	A．長さ 6.5。幅 4.4。厚さ 3.9。重量 109.3。D．流紋岩。F．下端部欠損。G．全面に研ぎ痕・摩り痕。H．覆土中。
SI-12	1	土師器 坏	A．口径 10.1。器高 3.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英・赤色粒。E．内外－にぶい橙色。F．口縁～底部 2/3。H．覆土２層。
	2	土師器 坏	A．口径 (10.0)。器高 3.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ後ナデ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/4。H．掘り方。
	3	土師器 坏	A．口径 10.8。器高 2.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．E．内外－にぶい橙色。F．略完形。H．P3＋覆土２層。
	4	土師器 坏	A．口径 (11.0)。器高 2.9。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外－にぶい橙色。F．口縁～底部 1/4。H．覆土２層。
	5	土師器 坏	A．口径 (14.0)。残存高 3.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩・チャート。E．内外－にぶい橙色。F．口縁～底部 4/5。H．掘り方。
	6	土師器 坏	A．口径 (19.4)。残存高 4.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英・角閃石・赤色粒。E．内外－橙色。F．口縁～体部。H．２層＋P7（貯蔵穴）上層。
	7	土師器 坏	A．口径 (25.0)。残存高 5.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外－にぶい橙色。F．口縁～体部。H．覆土２層。
	8	土師器 甕	A．口径 (21.6)。残存高 20.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部～ヘラナデ。D．石英多・角閃石・片岩・チャート・白色粒。E．内外－橙色。F．口縁～胴部 1/4。G．被熱。H．カマド＋覆土２層。
	9	土師器 台付甕	A．底径 (12.0)。残存高 4.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面、台部上位ケズリ、下位ヨコナデ。内面、台部ケズリ後ヨコナデ。D．石英・片岩・白色粒多。E．内外－にぶい橙色。F．台部。H．覆土２層。
SI-13	1	土師器 坏	A．口径 (12.0)。底径 (9.8)。残存高 3.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英多・角閃石。E．内外－にぶい橙色。F．口縁～底部 1/3。H．覆土２層。
	2	土師器 坏	A．口径 (12.0)。底径 (7.8)。残存高 3.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/6。H．覆土１層。
	3	土師器 坏	A．口径 (12.0)。残存高 4.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/4。H．覆土２層。
	4	土師器 坏	A．口径 (14.0)。残存高 3.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/6。H．P18（貯蔵穴）。
	5	土師器 坏	A．口径 (16.4)。器高 4.6。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部～体部上半ヨコナデ、体部下半～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁～底部 1/4。H覆土２層＋P8 上層。
	6	土師器 坏	A．残存高 3.3。B．粘土紐積み上げ。C．内外面、口縁部～体部両側穿孔 10 ヶ所。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁部。H．覆土２層。
	7	土師器 甕	A．口径 (13.8)。残存高 5.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部上端ヨコナデ、下位ケズリ、胴部～ヘラナデ。D．石英・角閃石・白色粒多。E．内外－橙色。F．口縁～胴部。H．P8 上層。
	8	土師器 甕	A．口径 20.4。残存高 6.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部～胴部ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩・赤色粒。E．内－褐色。外－明褐色。F．口縁部。H．カマド煙道敷設。
	9	土師器 甕	A．口径 (22.8)。残存高 9.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部～ヘラナデ。D．石英多・角閃石・片岩。E．内－橙色。外－にぶい橙色。F．口縁～胴部。H．P8 上層。

表８　13号住居跡、1号方形周溝墓、5・6号土坑出土遺物観察表

SI-13	10	土師器 甕	A．口径19.9．残存高15.9．B．粘土紐積み上げ．C．外面,口縁部ヨコナデ,胴部ケズリ。内面,口縁部ヨコナデ,胴部ヘラナデ。D．石英・角閃石・片岩・白色粒多．E．内外一橙色．F．口縁～胴部3/4．H．カマド煙道敷設．
	11	土師器 甕	A．口径19.6．残存高21.7．B．粘土紐積み上げ．C．外面,口縁部ヨコナデ,胴部ケズリ。内面,口縁部ヨコナデ,胴部ヘラナデ。D．石英・黒色粒・白色粒多．E．内外一にぶい橙色．F．口縁～胴部3/4．H．カマド煙道敷設．
	12	土師器 甕	A．口径(19.8)．残存高23.5．B．粘土紐積み上げ．C．外面,口縁部ヨコナデ,下位ケズリ。内面,口縁部ヨコナデ,胴部ヘラナデ。D．石英・黒色粒・白色粒多．E．内外一橙色．F．口縁～胴部3/4．G．スス，被熱，胴下半コゲ．H．カマド煙道敷設．
	13	土師器 甕	A．口径(20.4)．底径4.0．残存高27.0．B．粘土紐積み上げ．C．外面，口縁部ヨコナデ，胴部～底部ケズリ。内面，口縁部ヨコナデ，胴部～底部ヘラナデ。D．石英・片岩多・チャート。E．内外一橙色．F．口縁～底部．G．胴下半スス，胴中位コゲ．H．カマド上～中層．
	14	土師器 甕	A．底径(4.0)．残存高5.0．B．粘土紐積み上げ．C．外面，胴部～底部ケズリ。D．石英・片岩・赤色粒。E．内外一橙色．F．底部．H．カマド覆土中．
	15	土師器 甕	A．残存高3.1．B．粘土紐積み上げ．C．内外面,台部ヨコナデ。D．石英多・角閃石・片岩・チャート。E．内外一にぶい橙色．F．口縁～胴部．H．覆土2層．
	16	須恵器 蓋	A．口径(18.0)．残存高2.6．B．ロクロ成形。C．内外面,口縁部～体部回転ナデ。D．石英・長石・黒色粒。E．内外一黄灰色．F．口縁部．H．P9(床下土坑)．
	17	須恵器 坏	A．口径(17.0)．残存高4.5．B．ロクロ成形。C．外面,口縁部～体部回転ナデ。内面,口縁部～体部ナデ。D．石英多。E．内外一灰色。F．口縁部。H．覆土下層。
	18	須恵器 坏	A．底径6.8．残存高1.5．B．ロクロ成形。C．外面,体部回転ナデ,底部回転糸切り。内面,口縁部～体部回転ナデ。D．石英・黒色粒・白色粒多。E．内外一灰色。F．底部．H．覆土下層。
	19	須恵器 坏	A．底径(7.0)．残存高1.3．B．ロクロ成形。C．外面，体部回転ナデ，底部回転糸切り。内面，体部回転ナデ。D．石英・長石・赤色粒。E．内外一にぶい橙色。F．底部。H．覆土中。
	20	須恵器 甕	A．厚さ0.9～1.4．残存高8.0．B．粘土紐積み上げ後タタキ．C．外面，胴部擬格子目タタキ。内面，胴部同心円当て具痕。D．石英・白色粒多。E．内外一灰色。F．肩～胴部．H．試掘Tr1・覆土2層。
	21	須恵器 甕	A．厚さ1.2．残存高6.3．B．粘土紐積み上げ後タタキ。C．外面,胴部擬格子目タタキ。内面,胴部同心円当て具痕。D．石英・黒色粒・白色粒多。E．内外一灰色。F．胴部．H．覆土中。
	22	須恵器 甕	A．厚さ1.2．残存高5.0．B．粘土紐積み上げ後タタキ．C．外面，胴部平行タタキ後ナデ。内面，胴部同心円当て具痕。D．石英多・白色粒。E．内外一灰色。F．胴部．H．覆土中。
	23	須恵器 甕	A．厚さ1.2～1.5．残存高7.0．B．粘土紐積み上げ後タタキ．C．外面，胴部擬格子目タタキ，下位はケズリ。内面，胴部同心円当て具痕。D．石英多・白色粒。E．内外一灰色。F．胴部。G．外面自然釉。H．覆土中。
	24	石製品 敲編石	A．長さ27.2．幅5.8．厚さ3.4．重量743.2．C．側面に抉り。D．緑泥片岩。H．カマド9層。
	25	鉄製品 鉄斧	A．長さ7.9．幅3.9．厚さ2.3．重さ137.00．C．無刃．袋部断面方形。F．刃部．H．覆土2層。
	26	鉄製品 鉄鏃	A．残存長10.6．幅0.7．厚さ0.35．重さ9.46．C．長頸鏃．鏃身部片丸造，ナデ関．頸部台形関，断面方形。F．中位．H．覆土2層。
SZ-01	1	土師器 坩	A．口径(11.9)．残存高10.2．B．粘土紐積み上げ．C．外面,口縁部～体部ミガキ。内面,口縁部ミガキ。体部ナデ。D．石英・角閃石・片岩．E．内一にぶい褐色．外一明褐色．F．口縁～胴部．G．外面赤彩．H．周溝2区検出面．
	2	土製品 不明	A．残存長3.9．幅1.1．重さ4.13．B．手捏ね。C．外面，ナデ。D．石英多。E．橙色．F．略完形。H．周溝2区上層。
SK-05	1	縄文土器 深鉢	A．口径(27.4)．残存高15.7．B．粘土紐積み上げ．C．外面,ヨコ・ナナメケズリ後ナナメナデ。内面,ヨコナデ。D．石英多・角閃石．E．内外一明赤褐色．F．口縁～胴部．G．五領ヶ台Ⅱ式．H．検出面＋上層．
	2	縄文土器 深鉢	A．底径(7.0)．残存高3.7．B．粘土紐積み上げ．C．外面，単節RL縄文ヨコ施文。内面，ナデ。D．石英・チャート。E．内一橙色．外一明黄褐色。F．底部。G．諸磯ａ式か．H．覆土中。
	3	縄文土器 深鉢	A．底径(11.0)．残存高5.4．B．粘土紐積み上げ．C．外面，ヨコナデ。内面，ヨコ・ナナメナデ。D．石英多・角閃石。E．内一にぶい黄橙色．外一明赤褐色．F．底部．G．五領ヶ台Ⅱ式．H．覆土2層。
	4	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ．C．外面,口唇部集合沈線,口縁部竹管状工具による沈線・角押文．内面，ヨコナデ，ミガキ。D．石英多・金雲母。E．内一橙色．外一明赤褐色．F．口縁部．G．五領ヶ台Ⅱ式．H．検出面．
SK-06	1	縄文土器 深鉢	A．底径8.3．残存高5.8．B．粘土紐積み上げ．C．外面，単節RL縄文ヨコ施文。内面，タテ・ヨコミガキ。D．石英多・片岩・赤色粒。E．内外一明赤褐色。F．胴～底部．G．諸磯ａ式．H．4層＋SZ-01周溝2区上層。
	2	縄文土器 深鉢	A．残存高2.9．B．粘土紐積み上げ．C．外面，単節RL縄文ヨコ施文。内面，ヨコミガキ。D．石英・角閃石。E．内外一橙色．F．口縁部．G．諸磯ａ式．H．覆土中。
	3	縄文土器 深鉢	A．残存高4.1．B．粘土紐積み上げ．C．内外面，ヨコナデ。D．石英多・角閃石。E．内外一にぶい橙色．F．口縁部．G．諸磯ａ式．H．覆土中。

表９　７・11・17・18・21～25・30・32号土坑出土遺物観察表

SK-07	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、隆帯による楕円形区画文→竹管状工具による角押文。内面、ナデ。D．石英、チャート、黒色粒。E．内－にぶい褐色。外－にぶい黄橙色。F．口縁部。G．阿玉台Ⅰｂ式か。H．覆土中。
	2	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管によるヨコ平行沈線。内面、ナデ。D．石英多。E．内－にぶい褐色。外－明赤褐色。F．胴部。G．五領ヶ台式。H．覆土中。
	3	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＲＬ縄文タテ施文後沈線。内面、タテナデ。D．石英多・金雲母。E．内外－にぶい黄橙色。F．胴部。G．五領ヶ台Ⅱ式。H．覆土中。
SK-11	1	縄文土器 深鉢	A．底径（10.9）。残存高2.2。B．粘土紐積み上げ。C．内外面、ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩・白色粒多。E．内外－橙色。F．底部。H．覆土上層。
	2	縄文土器 浅鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、タテ隆帯貼付、無節Ｌ縄文タテ施文。内面、ヨコナデ。D．石英多・角閃石・雲母。E．内外－明赤褐色。F．胴部。G．五領ヶ台Ⅱ式。H．覆土上層。
	3	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管による縦位波状文。内面、ナデ。D．石英・白色粒多。E．内外－明赤褐色。F．胴部。H．覆土上層。
	4	縄文土器 浅鉢	A．残存高5.9。B．粘土紐積み上げ。C．外面、隆帯による楕円形区画文、ヨコケズリ、ヨコナデ。内面、ヨコナデ・ミガキ。D．石英・長石・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁部。G．スス付着。H．覆土上層。
	5	石器 石鏃	A．長さ2.1。幅2.0。厚さ0.4。重量1.06。C．凹基。D．チャート。F．略完形。H．西壁際覆土中層。
SK-17	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＲＬ縄文ヨコ施文。内面、ヨコミガキ。D．石英。E．内外－橙色。F．口縁部。G．諸磯ａ式。H．覆土中。
	2	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＬＲ縄文ヨコ施文→竹管状工具によるヨコ角押文。内面、ヨコナデ。D．石英多・金雲母。E．内－橙色。外－にぶい赤褐色。F．胴部。G．諸磯ａ式。H．覆土中。
SK-18	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＲＬ縄文ヨコ施文。内面、ヨコ・ナナメナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内－橙色。外－にぶい黄橙色。F．胴部。G．諸磯ａ式。H．覆土中。
SK-21	1	石器 Ｓｃ	A．長さ5.5。幅7.1。厚さ1.2。重量47.0。C．素材剥片。主要剥離面側に摩耗痕あり。D．黒色頁岩。F．略完形。H．覆土中。
	2	石器 石匙	A．長さ3.7。幅8.3。厚さ1.2。重量25.8。C．部分的に摩耗痕あり。D．黒色頁岩。F．略完形。H．覆土中。
SK-22	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、燃糸文Ｌタテ施文。口唇部側面圧痕か。内面、ヨコナデ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁部。G．早期前葉。H．覆土中。
SK-23	1	縄文土器 深鉢	A．残存高5.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面、０段多条ＲＬ縄文ヨコ施文か。内面、ヨコナデ。D．石英多・角閃石・片岩。E．内－黒褐色。外－明赤褐色。F．胴部。H．覆土上層。
	2	縄文土器 深鉢	A．底径（7.0）。残存高3.4。B．粘土紐積み上げ。C．内外面、ヨコナデ。D．石英多・片岩。E．内外－にぶい褐色。F．底部。G．内面コゲ。H．覆土上層。
	3	縄文土器 浅鉢	A．底径（12.0）。残存高2.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面、ヨコケズリ後ヨコナデ。内面、ヨコミガキ。D．石英多・片岩。E．内－にぶい黄橙色。外－明赤褐色。F．底部。H．覆土上層。
	4	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．内外面、ヨコミガキ。D．石英・片岩多・チャート。E．内外－にぶい赤褐色。F．胴部。G．曽利Ⅰ式か。H．覆土上層。
	5	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、断面三角形の隆帯貼付→隆帯脇に竹管状工具による角押文。内面、ヨコミガキ。D．石英多・金雲母。E．内－黄灰色。外－にぶい黄褐色。F．口縁部。H．覆土上層。
SK-24	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、ヨコミガキ。内面、ヨコナデ。D．石英・白色粒多。E．内外－赤褐色。F．胴部。G．中期。H．覆土中。
	2	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＬＲ縄文タテ施文。内面、ヨコ・ナナメミガキ。D．石英。E．内外－橙色。F．胴部。H．覆土中。
SK-25	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＬＲ縄文ヨコ施文→半截竹管による押引文。内面、ヨコミガキ。D．石英・骨針。E．内外－橙色。F．胴部。G．諸磯ａ式。H．覆土上層。
SK-30	1	縄文土器 深鉢	A．残存高7.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＲＬ縄文ヨコ施文。内面、タテミガキ。D．角閃石・片岩・白色粒多。E．内外－明赤褐色。F．胴部。H．覆土１層。
	2	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＲＬ縄文ヨコ施文。内面、ヨコナデ。D．石英・角閃石・赤色粒・白色粒多。E．内外－橙色。F．底部。G．諸磯ａ。H．覆土中。
	3	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＲＬ縄文ヨコ施文。内面、ヨコミガキ。D．石英・角閃石。E．内外－橙色。F．口縁部。H．覆土中。
SK-32	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管による沈線、押引文。内面、ヨコナデ。D．石英。E．内外－明赤褐色。F．胴部。G．早期中葉か。H．覆土中。

表 10　32 号土坑、1 号掘立柱建物跡、9 号ピット、遺構外 (1) 出土遺物観察表

SK-32	2	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、撚糸文Lタテ施文。内面、タテナデ。ミガキ。D．石英・長石・角閃石・片岩・赤色粒。E．内外一明赤褐色。F．胴部。G．早期か。H．覆土2層。
	3	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節RL縄文ヨコ施文。内面、ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外一橙色。F．胴部。H．覆土2層。
	4	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節LR縄文ナナメ施文。内面、ヨコナデ。D．石英多・片岩。E．内外一明赤褐色。F．胴部。H．覆土2層。
SB-01	1	土師器 坏	A．口径 (11.6)。残存高 3.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。D．石英・角閃石・赤色粒。E．内外一橙色。F．口縁部～体部。H．P-83 覆土中。
P-09	1	須恵器 壺	A．口径 (13.4)。つまみ径 3.0。器高 2.8。B．ロクロ成形。C．外面、口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・黒色粒・白色粒多。E．内外一灰色。F．口縁部。H．覆土上層。
遺構外	1	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、口唇部撚糸文R回転施文、口縁部撚糸文Rタテ施文。内面、タテナデ。D．石英・片岩多。E．内外一にぶい赤褐色。F．口縁部。G．井草Ⅱ・大丸式。H．S1-13 覆土2層。
	2	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、口唇部撚糸文R回転施文。口縁部撚糸文Rタテ施文。内面、ヨコナデ。D．片岩多。E．内外一にぶい黄橙色。F．口縁部。G．井草Ⅱ・大丸式。H．S1-13 覆土2層。
	3	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、口唇部撚糸文R回転施文。口縁部撚糸文Rタテ施文。内面、ヨコナデ。D．石英多・白色粒。E．内外一明赤褐色。　F．口縁部。G．井草Ⅱ・大丸式。H．S1-12 貼床。
	4	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．内外面、ヨコナデ。D．石英・片岩多。E．内外一明赤褐色。F．口縁部。G．早期前葉。H．埋没谷付近。
	5	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．内外面、ヨコナデ。D．石英・片岩多。E．内外一にぶい褐色。F．口縁部。G．早期前葉。H．埋没谷付近。
	6	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、撚糸文Rタテ施文。内面、タテナデ。D．石英・片岩。E．内外一橙色。F．胴部。G．井草Ⅱ・大丸式。H．S1-11 掘り方。
	7	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、撚糸文Rタテ・ナナメ施文。内面、ヨコナデ。D．石英・チャート。E．内外一明黄褐色。F．胴部。G．井草Ⅱ・大丸式。H．A 2 地点 H 5 グリッド。
	8	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．内外面、ヨコケズリ後ヨコナデ。D．石英多・黒雲母。E．内外一橙色。F．口縁部。G．東山式。H．SZ-01 周溝 5 区 1 層。
	9	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、丸棒状工具によるヨコ短沈線。内面、タテナデ。D．石英・片岩。E．内外一橙色。F．胴部。G．早期中葉。H．SZ-01 周溝 7 区中層。
	10	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管によるヨコ刺突・沈線。内面、ヨコナデ。D．石英・片岩。E．内外一にぶい橙色。F．胴部。G．早期中葉。H．SZ-01 周溝覆土中。
	11	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管による刺突、沈線。内面、ヨコナデ。D．石英多・角閃石。E．内外一明褐色。F．胴部。G．早期中葉。H．SZ-01 周溝 7 区上層。
	12	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、貝殻条痕。内面、ナデ。D．石英・繊維。E．内外一明黄褐色。F．胴部。G．早期後葉。H．S1-13 覆土 2 層。
	13	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部小突起結び、半截竹管によるタテ沈線。内面、ヨコミガキ。D．石英・白色粒多・繊維。E．内外一褐灰色。F．口縁部。G．有尾式。H．SZ-01 周溝 7 区上層。
	14	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管による集合沈線で菱形の文様を施文。内面、ヨコナデ。D．石英・赤色粒・白色粒・繊維多。E．内外一にぶい褐色。F．胴部。G．有尾式。H．SZ-01 周溝 5 区覆土中。
	15	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節RL縄文ヨコ施文。内面、ヨコナデ。D．石英・赤色粒・白色粒多・繊維。E．内外一にぶい黄橙色。F．胴部。G．有尾・黒浜式。H．SZ-01 周溝 5 区覆土下層。
	16	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節RL縄文ヨコ施文。内面、ヨコケズリ。D．石英・片岩。E．内外一橙色。F．口縁部。G．諸磯 a 式、スス付着、焼熱。H．SZ-01 周溝 2 区上層。
	17	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節RL縄文ヨコ施文の後集合沈線。内面、ヨコナデ。D．石英・片岩・チャート。E．内外一赤褐色。F．胴部。G．諸磯 a 式。H．SZ-01 周溝覆土中。
	18	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、隆帯による楕円形区画文→口縁部と隆帯脇に丸棒状工具による沈線。内面、タテナデ。D．石英・片岩。E．内外一橙色。F．口縁部。G．五領ヶ台Ⅰ式。H．S1-08 覆乱土中。
	19	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、ヨコ隆帯貼付→半截竹管状工具ヨコ平行沈線・タテ集合沈線。内面、ヨコナデ。D．石英・片岩多。E．内外一にぶい赤褐色。F．胴部。G．五領ヶ台Ⅰ式。H．SZ-01 周溝 2 区上層。
	20	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、口縁部に沿って半截竹管による平行沈線を施文。内面、ヨコナデ。D．石英多・長石・金雲母。E．内外一灰黄褐色。F．口縁部。G．五領ヶ台Ⅱ式。H．SZ-01 周溝 7 区検出面。
	21	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節RL縄文タテ施文、隆帯貼付→半截竹管状工具による沈線→竹管状工具による交互刺突文。内面、ヨコ・ナナメナデ。D．石英多・長石・金雲母多・片岩。E．内外一にぶい赤褐色。F．口縁部。G．五領ヶ台Ⅱ式。H．SZ-01 周溝 6 区中層。

表 11　遺構外（2）出土遺物観察表

遺構外	22	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節ＲＬ縄文をタテ施文か→Ｙ字状垂下陸帯を貼付→陸帯脇に丸棒状工具による沈線。D．石英多・金雲母多。E．内外－にぶい赤褐色。F．胴部。G．五領ヶ台Ⅱ式。H．SZ-01 周溝８区上層。
	23	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節ＲＬ縄文タテ施文→半截竹管による懸垂文。内面，ナナメナデ。D．石英多・長石・雲母。E．内外－にぶい赤褐色。F．胴部。G．五領ヶ台Ⅱ式。H．SZ-01 周溝５区１層。
	24	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，口縁部・頸部断面三角形の隆帯によるヨコ区画文→口縁部・胴部に棒状貼付文→隆帯による渦巻文・Ｙ字状懸垂文を施文。内面，ヨコナデ。D．石英・長石・角閃石・チャート・白色粒多。E．内－にぶい黄橙色。外－にぶい褐色。F．口縁～胴部。G．阿玉台Ⅰａ～Ⅰｂ式。H．SZ-01 周溝７区検出面＋８区上層＋８区中層。
	25	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，半截竹管による平行沈線。内面，ヨコミガキ。D．石英・片岩。E．内外－明赤褐色。F．口縁部。G．阿玉台Ⅰｂ式。H．Ａ２地点Ｄ８グリッド。
	26	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，押捺隆帯による楕円形区画文か貼付→隆帯脇にペン先状工具による角押文。内面，ヨコ・ナナメナデ。D．石英多・長石。E．内外－にぶい赤褐色。F．口縁部。G．阿玉台Ⅰａ～Ⅰｂ式。H．SZ-01 周溝８区上層。
	27	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，隆帯貼付→隆帯脇に半截竹管による沈線。内面，ヨコナデ。D．石英・片岩。E．内外－明赤褐色。F．口縁部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝５区下層。
	28	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，竹管状工具によるヨコ有節沈線。ヨコナデ。内面，ヨコナデ。D．石英多・金雲母。E．内外－明赤褐色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ式。H．試掘Tr4-1 地点。
	29	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，半截竹管状工具によるヨコ沈線。内面，ナデ。D．石英多・長石・金雲母。E．内外－にぶい橙色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝７区中層。
	30	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，半截竹管によるタテ平行沈線。内面，ナデ。D．石英多・金雲母。E．内外－にぶい黄橙色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝２区上層。
	31	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，蛇行隆帯貼付→竹管状工具によるヨコ爪形文。内面，ヨコナデ，ミガキ。D．石英・長石・片岩。E．内外－にぶい橙色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝８区中層。
	32	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，竹管状工具によるヨコ爪形文。内面，タテ・ナナメナデ。D．石英・長石・片岩・チャート。E．内外－にぶい橙色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝８区中層。
	33	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，竹管状工具によるヨコ爪形文。内面，ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外－にぶい赤褐色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝５区覆土中。
	34	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，タテ押捺隆帯貼付。内面，ヨコナデ。D．石英・片岩・赤色粒。E．内外－明赤褐色。F．胴部。G．阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式。H．SZ-01 周溝６区中層。
	35	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，隆帯による楕円形区画文→隆帯脇に竹管状工具による幅広の角押文→蕨草文。内面，ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外－にぶい赤褐色。F．胴部。G．勝坂２式。H．SZ-01 周溝覆土中。
	36	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，隆帯によるパネル文→隆帯上面に半截竹管による平行沈線，隆帯上および脇に同様の工具でキザミ。内面，タテ・ヨコミガキ，黒色処理。D．石英・角閃石・片岩・赤色粒。E．内外－赤褐色。F．胴部。G．勝坂２式。H．SZ-01 周溝７区上層。
	37	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，タテ隆帯貼付→丸棒状工具によるナナメ集合沈線→タテ沈線。内面，ナナメミガキ。D．石英・角閃石・チャート。E．内外－明赤褐色。F．胴部。G．勝坂式。H．SZ-01 周溝３区１層。
	38	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，撚糸文Ｌタテ施文。内面，ヨコナデ。D．石英・角閃石・赤色粒。E．内外－にぶい褐色。F．胴部。G．加曽利Ｅⅰ式。H．SZ-01 方台部検出面。
	39	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，撚糸文Ｌタテ施文。内面，ヨコナデ。D．石英多・角閃石。E．内外－橙色。F．胴部。G．加曽利Ｅⅰ式。H．Ａ１地点 S1-02 覆土中。
	40	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，単節ＲＬ縄文タテ施文→３本沈線による規格渦巻文。内面，タテナデ。D．石英多・片岩・チャート。E．内外－にぶい黄橙色。F．胴部。G．加曽利Ｅⅰ式。H．SZ-01 周溝２区検出面。
	41	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，タテ隆帯，沈線，半截竹管によるタテ集合沈線。D．石英多・片岩・チャート。E．内外－橙色。F．胴部。G．加曽利ＥⅡ式並行，内面コゲ付着。H．SZ-01 周溝５区下層。
	42	縄文土器 浅鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，ミガキ。内面，ヨコミガキ，２条のヨコ角押文。D．石英・長石・片岩多。E．内外－明赤褐色。F．口縁部。G．五領ヶ台Ⅱ～阿玉台Ⅰａ式。H．SZ-01 周溝５区１層。
	43	縄文土器 浅鉢	B．粘土紐積み上げ。C．内外面，ヨコミガキ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外－明赤褐色。F．口縁部。G．中期中葉。H．SZ-01 周溝７区検出面。
	44	縄文土器 浅鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，断面三角形の隆帯貼付，ヨコナデ。内面，ヨコナデ，ヨコミガキ。D．石英・雲母・白色粒多。E．内外－橙色。F．口縁部。G．中期中葉。H．SZ-01 周溝７区上層。
	45	縄文土器 浅鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，ヨコナデ。内面，ヨコミガキ。D．石英・長石・片岩。E．内外－橙色。F．口縁部。G．中期中葉。H．SI-08 掘見土中。
	46	縄文土器 浅鉢	B．粘土紐積み上げ。C．内外面，ヨコミガキ。D．石英・チャート・赤色粒。E．内外－浅黄橙。F．口縁部。G．中期中葉。H．SZ-01 周溝２区覆土中。
	47	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面，隆帯貼付→陸帯脇に沈線，無節Ｌ縄文を充填。内面，ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩。E．内外－橙色。F．胴部。G．称名寺Ⅰ式。H．SZ-01 周溝８区上層。

表 12　遺構外 (3) 出土遺物観察表

遺構外	48	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、沈線によるＪ字文。内面、ヨコナデ。D．石英・角閃石・片岩・チャート。E．内外ーにぶい黄橙色。F．胴部。G．称名寺Ⅱ式。H．SZ-01 周溝４区上層。
	49	縄文土器 深鉢	B．粘土紐積み上げ。C．外面、ヨコナデ→斜格子目文。内面、タテナデ。D．石英・片岩・赤色粒。E．内外ー橙色。F．口縁部。G．加曽利Ｂ２式。H．SZ-01 周溝８区上層。
	50	弥生土器 壺	B．粘土紐積み上げ。C．外面、半截竹管状工具によるヨコ区画→懸垂文・円文。内面、ヨコ・ナナメナデ。D．石英多。E．内外ーにぶい黄橙色。F．胴部。G．中期中葉（平沢式系）。H．SZ-01 周溝１区下層。
	51	弥生土器 壺	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＬＲ縄文ヨコ施文、軟質の半截竹管状工具による下開きの連弧文。D．石英・チャート。E．内外ーにぶい黄橙色。F．胴部。G．中期中葉（平沢式系）。H．SZ-01 周溝６区上層。
	52	弥生土器 壺	B．粘土紐積み上げ。C．外面、単節ＬＲ縄文タテ施文、半截竹管状工具による下開きの連弧文。内面、ヨコナデ。D．石英・チャート。E．内外ーにぶい黄橙色。F．胴部。G．中期中葉（平沢式系）。H．SZ-01 周溝７区中層。
	53	須恵器 蓋	A．摘み径 2.9、残存高 1.0。B．ロクロ成形。C．内外面、摘み部回転ナデ。D．石英・長石。E．内ー灰褐色。外ー灰色。F．摘み。H．Ａ１地点 S1-02 視及土中。
	54	須恵器 椀	A．底径 8.2、残存高 3.3。B．ロクロ成形。C．外面、口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り。内面、口縁部～体部回転ナデ。D．石英・片岩・チャート。E．内外ーにぶい黄色。F．底部。H．試掘 Tr18 東ピット覆土中。
	55	石器 石鏃	A．長さ 2.5、幅 1.5、厚さ 0.4、重量 0.95。C．平基。D．チャート。H．SZ-01 周溝２区上層。
	56	石器 石鏃	A．長さ 2.2、幅 1.5、厚さ 0.4、重量 1.0。C．凹基。D．チャート。H．SZ-01 周溝。

表 13　山王山遺跡出土石器類・石製品集計表

	黒曜石	チャート	黒色安山岩	安山岩	頁岩	黒色頁岩	硅質母片岩	緑泥片岩	砂岩	石英	緑色岩類	流紋岩	合計
剥片	4	8		6	24	49	18		8	2			119
砕		1		1	1	10			1				14
石核						1							1
打製石斧				3	1	2		1					7
磨製石斧								1					1
石鏃		4											4
石匙						1							1
剥石							1						1
多孔石				1			1						2
石皿								1					1
台石							2						2
原石		1											1
礫	1	33	1	11	2	2	36	1	4	2	1		94
磨平礫				1			4	1					6
棒状礫							2		1		1		4
礎石				2					1			1	4
火打石										1			1
敲編石				1			43	4		1			49
合計	5	47	1	26	28	65	107	9	15	6	2	1	312

※実測遺物を含めた全点の集計表。未成品を含む。

Ⅵ　まとめ

今回の調査では縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代と多岐にわたる時代の遺構が検出された。その中で特に注目すべきと思われる点に絞って若干の問題を提起することでまとめとしたい。

1　縄文時代中期前葉の集落について

縄文中期前葉の遺構は住居跡１軒（９号住居跡）や土坑群を検出した。本庄市内では当該時期の遺構が少ないため、貴重な調査例となった。これらは五領ヶ台Ⅱ式～阿玉台Ⅰｂ式期を中心とする時期であり、前後の時期の遺物をまじえない。また、９号住居跡の約 13 m 東側には炉として使用したと考えられる同時期の５号土坑があり、繰り返し使用した痕跡が見られることから、短期的ながらも、ある程度の期間定住を前提とした集落と考えられる。さらに、11 号土坑では石鏃の完形品１点が出土したことから土坑墓の可能性がある。このように同時期の住居や炉跡、墓が相互に関連を持つとみなせる状況で検出されたことは興味深い。本遺跡をのせる山王山の南方約 700 m の地点には阿玉台Ⅰｂ式～Ⅱ式期を主体とする児玉大天白遺跡（浅間 2010）があり、縄文中期前葉～中葉にかけての集落の推移を追うことができる。注目すべきは占地傾向の変化であり、中期前葉から中葉にかけて山王山の高所から低地部へと大きく生活環境を変えていることは生業形態や環境などに何らかの大きな変化が生じた結果と考えられる。上武山地の塔之入遺跡（鈴木 2007a）や児玉丘陵の広木上之宿遺跡における阿玉台Ⅰｂ式～Ⅱ式期の遺跡では依然として高所に集落を構えていることから、その変化の要因について今後注意していく必要があるものと思われる。

2　古墳時代前期の周溝墓と集落の関係

古墳時代では方形周溝墓１基（１号方形周溝墓）が検出されたほかに当該期の遺構はなく、当地が墓域として生活領域とは明瞭に区分されていた可能性が高い。１号方形周溝墓は山王山で標高の最も高い位置に築造されており、浅見山丘陵で検出された方形周溝墓群と同様の占地傾向を見せる。ただし、山王山は高所の平坦面が少なく、墓群を築くには狭い場所であるため、墓群があるとすれば生野山丘陵上であろう。また、１号方形周溝墓は出土遺物から前期中葉の鷲山古墳とほぼ同時期の墓と考えられ、相互の関係が気になるところである。

また、これらの墓に対し、前期の集落は生野山遺跡、吉田林割山遺跡など丘陵裾部や丘陵上に小規模な集落が検出されるにすぎない。本遺跡と同様の景観が広がる浅見山丘陵では丘陵北斜面に方形周溝墓群が検出され、それらの墓群を望むように女堀川右岸の自然堤防上には後張遺跡群をはじめとする古墳前期集落が濃密に展開しており、本遺跡周辺とは対照的な様相を呈する。また、後張遺跡群や久下前遺跡、久下東遺跡等での調査成果から、灌漑水田を伴う大規模な低地帯の開発が認められる。一方、生野山丘陵の北西にも低地帯が広がるが、この低地帯の開発は４世紀代に遡る可能性がある（鈴木 2003）ものの、古墳前期に遡るとしても集落規模から大規模な低地帯の開発が行われたとは想定できず、丘陵上の小規模集落は弥生時代後期的な谷水田を生業としていたか、水田稲作の依存度が低い生業形態を想定する必要があろう。ただし、本遺跡の南西に広がる旧児玉町の市街地では調査がほとんど行われていないことから、この地域に前期集落が存在する可能性も残る。

いずれにせよ、生野山丘陵とその周辺では古墳前期集落の形成が低調であり、４世紀中ごろの鷲山古墳からはじまり、５世紀代に物見塚古墳、生野山将軍塚古墳など首長層の墓とみられる古墳が連綿と築造される点から生野山丘陵が首長層の墓域として利用されたために集落の形成が制限されていたのであろう。

3　古代集落の展開

山王山遺跡では11軒の古墳時代終末～奈良・平安時代の竪穴住居跡が確認され、帰属時期の内訳は7世紀後半2軒（SI-06・12）、8世紀前半5軒（SI-01・03～05・08）、8世紀後半～9世紀前半1軒（SI-07）、9世紀前半1軒（SI-02）、9世紀後半2軒（SI-11・13）である。また、掘立柱建物跡SB-01も9世紀代に帰属する。A1地点では8世紀代が主体であり、北側のA2地点では9世紀代の住居跡が主体となるなど時期的な分布の推移もみられる。山王山遺跡の低い部分は丘陵北斜面に展開する御林下遺跡の集落と基本的には同じ集落を構成すると考えられ、この集落（御林下集落）に対峙し、生野山南側の裾部には同時期の古代集落である阿知越遺跡（阿知越集落）が広がっている。両集落とも7世紀後半代に本格的な集住が開始される点は一致しているが、集落の最盛期は御林下集落が8世紀～9世紀代、阿知越集落は9～10世紀代であり、両集落の変遷は必ずしも同調しない。また、長軸7mを超える大型住居の存在や多量の土器・墨書土器等を保有する住居など阿知越集落に有力者層のものとみられる住居が多いという指摘は特筆されよう（鈴木1983・1984、山本2012）。ただし、山王山遺跡でもA1地点3号住居跡など一辺が7mと推定される大型住居が検出されており、御林下集落と阿知越集落は山王山と生野山の間に入り込む谷を取り囲む一つの大きな集落として捉えるべきなのかもしれない。

これらの集落は古墳時代に墓域となっていた丘陵の周辺に進出した集落であり、7世紀後半代にはこれらの墓域に集落を形成する制限が緩くなっていたと考えられる。また、女堀川右岸の低地帯には古代集落が少なく、生野山丘陵一帯に集落が集中することは、丘陵北側に展開する児玉条里および条里水田の開発や九郷用水をはじめとする用水系の整備などと密接に関連しているものと考えられ、本遺跡や生野山を取り巻く古代集落をそれらの開発に深く関わった集落として捉えていく視点が重要であろう。

参考文献

浅間　陽　2010『児玉大天白遺跡』本庄市遺跡調査会報告書第34集　本庄市遺跡調査会

石塚久則ほか　1986『将監塚・縄文時代・』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

上田真由美　1997『広本上之宿遺跡・縄文時代編・』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第185集　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

大熊季広　2002「物見塚古墳の墳形および埴丘規模確認調査」『児玉郡市文化財担当者会会報』第2号

太田博之　2009『雌濠Ⅱ・笠ヶ谷戸・小島本伝』本庄市埋蔵文化財調査報告書第15集　本庄市教育委員会

恋河内昭彦　1990『下大塚遺跡』児玉町文化財調査報告書第11集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

恋河内昭彦　1995a『南共和・新宮遺跡』児玉町文化財調査報告書第6・7集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

恋河内昭彦　1995b『飯玉東Ⅱ・高縄田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴蒔・毛無し風敷・石橋』　児玉町文化財調査報告書第17集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

恋河内昭彦　1996『辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡』児玉町文化財調査報告書第20集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

恋河内昭彦　2001a『女池遺跡・B・D地点の調査・』児玉町文化財調査報告書第35集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

恋河内昭彦　2001b「鷲山古墳の第2次墳形確認調査」『児玉郡市文化財担当者会会報』第1号

恋河内昭彦　2004『女池遺跡・A地点の調査・』児玉町遺跡調査会報告書第16集　児玉町遺跡調査会

駒宮史朗ほか　1977『御林下遺跡』埼玉県遺跡発掘調査報告書第13集　埼玉県教育委員会

昆　彭生　2001『大久保山Ⅸ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告9　早稲田大学出版部

鈴木徳雄　1983『阿知越遺跡Ⅰ』児玉町文化財調査報告書　第3集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

鈴木徳雄　1984『阿知越遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書　第4集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

鈴木徳雄　2003『児玉条里遺跡－吉田林堂ノ西地区－』　児玉町文化財調査報告書　第15集　埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

鈴木徳雄　2007「第Ⅳ章　長神古墳群の形成と共同用益地－児玉郡地域における古墳群の形成（予察）-」『長神古墳群Ⅶ』　本庄市遺跡調査会報告書第14集　本庄市遺跡調査会

鈴木徳雄・尾内俊彦 2007『吉田林割山遺跡』本庄市遺跡調査会報告書　第16集　本庄市遺跡調査会

鈴木徳雄ほか　2007a『塔ノ入遺跡・上武山地における古代集落の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第13集　本庄市遺跡調査会

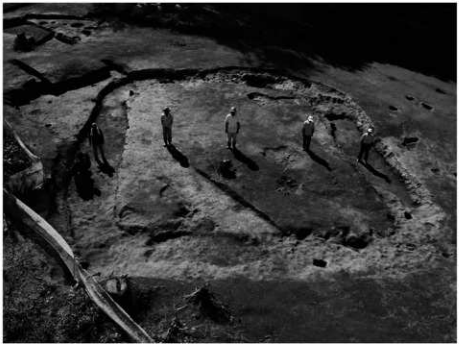
鈴木徳雄ほか　2007b『児玉清水遺跡－A地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第18集　本庄市遺跡調査会

鈴木徳雄ほか　2007c『児玉清水遺跡Ⅱ－B地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第19集　本庄市遺跡調査会

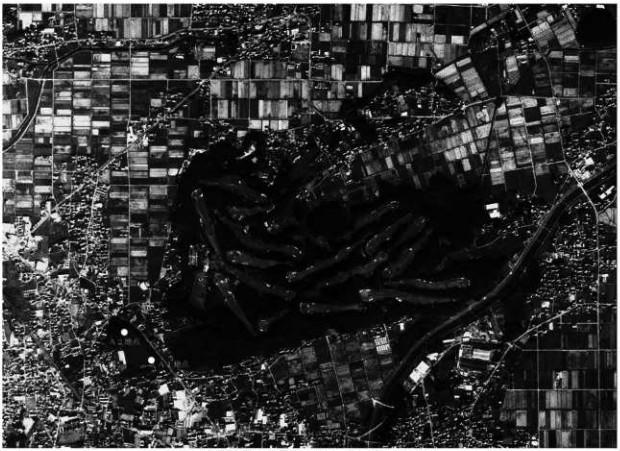
利根川章彦　1998『御林下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第223集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

中束耕志　1993「本庄市宥勝寺北裏遺跡の爪形紋土器」『利根川』14　利根川同人会
松澤浩一　2005『宮内上ノ原遺跡－Ｂ地点の調査－』児玉町遺跡調査会報告書第 18 集　児玉町遺跡調査会
宮井英一ほか　1989『古井戸・調文時代－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 75 集　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
宮田忠洋　2008『宮内上ノ原遺跡－Ｅ地点の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 10 集　本庄市教育委員会
宮田忠洋・高橋清文　2011『新宮遺跡Ⅱ－Ｃ地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第 42 集　本庄市遺跡調査会
宮本久子　2010『秋山大町遺跡－Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地点の調査－』本庄市遺跡調査会報告書第 36 集　本庄市遺跡調査
矢内　熱ほか　2007『平遺跡発掘調査報告書－Ａ～Ｅ地点の調査－』神泉村遺跡調査会文化財調査報告書第 1 集　神泉村遺跡調査会
柳田敏司　1964「埼玉県児玉郡生野山将軍塚古墳発掘調査概報」『上代文化』第 34 輯　国学院大学考古学会
下仁田自然学校鏑川の石図鑑編集委員会　2005『かぶら川石の図鑑』地学団体研究会
松本　完ほか 2009『浅見山Ⅰ遺跡（Ⅲ次）・久下東遺跡（Ⅲ次）Ａ１・B1 地点・北堀久下塚北遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 13 集　本庄市教育委員会
山本千春　2012『阿知越遺跡Ⅲ－Ｃ地点の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 29 集　本庄市教育委員会

写 真 図 版



方形周溝墓 SZ-01 全景 （北東から）



山王山遺跡周辺の景観　（上が北：約 1/30,000）

遺跡遠景　（南東から）

写真図版２

Ａ１地点　調査区全景　（西から）

Ａ２地点　調査区全景　（北東から）

Ａ１地点　SI-01 掘り方全景　（西から）

Ａ１地点　SI-01 遺物出土状態　（西から）

Ａ１地点　SI-01 カマド遺物出土状態　（西から）

Ａ１地点　SI-01 遺物出土状態近景　（北西から）

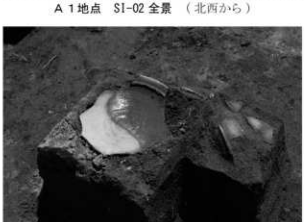
Ａ１地点　SI-02～07 全景　（北西から）

写真図版４

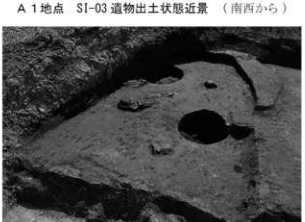
Ａ１地点　SI-02～07 遺物出土状態　（北西から）

Ａ１地点　SI-02 全景　（北西から）

Ａ１地点　SI-03 遺物出土状態近景　（南西から）



Ａ１地点　SI-03 遺物出土状態近景　（北東から）



Ａ１地点　SI-04 全景　（南東から）

Ａ１地点　SI-04 遺物出土状態近景　（東から）

Ａ１地点　SI-06 全景　（東から）

Ａ１地点　SI-06 掘り方遺物出土状態近景（北東から）

Ａ１地点　SI-05・07 全景　（北東から）

Ａ１地点　SI-02 ～ 07 掘り方全景　（南東から）

写真図版６

Ａ２地点　SI-08 全景　（南から）

Ａ２地点　SI-08 カマド全景　（南西から）

Ａ２地点　SI-08 カマド遺物出土状態　（南から）

Ａ２地点　SI-08 掘り方全景　（南から）

Ａ２地点　SI-09 全景　（南から）

Ａ２地点　SI-09 遺物出土状態近景　（北から）

Ａ２地点　SI-10 全景　（南から）

Ａ２地点　SI-10 埋設土器検出状態　（北西から）

Ａ２地点　SI-11 全景　（西から）

Ａ２地点　SI-11 カマド全景　（西から）

Ａ２地点　SI-11 カマド芯材検出状態　（北から）

Ａ２地点　SI-11 掘り方全景　（西から）

Ａ２地点　SI-12 全景　（南西から）

Ａ２地点　SI-12 カマド全景　（南西から）

Ａ２地点　SI-12 遺物出土状態近景　（北から）

Ａ２地点　SI-12 掘り方全景　（南西から）

写真図版８

Ａ２地点　SI-13 全景　（南西から）

Ａ２地点　SI-13 カマド全景　（南西から）

Ａ２地点　SI-13 カマド遺物出土状態　（北東から）

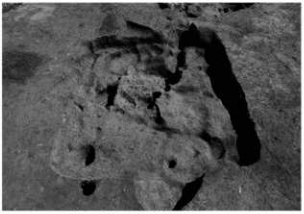
Ａ２地点　SI-13　鉄製品出土状態　（東から）

Ａ２地点　P2 遺物出土状態　（北から）

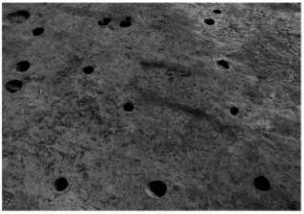
Ａ２地点　SI-13 カマド煙道セクション　（南西から）

Ａ２地点　SI-13 カマド煙道埋設甕検出状態（西から）

Ａ２地点　SI-13 カマド煙道埋設甕検出状態（南西から）

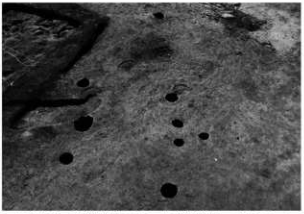


Ａ２地点　SI-13 掘り方全景　（西から）

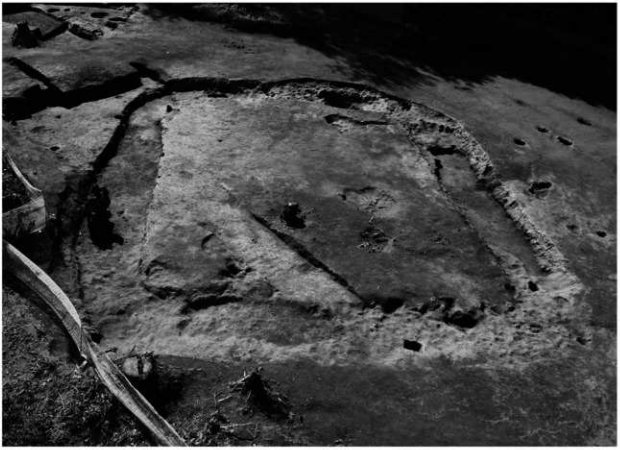


Ａ２地点　SB-01 全景　（北から）

Ａ２地点　下部平坦面ピット群１全景　（北から）



Ａ２地点　下部平坦面ピット群２全景　（東から）



Ａ２地点　SZ-01 全景　（北東から）

写真図版 10

Ａ２地点　SZ-01 全景　（西から）

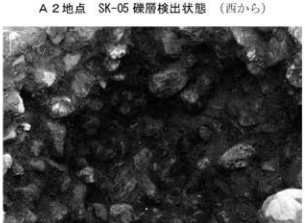
Ａ２地点　SZ-01 周溝セクション　（南西から）

Ａ２地点　SZ-01 西周溝全景　（南西から）

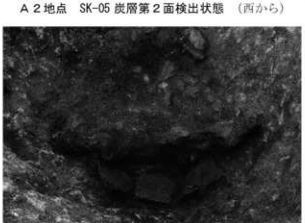
Ａ２地点　SZ-01 南周溝掘り方近景　（西から）

Ａ２地点　SK-05 礫層検出状態　（西から）

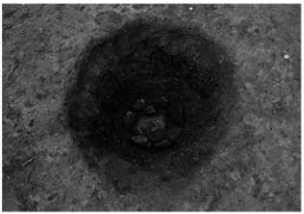
Ａ２地点　SK-05 炭層第２面検出状態　（西から）



Ａ２地点　SK-05 炭層第２面炭化物検出状態（北から）

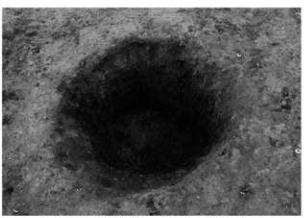


Ａ２地点　SK-05 炭層最下層セクション　（西から）



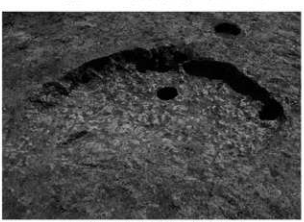
Ａ２地点　SK-05 使用面最古段階全景　（北西から）

Ａ２地点　SK-05 敷設礫検出状態　（西から）

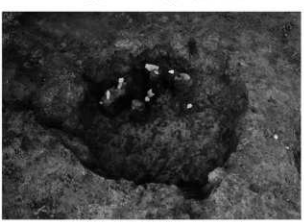


Ａ２地点　SK-05 掘り方全景　（北西から）

Ａ２地点　SK-06 全景　（北から）

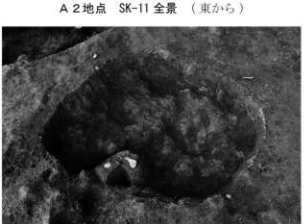


Ａ２地点　SK-07 全景　（北から）



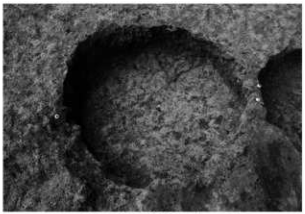
Ａ２地点　SK-11 全景　（東から）

Ａ２地点　SK-12 全景　（東から）



Ａ２地点　SK-14 全景　（東から）

写真図版 12

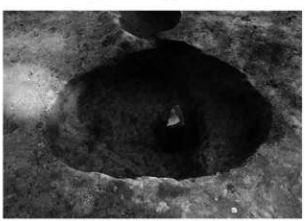


A 2地点　SK-17 全景　（北から）

A 2地点　SK-22 全景　（北から）

A 2地点　SK-23 全景　（西から）

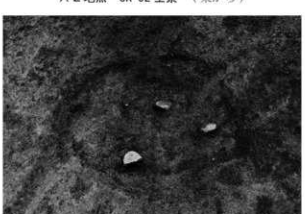
A 2地点　SK-28 全景　（東から）



A 2地点　SK-30 全景　（西から）

A 2地点　SK-32 全景　（東から）

A 2地点　SK-35 全景　（北東から）



A 2地点　SK-38 全景　（北から）

Ａ２地点　SK-41 全景　（東から）

Ａ２地点　下部平坦面土坑群全景　（北東から）

Ａ２地点　SX-01 全景　（南東から）

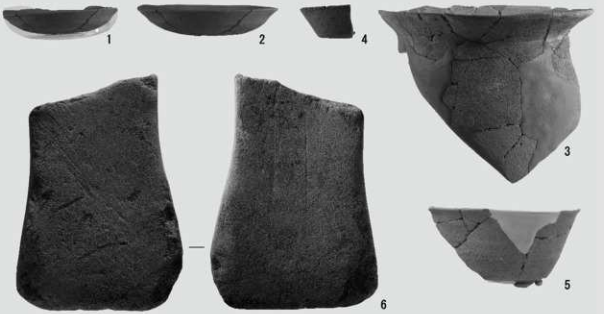
Ａ２地点　埋没谷セクション　（南西から）

Ａ１地点　基本土層②セクション　（南から）

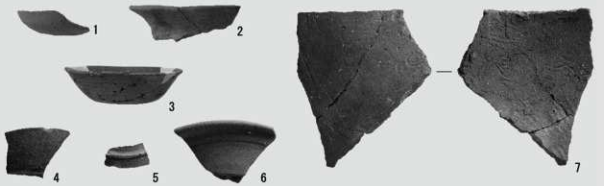
Ａ２地点　旧石器調査トレンチ１セクション（北から）

Ａ２地点　基本土層②セクション　（東から）

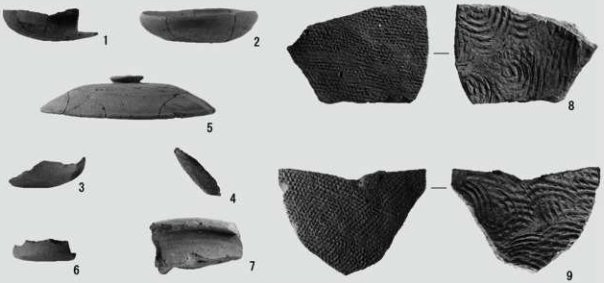
Ａ２地点　調査風景　（西から）



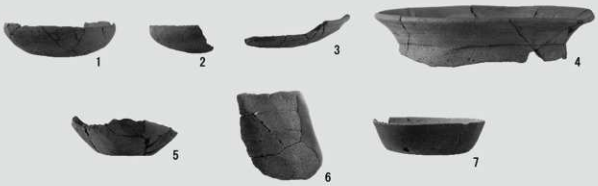
1号住居跡出土遺物



2号住居跡出土遺物



3号住居跡出土遺物



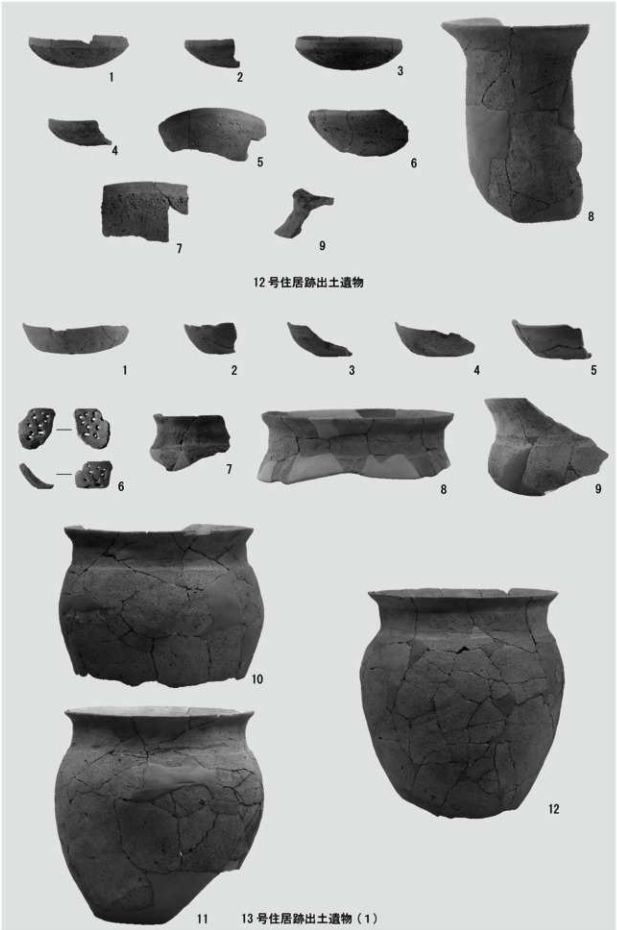
4号住居跡出土遺物

5号住居跡出土遺物

6号住居跡出土遺物

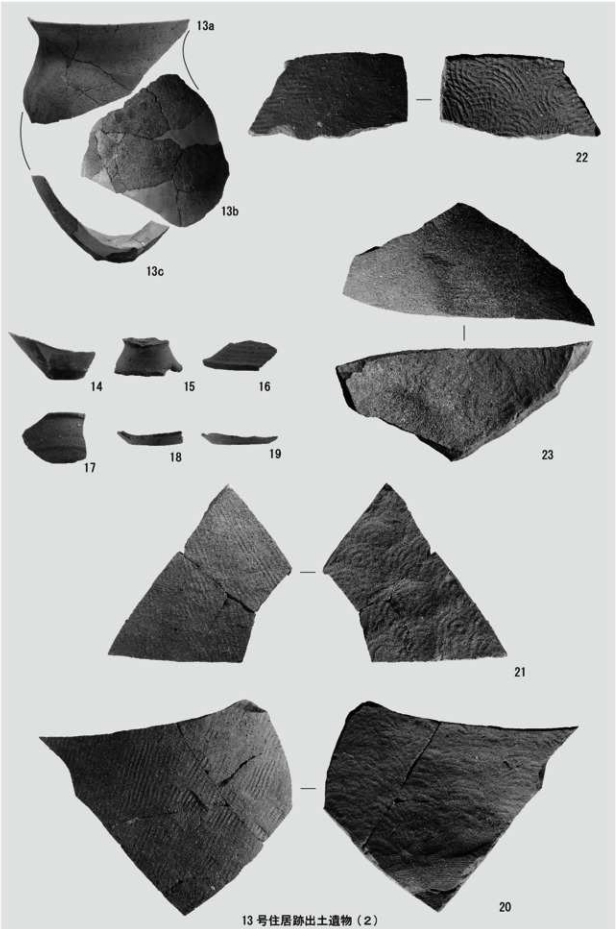
8号住居跡出土遺物

1
2
3
9 号住居跡出土遺物
1b
2
4
5
6
1a
3
7
8
9
10
10 号住居跡出土遺物
1
2
3
4
5
6
7
8
11 号住居跡出土遺物

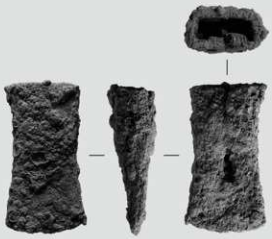


12 号住居跡出土遺物

13 号住居跡出土遺物（1）



13 号住居跡出土遺物（2）



25

26

24

13 号住居跡出土遺物（3）

1

1 号掘立柱建物跡出土遺物

1

9 号ピット出土遺物

1

2

1 号方形周溝墓出土遺物

1

2

3

4

5 号土坑出土遺物

1

2

3

6 号土坑出土遺物

1

2

3

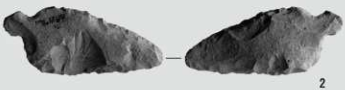
7 号土坑出土遺物

11 号土坑出土遺物

17 号土坑出土遺物

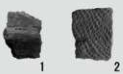
18 号土坑出土遺物

22 号土坑出土遺物



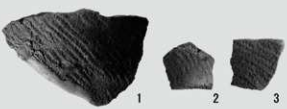
21 号土坑出土遺物

23 号土坑出土遺物



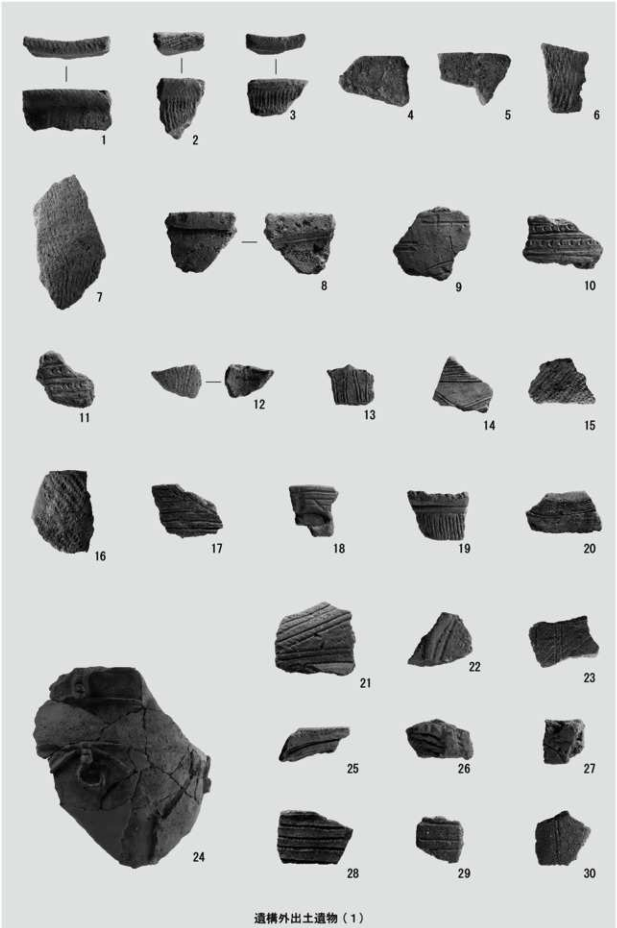
24 号土坑出土遺物

25 号土坑出土遺物

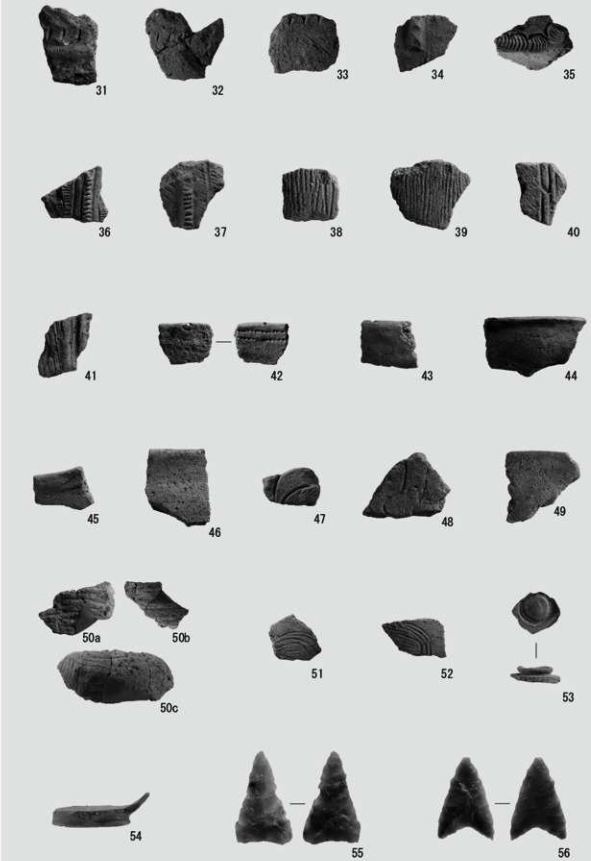


30 号土坑出土遺物

32 号土坑出土遺物


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

遺構外出土遺物（1）


31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50a
50b
50c
51
52
53
54
55
56

遺構外出土遺物（2）

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんのうやまいせき －えーいち・えーにちてんのちょうさ－
書名	山王山遺跡 －Ａ１・Ａ２地点の調査－
副書名	
巻次	
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第40集
編著者名	浅間 陽
編集機関	本庄市教育委員会
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄３丁目５番３号 ℡0495-25-1185
発行年月日	西暦2014（平成26）年３月14日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
山王山遺跡（やまおうやまいせき）	埼玉県本庄市（さいたまけんほんじょうし）児玉町児玉（こだまちょうこだま）2256-1番地、児玉町吉田（よしだ）林935番地ほか	112119	54-041	（Ａ１地点）36°11′34″ （Ａ２地点）36°11′38″	（Ａ１地点）139°8′31″ （Ａ２地点）139°8′26″	（Ａ１地点）20130425～20130513 （Ａ２地点）20130702～20130930	約3,300㎡	工場建設に伴う発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山王山遺跡	集落跡 墳墓	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 近世	竪穴住居跡 13軒 掘立柱建物跡 1棟 方形周溝墓 1基 土坑 41基 ピット 135基 性格不明遺構 1基 埋没谷 1箇所	縄文土器（早期～後期）・弥生土器（中期前半）・土師器・須恵器・石器および石製品（Sc、Bf、打製石斧、石鏃、石匙、凹石、砥石、磨編石）・不明土製品・鉄製品（鉄斧、鉄鏃）	縄文時代前期後半・中期前葉の集落、古墳時代終末～奈良・平安時代の集落を確認。 古墳時代前期の方形周溝墓を検出。

本庄市埋蔵文化財調査報告書　第40集

山王山遺跡

―Ａ１・Ａ２地点の調査―

平成26年3月7日　印刷
平成26年3月14日　発行

発行／本庄市教育委員会
〒367-8501　埼玉県本庄市本庄３丁目５番３号
電話　0495-25-1185

印刷／朝日印刷工業株式会社